

鳥取県がん検診実績報告書

平成28年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

はじめに

本県は、平成25年度から29年度までに作成された「第二次鳥取県がん対策推進計画」の全体目標として「がんによる75歳未満の死亡率20%減少」を掲げ、早期発見のため各がん検診の受診率を50%まで引き上げることを目標としています。

本県におけるがん死亡率が高い要因としては、肝臓、胃、肺がんの罹患率、死亡率が共に高く、特に男性の死亡率が高いことから、肝臓がんでは肝炎ウイルス陽性率がB型、C型ともに高いこと、肺がんについては喫煙が大きく影響していると思われます。また、乳がんの死亡率は上昇傾向にあります。

県では、死亡率減少対策として、肝炎ウイルス検査受診機会の拡大、肝炎医療費助成、禁煙治療費助成事業等に取り組んでいますが、直ぐには成果に繋がっておらず、がん死亡率が2年連続のワースト3位と、いささか不名誉な結果が出ております。

がん検診受診率については、無料クーポン券補助事業、休日検診補助事業等が拡充され、受診者数は年々増加傾向にあり、平成26年度の胃、子宮、肺、乳、大腸がん検診総受診者は延べ約21万人で、平成22年度の総受診者延べ約18万4千人に対し、5年間で約2万6千人増加しており、一定の効果がでています。しかしながら、各がん検診の受診率は25%~30%で推移しており、依然として受診率の目標値50%達成には難しい状況にあります。

ただし、国が示すプロセス指標と本県の各がん検診実績との比較を行ったところ、受診率の目標値50%達成はどの検診でも難しい状況の中、本県では全国平均に比べ約10ポイント上回る良い実績であります。

要精検率は胃がん、子宮がん、乳がん検診においては、それぞれの指標をクリアしていますが、肺がん検診は国の要精検率許容値3.0%以下に対し、本県は4.3%と高く、大腸がん検診においても国の要精検率許容値7.0%以下に対し、本県は9.3%と高くなっています。しかしながら、肺がん、大腸がんともに、陽性反応的中度、がん発見率が高いことを踏まえると、検診の精度に問題はないと思われます。

精検受診率は、国の目標値90%以上には乳がん検診のみが達しています。その他の検診においても、許容値70%以上はクリアしています。陽性反応適中度、がん発見率はどの検診においても高い（良好な）数値を継続しており、本県はおおむね精度の高い検診がおこなわれていると思われます。

平成27年度、国の検診指針が見直され、平成29年度から一部のがん検診の実施方法が変わります。またこの見直しにあたり、対策型検診に胃がん内視鏡検診が推奨されることになりましたが、これは鳥取県における永年にわたる胃がん内視鏡検診の実績が評価された結果であり、誇りに思うところであります。

平成28、29年度にかけて、「第三次鳥取県がん対策推進計画」の内容が検討されます。鳥取県健康対策協議会においても、引き続き、鳥取県のがん検診の精度管理、指導を行いながら、既存のデータ解析だけでは掴みきれない点については、新たな視点を加えながら、総合的ながん対策の検討を行って参りたいと存じますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

例年どおり平成27年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。がん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸甚です。

平成28年3月

鳥取県健康対策協議会

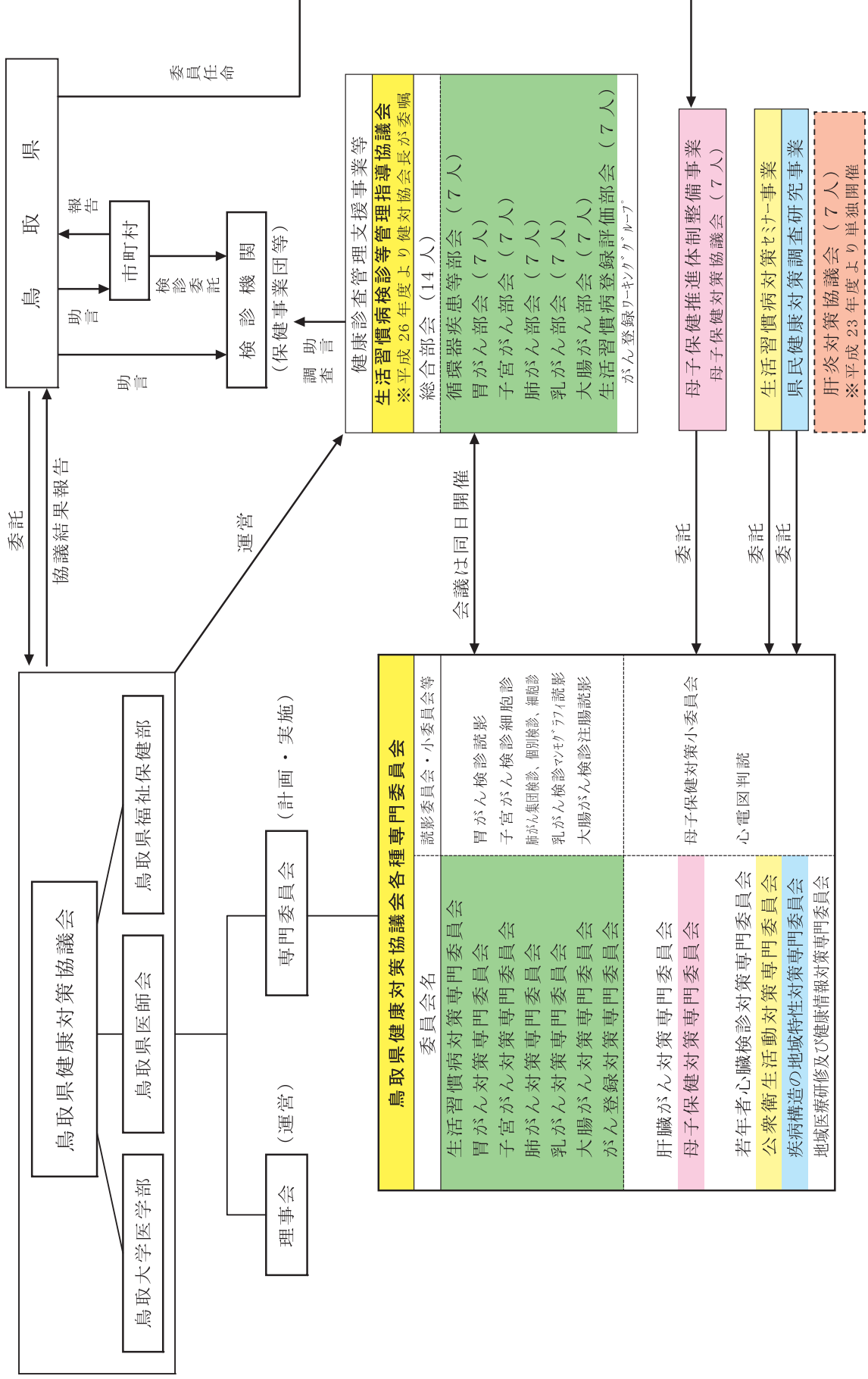
会長 魚谷 純

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成26年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	45
5. 大腸がん検診	53
6. 肝臓がん検診	63
7. 全国がん検診実績との比較	75
III. 平成27年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	80
2. 子宮がん検診症例研究会報告	82
3. 肺がん検診症例研究会報告	84
4. 乳がん検診症例研究会報告	86
5. 大腸がん検診症例研究会報告	88
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	90
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	94
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	95

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 平成26年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 が ん 検 診

1. 胃がん検診実績

平成26年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は190,556人のうち、受診者数はX線検査13,801人、内視鏡検査は35,404人で合計49,205人、受診率は25.8%で前年度より1,338人、0.7ポイント増加した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は72.0%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数82,800人、受診者数26,972人、受診率32.6%で、全国平均（平成25年度）受診率9.6%に比較し高い。

検査の結果、胃がんであった者は178人で、（X線検査25人、内視鏡検査153人）、がん発見率は0.36%であった。平成24年度全国平均がん発見率0.16%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.18%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.43%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査2.1%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ9.6%であった。

確定調査の結果、確定癌は181例、発見癌率は0.37%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は13,801人で、受診率は7.2%である。一次検診の要精検査者は1,181人で、要精検査率は8.6%で、前年度より0.1ポイント増加した。精検受診者数985人、精検受診率は83.4%で前年度より1.8ポイント増加した。車検診の要精検査率8.0%。施設検診は11.0%で、依然として中部が18.8%と高いが、前年度より4.5ポイント低下した。

精検結果は、胃がんであった者は25人で、胃がん発見率は0.18%であった。

国はプロセス指標として、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、施設検診におけるX線検査では要精検査率が高く、また、よりきれいな写真を撮る技術指導が必要である。

(2) 内視鏡検査は、16市町村で実施され、受診者数は35,404人で、検査結果は胃がんであった者は153人、発見率は0.43%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,597人で、組織診実施率4.5%、東部5.2%、中部4.3%、西部3.8%で地域格差がある。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は9.6%で、東部7.9%、中部10.4%、西部11.5%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	が ん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	13,801 (28.0%)	25	0.181
内視鏡検診	16	3	35,404 (72.0%)	153	0.432
計			49,205 (100%)	178	0.362

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	11,373 (82.4%)	913	8.0	8.3	8.6	6.9
施 設 検 診 (病院・診療所)	2,428 (17.6%)	268	11.0	11.9	18.8	9.3
計	13,801 (100%)	1,181	8.6	9.2	8.8	7.5

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	767	84.0	19	0.167	0.201	0.194	0.091
施 設 検 診	218	81.3	6	0.247	0.208	2.083	0.213
計	985	83.4	25	0.181	0.203	0.219	0.118

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	9,766	499	30	0.307	0.274	0.361	0.353
診 療 所	25,638	1,098	123	0.480	0.507	0.488	0.457
計	35,404	1,597	153	0.432	0.417	0.449	0.441

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東 部	5,921	545	9.2	452	82.9	12	0.203
中 部	3,658	321	8.8	279	86.9	8	0.219
西 部	4,222	315	7.5	254	80.6	5	0.118
計	13,801	1,181	8.6	985	83.4	25	0.181

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東 部	15,106	793	5.2	63	0.417	7.9
中 部	5,347	230	4.3	24	0.449	10.4
西 部	14,951	574	3.8	66	0.441	11.5
計	35,404	1,597	4.5	153	0.432	9.6

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成26年度に発見された胃がん及び胃がん疑い229例について確定調査を行った結果、確定胃がんは181例（一次検査がX線検査：車検診21例、施設検診6例、一次検査が内視鏡検査：154例）であった。発見癌率は0.368%であった。がん疑いのうち、最終診断では腺腫、瘢痕性胃潰瘍、食道癌等であった。

調査結果は以下のとおりである。

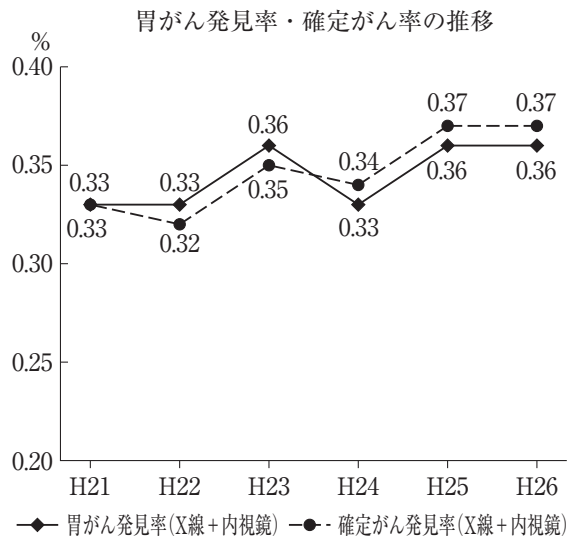
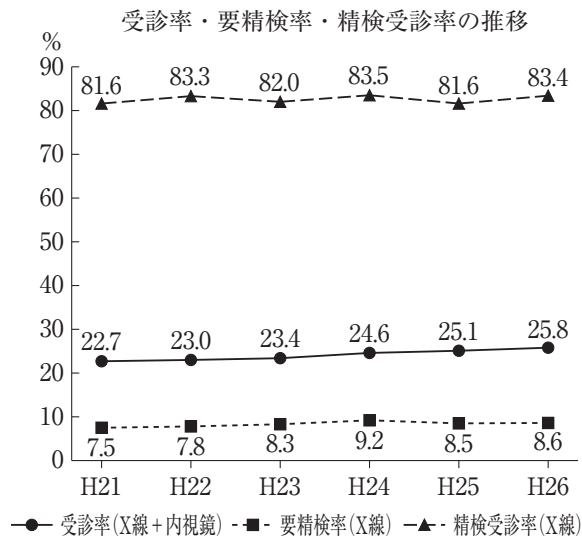
- (1) 早期癌は144例、進行癌は37例であった。早期癌率は79.6%で、東部81.9%、中部77.1%、西部78.4%であった。
- (2) 切除例は170例で、そのうち内視鏡切除が67例で全体の約4割を占めている。非切除例が11例で、手術拒否2例、手術不能7例、転院等2名であった。
- (3) 性・年齢別では、男性119例、女性62例であった。70歳代が多い。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が64.6%で大半を占めている。進行癌の肉眼分類は例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以内が48.8%であった。内視鏡検査では2cm以内が51.4%で、小さいものが見つかる。5cm以上のものは15例ある。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが17例で65.4%、内視鏡検査ではstage I Aが114例で78.08%であった。例年通りの傾向である。
- (7) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部5件、中部3例、西部6件の計14件で、前年度7例に比べ倍増した。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討していただく。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		21 年 度			22 年 度			23 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			188,186			188,186			190,556
	受 診 者 数(人) B	17,352	25,449	42,801	16,082	27,214	43,296	15,080	29,435	44,515
	受 診 率(%) C = B/A	9.2	13.5	22.7	8.5	14.5	23.0	8.0	15.6	23.4
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	16,052			14,823			13,833		
	要 精 検 者 数(人) E	1,300			1,259			1,247		
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値1.0%以下	7.5			7.8			8.3		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,061			1,049			1,022		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	81.6			83.3			82.0		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	29(6)	114(35)	143(41)	23(2)	119(35)	142(37)	24(5)	135(50)	159(55)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.11%以上	0.17	0.45	0.33	0.14	0.44	0.33	0.16	0.46	0.36
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.0%以上	2.2			1.8			1.9		
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	28	113	141	22	116	138	24	133	157
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.16	0.44	0.33	0.14	0.43	0.32	0.16	0.45	0.35

区 分		24 年 度			25 年 度			26 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			190,556			190,556			190,556
	受 診 者 数(人) B	15,251	31,711	46,962	14,303	33,564	47,867	13,801	35,404	49,205
	受 診 率(%) C = B/A	8.0	16.6	24.6	7.5	17.6	25.1	7.2	18.6	25.8
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	13,855			13,083			12,620		
	要 精 検 者 数(人) E	1,396			1,220			1,181		
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値1.0%以下	9.2			8.5			8.6		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,166			996			985		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	83.5			81.6			83.4		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	33(0)	124(78)	157(78)	27(5)	144(55)	171(60)	25(3)	153(48)	178(51)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.11%以上	0.22	0.39	0.33	0.19	0.43	0.36	0.18	0.43	0.36
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.0%以上	2.4			2.2			2.1		
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	30	128	158	29	146	175	27	154	181
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.20	0.40	0.34	0.20	0.43	0.37	0.20	0.43	0.37

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成26年度胃がんX線検査結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	303	617	14.0	15.2	14.8	17	12	286	605	5.6	1.9	3.2
45～49歳	2,326	3,853	239	510	10.3	13.2	12.1	13	18	226	492	5.4	3.5	4.1
50～54歳	3,058	4,974	274	578	9.0	11.6	10.6	21	26	253	552	7.7	4.5	5.5
55～59歳	4,908	8,189	373	892	7.6	10.9	9.7	35	42	338	850	9.4	4.7	6.1
60～64歳	9,854	13,797	877	1,383	8.9	10.0	9.6	124	108	753	1,275	14.1	7.8	10.3
65～69歳	11,061	14,574	1,236	1,532	11.2	10.5	10.8	149	114	1,087	1,418	12.1	7.4	9.5
70～74歳	11,588	16,049	938	1,206	8.1	7.5	7.8	121	90	817	1,116	12.9	7.5	9.8
75～79歳	11,797	17,672	712	914	6.0	5.2	5.5	87	74	625	840	12.2	8.1	9.9
80歳以上	15,558	35,092	578	639	3.7	1.8	2.4	62	68	516	571	10.7	10.6	10.7
計	72,308	118,248	5,530	8,271	7.6	7.0	7.2	629	552	4,901	7,719	11.4	6.7	8.6
合 計	190,556		13,801		7.2			1,181		12,620		8.6		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f/d			精密検査結果								胃がん発見率 (%) i = h/b			陽性反応適中度 (%) j = h/d		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
40～44歳	11	10	64.7	83.3	72.4	2	2	9	8	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	10	15	76.9	83.3	80.6	1	4	9	11	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	16	21	76.2	80.8	78.7	4	5	12	16	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	27	34	77.1	81.0	79.2	8	7	18	27	0	0	1	0	0.268	0.000	0.079	2.9	0.0	1.3
60～64歳	85	93	68.5	86.1	76.7	8	14	75	79	0	0	2	0	0.228	0.000	0.088	1.6	0.0	0.9
65～69歳	118	108	79.2	94.7	85.9	11	16	99	90	1	0	7	2	0.566	0.131	0.325	4.7	1.8	3.4
70～74歳	96	84	79.3	93.3	85.3	14	20	77	63	0	0	5	1	0.533	0.083	0.280	4.1	1.1	2.8
75～79歳	76	68	87.4	91.9	89.4	9	13	65	52	0	0	2	3	0.281	0.328	0.308	2.3	4.1	3.1
80歳以上	54	59	87.1	86.8	86.9	8	9	43	49	2	0	1	1	0.173	0.156	0.164	1.6	1.5	1.5
計	493	492	78.4	89.1	83.4	65	90	407	395	3	0	18	7	0.325	0.085	0.181	2.9	1.3	2.1
合 計	985		83.4			155		802		3		25		0.181			2.1		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

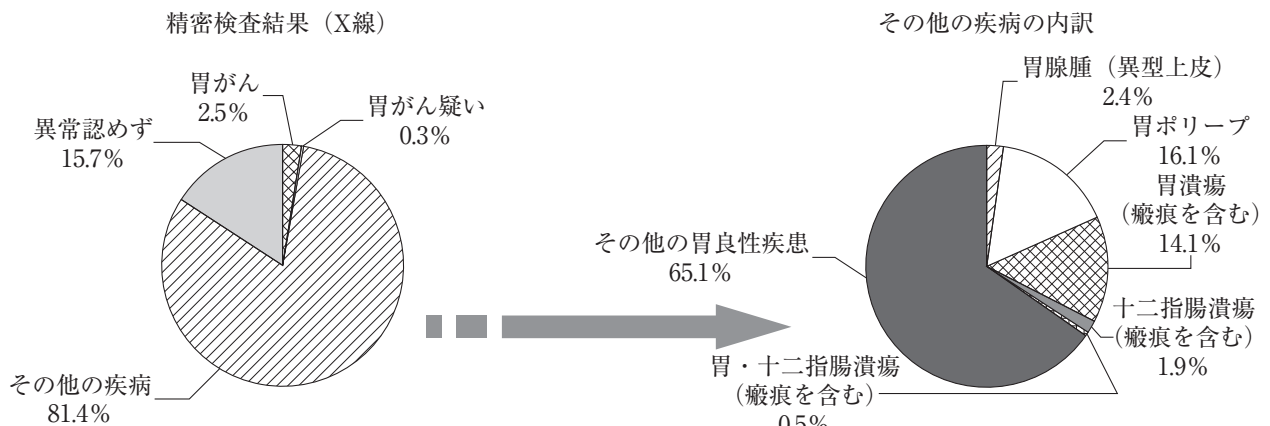
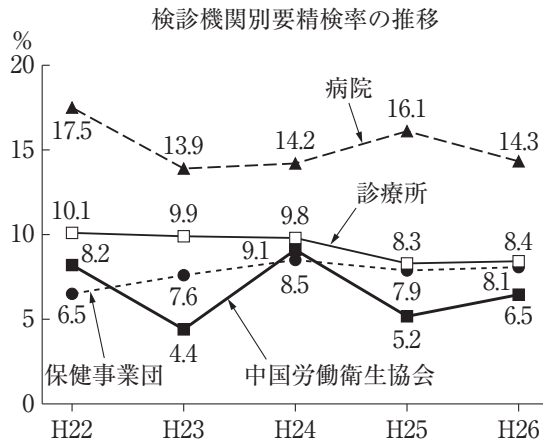
一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	4,406	6,626	485	406	3,921	6,220	11.0	6.1	8.1
中国労働衛生協会	150	191	16	6	134	185	10.7	3.1	6.5
病 院	414	661	74	80	340	581	17.9	12.1	14.3
診 療 所	560	793	54	60	506	733	9.6	7.6	8.4
計	5,530	8,271	629	552	4,901	7,719	11.4	6.7	8.6
合 計	13,801		1,181		12,620		8.6		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	異 常 認 め ず		その 他 の 疾 病		胃 が ん 疑 い		胃 が ん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	380	367	78.4	90.4	83.8	55	67	308	295	3	0	14	5	0.318	0.075	0.172	2.9	1.2	2.1
中国労働衛生協会	15	5	93.8	83.3	90.9	4	1	11	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車 検 診 小 計	395	372	78.8	90.3	84.0	59	68	319	299	3	0	14	5	0.307	0.073	0.167	2.8	1.2	2.1
病 院	57	66	77.0	82.5	79.9	4	15	52	51	0	0	1	0	0.242	0.000	0.093	1.4	0.0	0.6
診 療 所	41	54	75.9	90.0	83.3	2	7	36	45	0	0	3	2	0.536	0.252	0.370	5.6	3.3	4.4
施設検診小計	98	120	76.6	85.7	81.3	6	22	88	96	0	0	4	2	0.411	0.138	0.247	3.1	1.4	2.2
計	493	492	78.4	89.1	83.4	65	90	407	395	3	0	18	7	0.325	0.085	0.181	2.9	1.3	2.1
合 計	985		83.4			155		802		3		25		0.181			2.1		

・ 検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
保健事業団	6.5	7.6	8.5	7.9	8.1
中国労働衛生協会	8.2	4.4	9.1	5.2	6.5
車 検 診 小 計	6.5	7.6	8.6	7.8	8.0
病 院	17.5	13.9	14.2	16.1	14.3
診 療 所	10.1	9.9	9.8	8.3	8.4
施設検診小計	12.3	11.1	11.5	11.5	11.0
合 計	7.8	8.3	9.2	8.5	8.6



4) 平成26年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数			受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員									
	A	B	C	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異常認めず	その他の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度	
鳥取市	57,433	2,301	1,258	3,559	6.2	183	149	332	9.3	276	83.1	29	239	0	8	247	0.225	2.4		
米子市	42,442	662	763	1,425	3.4	39	75	114	8.0	99	86.8	14	82	0	3	85	0.211	2.6		
倉吉市	17,700	1,023	28	1,051	5.9	87	7	94	8.9	84	89.4	19	61	0	4	65	0.381	4.3		
境港市	11,307	144	148	292	2.6	8	9	17	5.8	17	100.0	2	15	0	0	15	0.000	0.0		
岩美町	4,844	607	0	607	12.5	63	0	63	10.4	50	79.4	0	48	0	2	50	0.329	3.2		
八頭町	6,534	1,168	47	1,215	18.6	95	6	101	8.3	85	84.2	13	71	0	1	72	0.082	1.0		
若桜町	1,776	235	8	243	13.7	17	0	17	7.0	14	82.4	1	13	0	0	13	0.000	0.0		
智頭町	3,263	170	127	297	9.1	15	17	32	10.8	27	84.4	1	24	1	1	26	0.337	3.1		
湯梨浜町	5,964	638	5	643	10.8	50	1	51	7.9	44	86.3	9	34	0	1	35	0.156	2.0		
三朝町	2,767	394	0	394	14.2	30	0	30	7.6	30	100.0	9	21	0	0	21	0.000	0.0		
北栄町	5,729	681	6	687	12.0	59	1	60	8.7	49	81.7	13	35	1	0	36	0.000	0.0		
琴浦町	7,221	874	9	883	12.2	86	0	86	9.7	72	83.7	18	50	1	3	54	0.340	3.5		
南部町	4,221	298	21	319	7.6	26	2	28	8.8	13	46.4	2	11	0	0	11	0.000	0.0		
伯耆町	4,533	623	0	623	13.7	45	0	45	7.2	31	68.9	4	27	0	0	27	0.000	0.0		
日吉津村	995	163	8	171	17.2	10	1	11	6.4	10	90.9	2	6	0	2	8	1.170	18.2		
大山町	7,503	544	0	544	7.3	41	0	41	7.5	37	90.2	10	27	0	0	27	0.000	0.0		
日南町	2,966	363	0	363	12.2	24	0	24	6.6	22	91.7	4	18	0	0	18	0.000	0.0		
日野町	1,783	252	0	252	14.1	15	0	15	6.0	7	46.7	0	7	0	0	7	0.000	0.0		
江府町	1,575	233	0	233	14.8	20	0	20	8.6	18	90.0	5	13	0	0	13	0.000	0.0		
合計	190,556	11,373	2,428	13,801	7.2	913	268	1,181	8.6	985	83.4	155	802	3	25	830	0.181	2.1		
東部	73,850	4,481	1,440	5,921	8.0	373	172	545	9.2	452	82.9	44	395	1	12	408	0.203	2.2		
中部	39,381	3,610	48	3,658	9.3	312	9	321	8.8	279	86.9	68	201	2	8	211	0.219	2.5		
西部	77,325	3,282	940	4,222	5.5	228	87	315	7.5	254	80.6	43	206	0	5	211	0.118	1.6		

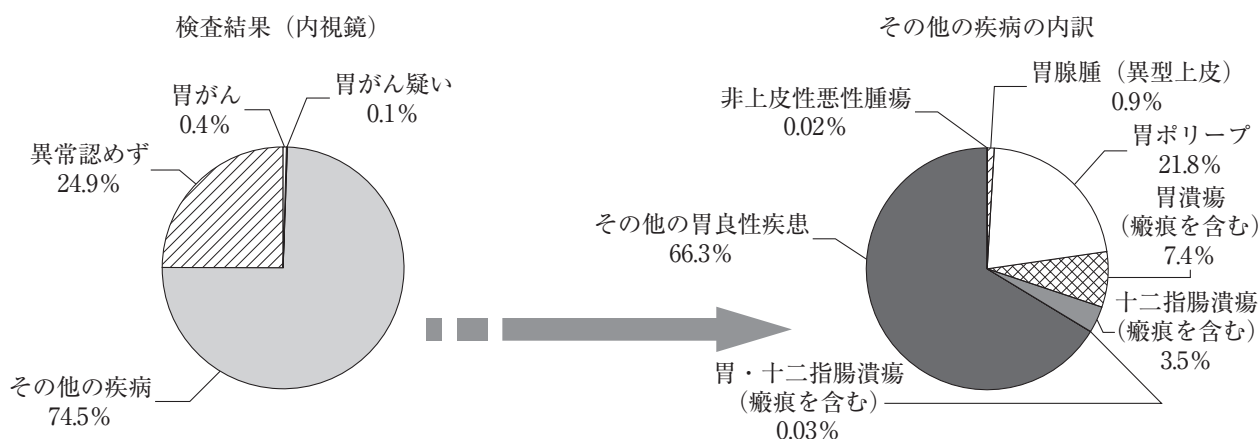
(3) 平成26年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b		c = b / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	491	816	234	369	257	446	0	0	0	1	0.000	0.123	0.077
45～49歳	401	818	143	301	258	515	0	0	0	2	0.000	0.244	0.164
50～54歳	459	1,067	138	353	320	713	1	0	0	1	0.000	0.094	0.066
55～59歳	733	1,559	222	463	505	1,093	1	1	5	2	0.682	0.128	0.305
60～64歳	1,855	2,893	438	845	1,398	2,043	8	3	11	2	0.593	0.069	0.274
65～69歳	2,995	4,071	640	1,073	2,332	2,986	3	4	20	8	0.668	0.197	0.396
70～74歳	3,006	4,033	540	969	2,429	3,047	6	8	31	9	1.031	0.223	0.568
75～79歳	2,106	3,046	392	696	1,695	2,335	3	2	16	13	0.760	0.427	0.563
80歳以上	2,045	3,010	384	633	1,640	2,358	3	5	18	14	0.880	0.465	0.633
計	14,091	21,313	3,131	5,702	10,834	15,536	25	23	101	52	0.717	0.244	0.432
合 計	35,404		8,833		26,370		48		153		0.432		

2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	4,077	5,689	839	1,247	3,209	4,424	9	8	20	10	0.491	0.176	0.307
診療所	10,014	15,624	2,292	4,455	7,625	11,112	16	15	81	42	0.809	0.269	0.480
計	14,091	21,313	3,131	5,702	10,834	15,536	25	23	101	52	0.717	0.244	0.432
合計	35,404		8,833		26,370		48		153		0.432		



3) 平成26年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	がん 発見 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	13,050	674	5.2	2,276	10,701	16	57	10,774	0.437	8.5
米子市	10,661	302	2.8	2,262	8,342	8	49	8,399	0.460	16.2
倉吉市	1,905	111	5.8	1,253	642	3	7	652	0.367	6.3
境港市	2,400	136	5.7	419	1,972	1	8	1,981	0.333	5.9
岩美町	344	31	9.0	15	327	0	2	329	0.581	6.5
八頭町	893	56	6.3	136	752	1	4	757	0.448	7.1
若桜町	258	11	4.3	28	229	1	0	230	0.000	0.0
智頭町	561	21	3.7	4	556	1	0	557	0.000	0.0
湯梨浜町	944	67	7.1	623	313	3	5	321	0.530	7.5
三朝町	228	3	1.3	155	71	0	2	73	0.877	66.7
北栄町	941	49	5.2	595	340	5	1	346	0.106	2.0
琴浦町	1,329	0	0.0	647	667	6	9	682	0.677	0.0
南部町	1,269	116	9.1	278	982	3	6	991	0.473	5.2
伯耆町	340	6	1.8	25	314	0	1	315	0.294	16.7
日吉津村	33	4	12.1	2	31	0	0	31	0.000	0.0
大山町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	248	10	4.0	115	131	0	2	133	0.806	20.0
合計	35,404	1,597	4.5	8,833	26,370	48	153	26,571	0.432	9.6
東 部	15,106	793	5.2	2,459	12,565	19	63	12,647	0.417	7.9
中 部	5,347	230	4.3	3,273	2,033	17	24	2,074	0.449	10.4
西 部	14,951	574	3.8	3,101	11,772	12	66	11,850	0.441	11.5

(4) 平成26年度胃がん検診受診状況 (X線+内視鏡)

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果+内視鏡検査結果					
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K = I / D
鳥取市	57,433	3,559	13,050	16,609	28.9	2,305	10,940	16	65	11,021	0.391
米子市	42,442	1,425	10,661	12,086	28.5	2,276	8,424	8	52	8,484	0.430
倉吉市	17,700	1,051	1,905	2,956	16.7	1,272	703	3	11	717	0.372
境港市	11,307	292	2,400	2,692	23.8	421	1,987	1	8	1,996	0.297
岩美町	4,844	607	344	951	19.6	15	375	0	4	379	0.421
八頭町	6,534	1,215	893	2,108	32.3	149	823	1	5	829	0.237
若桜町	1,776	243	258	501	28.2	29	242	1	0	243	0.000
智頭町	3,263	297	561	858	26.3	5	580	2	1	583	0.117
湯梨浜町	5,964	643	944	1,587	26.6	632	347	3	6	356	0.378
三朝町	2,767	394	228	622	22.5	164	92	0	2	94	0.322
北栄町	5,729	687	941	1,628	28.4	608	375	6	1	382	0.061
琴浦町	7,221	883	1,329	2,212	30.6	665	717	7	12	736	0.542
南部町	4,221	319	1,269	1,588	37.6	280	993	3	6	1,002	0.378
伯耆町	4,533	623	340	963	21.2	29	341	0	1	342	0.104
日吉津村	995	171	33	204	20.5	4	37	0	2	39	0.980
大山町	7,503	544	0	544	7.3	10	27	0	0	27	0.000
日南町	2,966	363	0	363	12.2	4	18	0	0	18	0.000
日野町	1,783	252	0	252	14.1	0	7	0	0	7	0.000
江府町	1,575	233	248	481	30.5	120	144	0	2	146	0.416
合計	190,556	13,801	35,404	49,205	25.8	8,988	27,172	51	178	27,401	0.362
東部	73,850	5,921	15,106	21,027	28.5	2,503	12,960	20	75	13,055	0.357
中部	39,381	3,658	5,347	9,005	22.9	3,341	2,234	19	32	2,285	0.355
西部	77,325	4,222	14,951	19,173	24.8	3,144	11,978	12	71	12,061	0.370

(5) 平成26年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 数	10	3	59	8	1	26	3	2	69	181
癌 発 見 率 %	0.223	0.208	0.391	0.222	2.083	0.486	0.091	0.213	0.462	
	72 0.342			35 0.389			74 0.386			0.368
早 期 癌 数	9	1	49	4	1	22	2	0	56	144
早 期 癌 率 %	59 81.9			27 77.1			58 78.4			
進 行 癌 数	1	2	10	4	0	4	1	2	13	37
切 除 例	6	2	27	7	1	16	2	2	40	103
内 視 鏡 切 除 例	4	0	28	1	0	8	1	0	25	67
非 切 除 例	0	1	4	0	0	2	0	0	4	11

手術不能：7 手術拒否：2（88才 94才）転院等：2

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	7	41	52	19	119
女	2	3	14	28	15	62

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	1	0	3	0	0	0	0	0	1	5	3.5%
IIa	1	0	11	1	1	2	0	0	5	21	14.6%
IIc	5	1	28	2	0	17	1	0	39	93	64.6%
IIc+III	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
IIa+IIc	1	0	2	0	0	2	0	0	6	11	7.6%
そ の 他	1	0	5	1	0	1	1	0	4	13	9.0%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.7%
計	9	1	49	4	1	22	2	0	56	144	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4	10.8%
2	0	1	4	2	0	2	0	1	3	13	35.1%
3	0	0	1	0	0	1	0	1	1	4	10.8%
4	1	0	2	0	0	0	0	0	1	4	10.8%
5	0	0	1	2	0	0	0	0	5	8	21.6%
不 明	0	1	2	0	0	1	0	0	0	4	10.8%
計	1	2	10	4	0	4	1	2	13	37	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1a	9	0	35	3	1	16	1	0	36	101
t1b	0	1	13	1	0	6	1	0	19	41
t2	0	0	4	3	0	2	0	1	5	15
t3	1	0	2	1	0	0	0	1	2	7
t4a	0	1	2	0	0	0	1	0	3	7
t4b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	2	56	8	1	24	3	2	65	171
不 明	0	1	3	0	0	2	0	0	4	10

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	1	6	7	33.3%	10	4	21	0
施	1	1	2	40.0%	2	1	5	1
内	34	37	71	51.4%	57	10	138	16
計	36	44	80	48.8%	69	15	164	17

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	25
M	11	2	48
L	4	0	51
全 体	0	0	0
計	15	2	124
不 明	0	0	3

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	3	1	52
大 弯	1	0	19
前 壁	2	0	22
後 壁	8	1	28
全 周	0	0	1
計	14	2	122
不 明	1	0	5

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	9
M	5	1	13
L	1	2	4
全 体	0	0	0
計	6	3	26
不 明	0	1	1

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	5	0	9
大 弯	0	0	4
前 壁	0	0	5
後 壁	1	2	4
全 周	0	1	1
計	6	3	23
不 明	0	1	4

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線		内	
I A	9	1	43	4	1	19	2	0	52	15	2	114	17	65.4%	114	78.08%
I B	0	0	7	2	0	3	0	2	6	2	2	16	4	15.4%	16	10.96%
II A	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0.0%	3	2.05%
II B	1	0	1	2	0	0	0	0	2	3	0	3	3	11.5%	3	2.05%
III A	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1	1	2	2	7.7%	2	1.37%
III B	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0.0%	2	1.37%
III C	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%	1	0.68%
IV	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	5	0	0.0%	5	3.42%
計	10	2	54	8	1	24	3	2	68	21	5	146	26	100.0%	146	100.0%
不明	0	1	5	0	0	2	0	0	1	0	1	8	1		8	

表9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検 診	年 齢	性 別	型	大きさ	stabe	深達度	組織型	部位	備 考	前年受診歴	
											検診方法	結 果
東 部	車検診・X線	68	男	4	11.50	II B	T3(ss)	por 2	M 小弯		車検診・X線	要精検、慢性胃炎(びらん(+))
	内視鏡	60	男	2	1.10	I B	T3(ss)	por 2	M 小弯		施設・X線	異常なし
	内視鏡	79	女	4	11.50	II B	T4a(se)	sig	U 小弯		内視鏡	再検査・胃潰瘍活動性
	内視鏡	64	男	3	2.70	I B	T2(mp)	por 2	M 小弯		内視鏡	精検不要・胃潰瘍瘢痕性
	内視鏡	58	女	2	5.00	I B	T2(mp)	por 2+sig >tub 2	U 後壁		内視鏡	再検査・がん疑い
中 部	車検診・X線	78	女	5	3.50	I B	T2(mp)	por 2	M 小弯		車検診・X線	異常なし
	車検診・X線	73	男	2	3.00	II B	T3(ss)	por 1	M 小弯		車検診・X線	異常なし
	施設・X線	74	女	3	不詳	IV	不詳	sig	U 大弯	非切除P1	車検診・X線	異常なし
西 部	車検診・X線	77	男	1	2.80	III A	T4a(se)	muc	L 後壁		車検診・X線	異常なし
	内視鏡	70	男	5	2.00	I B	T4a(se)	por 2	U 後壁		内視鏡	残胃・精検不要
	内視鏡	76	女	1	3.80	I B	T2(mp)	por 1	U 前壁		内視鏡	要精検・異常なし
	内視鏡	70	男	5	不詳	IV	不詳	不詳	M 大弯	非切除N3	内視鏡	精検不要
	内視鏡	67	男	2	3.20	II A	T2(mp)	特殊型	U 小弯	carcinoma with lymphoid stroma	内視鏡	精検不要
	内視鏡	77	女	1	1.40	I B	T2(mp)	muc	U 前壁		内視鏡	精検不要

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

平成26年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）135,485人のうち、受診者数31,243人、受診率23.1%で、平成20年度以降受診者数、受診率共に増加傾向である。35歳～54歳の受診率は50%以上で目標値をクリアしている。過去3年間に検診を受診している経年受診者割合は73.0%で例年どおりであった。また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が20歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数66,672人、受診者数26,215人、受診率39.3%で、全国平均（平成25年度）受診率31.1%に比較し高い。

要精検者数は360人（判定不能で再検査未実施となった者41名を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が15人であった。要精検率は1.15%で、平成25年度に比べ、要精検者数17人、要精検率が0.12ポイント増加した。

精検受診者数292人、精検受診率81.1%、がん23人、がん発見率（がん/受診者数）は0.07%で、平成25年度とほぼ同様な結果であった。陽性反応適中度（がん/要精検者数）は6.4%であった。異形成は153人（軽度103人、高度50人）であった。要精検率は過去5年間で高く推移しており、特に20～40歳代が高い。車検診0.54%に比べ施設検診の方が1.48%と高い。特に40歳未満の受診者割合が約4割を占める診療所の要精検率が1.81%と高かった。

がん発見率は30～44歳代が高く推移している。車検診0.056%に比べ施設検診の方が0.083%と高い。陽性反応適中度は車検診10.3%、診療所6.1%、病院3.6%であった。

国の指標は要精検率許容値1.4%以下、精検受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.05%以上、陽性反応適中度許容値4.0%以上である。鳥取県実績は精検受診率以外は指標をクリアしている。

全県で、細胞診も液状検体法（LBC）が導入され、細胞診検査判定で判定不能例は減少したが、判定不能で再検査未実施となった者（平成26年度実績において41名ある）を要精検者数に含めており、精検受診率がプロセス指標90%以上を達成出来ない要因の一つとなっている。今後も細胞採取手技の改善指導等で判定不能例を減らす努力は継続する必要がある。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団)	10,802 (34.6%)	58	0.54	0.68	0.41	0.39
施 設 検 診 (病院・診療所)	20,441 (65.4%)	302	1.48	1.67	0.80	1.50
計	31,243 (100%)	360	1.15	1.23	0.56	1.35

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	51	87.9	6	0.056	0.113	0.000	0.000
施 設 検 診	241	79.8	17	0.083	0.074	0.000	0.105
計	292	81.1	23	0.074	0.091	0.000	0.090

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	異形成	が ん	がん発見率(%)
東 部	5,313	36	0.68	33	91.7	14	6	0.113
中 部	3,671	15	0.41	12	80.0	6	0	0.000
西 部	1,818	7	0.39	6	85.7	5	0	0.000
計	10,802	58	0.54	51	87.9	25	6	0.056

(2) 施設検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	異形成	が ん	がん発見率(%)
東 部	6,717	112	1.67	72	64.3	29	5	0.074
中 部	2,260	18	0.80	13	72.2	10	0	0.000
西 部	11,464	172	1.50	156	90.7	89	12	0.105
計	20,441	302	1.48	241	79.8	128	17	0.083

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者31,243人中、体部がん検診対象者数は823人、一次検診会場での受診者は709人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は78人、受診者の合計は787人、受診率は95.6%であった。

一次検診の結果、要精検となった者9人、要精検率1.27%、精密検査受診者数は8人であった。精検の結果、子宮体部がんが3人発見され、がん発見率は0.42%であった。陽性反応適中度は33.3%であった。また、保健事業分の受診者から子宮内膜増殖症が3件発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成25年度は子宮頸部癌21名で、0期14例、I B期以上が7例であった。一方、異形成は155例であった。なお、I B期以上7例の検診歴は、初回1例、前年受診1例、2年前受診2例、3年以上前受診3例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は3例であった。

4. その他

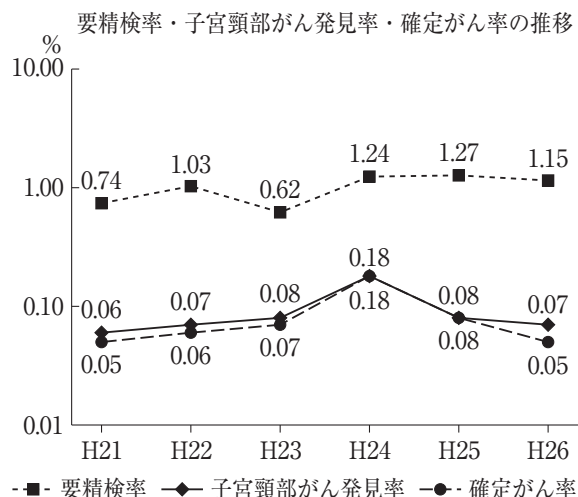
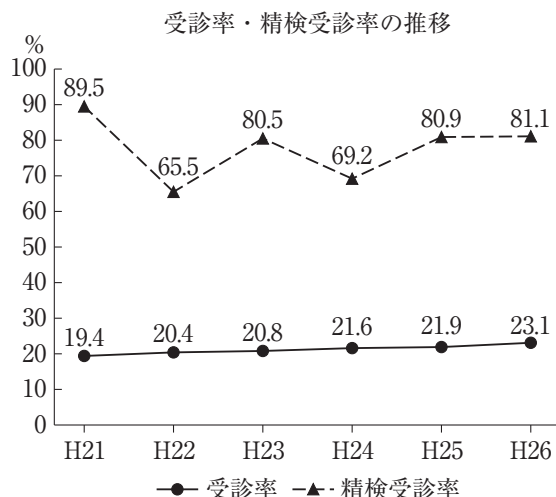
1) 平成26年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成26年度実績は、妊婦健康診査受診者4,606人中、子宮頸部がん検診受診者数4,514人、受診率98.0%で、要精検者数57人、要精検率1.26%、市町村が把握できた精検結果は46人で、そのうちがんが1人、異形成が17人。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
一次検診	対象者数(人) A	139,232	139,232	135,485	135,485	135,485	135,485
	受診者数(人) B	26,943	28,453	28,247	29,307	29,640	31,243
	受診率(%) C = B/A	19.4	20.4	20.8	21.6	21.9	23.1
一次検診結果	異常認めず(人) D	26,743	28,098	28,051	28,915	29,193	30,868
	要精検者数(人) E	200	293	174	364	377	360
	判定不能(人) F	—	62	22	28	70	15
	要精検率(%) G = E/B 指標:許容値1.4%以下	0.74	1.03	0.62	1.24	1.27	1.15
精密検査	精検受診者数(人) H	179	192	140	252	305	292
	精検受診率(%) I = H/E 指標:目標値90%以上	89.5	65.5	80.5	69.2	80.9	81.1
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	15(100)	20(105)	23(76)	53(112)	25(150)	23(153)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標:許容値0.05%以上	0.06	0.07	0.08	0.18	0.08	0.07
	陽性反応適中度(%) L = J/E 指標:許容値4.0%以上	7.5	6.8	13.2	14.6	6.6	6.4
確定調査結果	確定がん数(人) M	14	18	21	52	25	15
	確定がん率(%) N = M/B	0.05	0.06	0.07	0.18	0.08	0.05

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 要精検者数について、平成22年度報告から一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上。



(2) 平成26年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3,892	631	16.2	150	20	0	611	3.17
25～29歳	3,649	1,437	39.4	614	41	0	1,396	2.85
30～34歳	4,726	2,324	49.2	1,156	76	0	2,248	3.27
35～39歳	4,970	2,832	57.0	1,780	60	3	2,769	2.12
40～44歳	4,048	3,125	77.2	2,062	70	1	3,054	2.24
45～49歳	3,853	2,520	65.4	1,759	41	2	2,477	1.63
50～54歳	4,974	2,629	52.9	1,974	19	1	2,609	0.72
55～59歳	8,189	2,924	35.7	2,283	12	3	2,909	0.41
60～64歳	13,797	3,819	27.7	3,092	7	3	3,809	0.18
65～69歳	14,574	3,974	27.3	3,447	10	1	3,963	0.25
70～74歳	16,049	2,772	17.3	2,463	1	1	2,770	0.04
75～79歳	17,672	1,536	8.7	1,388	1	0	1,535	0.07
80歳以上	35,092	720	2.1	627	2	0	718	0.28
計	135,485	31,243	23.1	22,795	360	15	30,868	1.15

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果							子宮がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/d	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l			浸潤がん m
20~24歳	15	75.0	6	1	7	7	0	1	0	1	0.158	5.0
25~29歳	37	90.2	12	4	19	16	3 (2)	2	2	0	0.139	4.9
30~34歳	70	92.1	22	8	38	23	15 (5)	2	2	0	0.086	2.6
35~39歳	54	90.0	14	5	31	17	14 (4)	4	2	2	0.141	6.7
40~44歳	59	84.3	13	5	32	18	14 (7)	9	7	2	0.288	12.9
45~49歳	30	73.2	5	4	19	15	4 (1)	2	2	0	0.079	4.9
50~54歳	14	73.7	7	2	3	3	0	2	2	0	0.076	10.5
55~59歳	8	66.7	4	2	1	1	0	1	1	0	0.034	8.3
60~64歳	1	14.3	0	0	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
65~69歳	3	30.0	1	1	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
70~74歳	1	100.0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
75~79歳	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	292	81.1	84	32	153	103	50(19)	23	18	5	0.074	6.4

※ () 内は中等度異形成を内数で計上

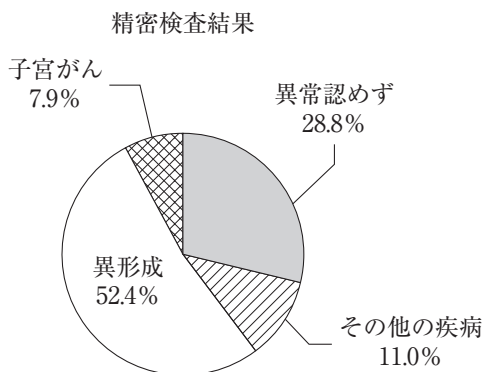
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一 次 検 診 結 果			要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	10,802	58	2	10,742	0.54
病 院	6,807	55	4	6,748	0.81
診 療 所	13,634	247	9	13,378	1.81
計	31,243	360	15	30,868	1.15

b. 精密検査結果

一 次 検 診 機 関	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	精 密 検 査 結 果							子宮がん発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応適中度 (%) m' = i'/b'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	51	87.9	10	10	25	18	7	6	6	0	0.056	10.3
病 院	26	47.3	9	2	13	7	6 (1)	2	1	1	0.029	3.6
診 療 所	215	87.0	65	20	115	78	37(18)	15	11	4	0.110	6.1
計	292	81.1	84	32	153	103	50(19)	23	18	5	0.074	6.4



4) 平成26年度子宮頸部がん検診受診状況

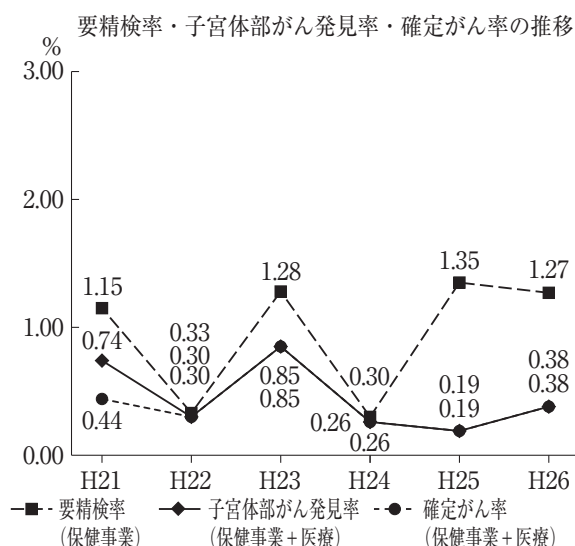
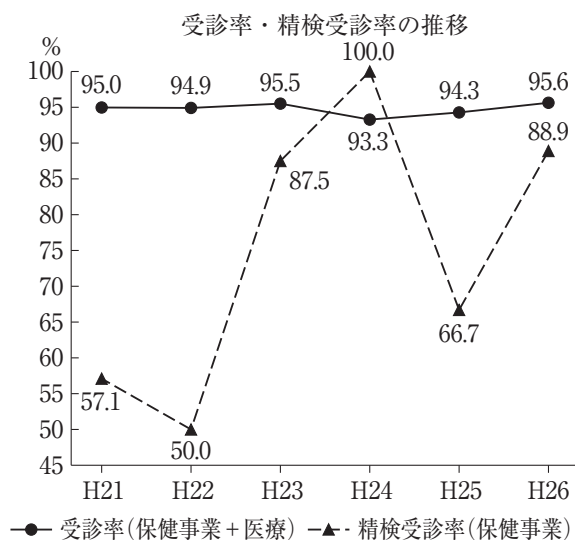
市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診率 (%)	異常認めず	その他の疾病	異形成	がん	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H
鳥取市	42,481	3,058	6,032	9,090	21.4	23	100	123	1.35	82	66.7	30	13	30	9	52	0.099	7.3
米子市	32,100	0	7,991	7,991	24.9	0	136	136	1.70	126	92.6	34	5	77	10	92	0.125	7.4
倉吉市	12,310	681	1,304	1,985	16.1	3	9	12	0.60	7	58.3	0	2	5	0	7	0.000	0.0
境港市	8,044	129	1,627	1,756	21.8	3	21	24	1.37	21	87.5	9	3	8	1	12	0.057	4.2
岩美町	3,252	647	97	744	22.9	4	2	6	0.81	5	83.3	1	0	3	1	4	0.134	16.7
八頭町	4,327	1,123	218	1,341	31.0	8	5	13	0.97	12	92.3	2	2	7	1	10	0.075	7.7
若桜町	1,139	291	44	335	29.4	1	0	1	0.30	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0
智頭町	2,064	194	326	520	25.2	0	5	5	0.96	5	100.0	1	2	2	0	4	0.000	0.0
湯梨浜町	3,978	708	415	1,123	28.2	2	2	4	0.36	4	100.0	1	2	1	0	3	0.000	0.0
三朝町	1,788	335	72	407	22.8	2	1	3	0.74	3	100.0	0	0	3	0	3	0.000	0.0
北栄町	3,773	834	219	1,053	27.9	3	3	6	0.57	3	50.0	1	1	1	0	2	0.000	0.0
琴浦町	4,788	1,113	250	1,363	28.5	5	3	8	0.59	8	100.0	1	1	6	0	7	0.000	0.0
南部町	2,816	317	508	825	29.3	0	9	9	1.09	8	88.9	3	1	3	1	5	0.121	11.1
伯耆町	3,005	496	296	792	26.4	2	3	5	0.63	3	60.0	1	0	2	0	2	0.000	0.0
日吉津村	747	45	258	303	40.6	0	1	1	0.33	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0
大山町	4,882	334	423	757	15.5	0	1	1	0.13	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	1,837	278	32	310	16.9	1	0	1	0.32	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0
日野町	1,148	219	10	229	19.9	1	0	1	0.44	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0
江府町	1,006	0	319	319	31.7	0	1	1	0.31	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0
合計	135,485	10,802	20,441	31,243	23.1	58	302	360	1.15	292	81.1	84	32	153	23	208	0.074	6.4
東部	53,263	5,313	6,717	12,030	22.6	36	112	148	1.23	105	70.9	34	17	43	11	71	0.091	7.4
中部	26,637	3,671	2,260	5,931	22.3	15	18	33	0.56	25	75.8	3	6	16	0	22	0.000	0.0
西部	55,585	1,818	11,464	13,282	23.9	7	172	179	1.35	162	90.5	47	9	94	12	115	0.090	6.7

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		21 年 度			22 年 度			23 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	715		715	707		707	735		735
	受 診 者 数(人) B	608	71	679	608	63	671	626	76	702
	受 診 率 (%) C = B / A	85.0		95.0	86.0		94.9	85.2		95.5
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	601			605			618		
	要 精 検 者 数(人) E	7			2			8		
	判 定 不 能(人) F	0			1			0		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	1.15			0.33			1.28		
	精 検 受 診 者 数(人) H	4			1			7		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	57.1			50.0			87.5		
	子 宮 が ん の 者(人) J	3(0)	2(4)	5(4)	1(0)	1(0)	2(0)	4(2)	2(3)	6(5)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.49	2.82	0.74	0.16	1.59	0.30	0.64	2.63	0.85
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / E	42.9			50.0			50.0		
	確 定 が ん 数(人) M			3	1	1	2	4	2	6
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.44			0.30			0.85

区 分		24 年 度			25 年 度			26 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	833		833	559		559	823		823
	受 診 者 数(人) B	672	105	777	443	84	527	709	78	787
	受 診 率 (%) C = B / A	80.7		93.3	79.2		94.3	86.1		95.6
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	670			435			697		
	要 精 検 者 数(人) E	2			6			9		
	判 定 不 能(人) F	0			2			3		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	0.30			1.35			1.27		
	精 検 受 診 者 数(人) H	2			4			8		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	100.0			66.7			88.9		
	子 宮 が ん の 者(人) J	1(0)	1(2)	2(2)	1(2)	0(1)	1(3)	3(3)	0(0)	3(3)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.15	0.95	0.26	0.23	0.00	0.19	0.42	0.00	0.38
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / E	50.0			16.7			33.3		
	確 定 が ん 数(人) M	1	1	2	1	0	1	3	0	3
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.26			0.19			0.38

※「保健事業分」=車検診及び施設検診により検診を受けた者、「医療分」=車検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
 ※精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
 ※がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
 ※陽性反応適中度は、要精検受診者を分母として算出。
 ※確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成26年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	体部がん検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検者数 f	判定不能	異常認めず	
20～24歳	631	3	0.48	3	100.0	0	0	3	0.00
25～29歳	1,437	16	1.11	16	100.0	0	0	16	0.00
30～34歳	2,324	36	1.55	31	86.1	0	0	31	0.00
35～39歳	2,832	77	2.72	66	85.7	1	0	65	1.52
40～44歳	3,125	139	4.45	126	90.6	1	0	125	0.79
45～49歳	2,520	169	6.71	150	88.8	0	0	150	0.00
50～54歳	2,629	143	5.44	117	81.8	1	1	115	0.85
55～59歳	2,924	84	2.87	72	85.7	2	0	70	2.78
60～64歳	3,819	57	1.49	46	80.7	1	1	44	2.17
65～69歳	3,974	53	1.33	48	90.6	2	1	45	4.17
70～74歳	2,772	28	1.01	19	67.9	0	0	19	0.00
75～79歳	1,536	14	0.91	11	78.6	0	0	11	0.00
80歳以上	720	4	0.56	4	100.0	1	0	3	25.00
計	31,243	823	2.63	709	86.1	9	3	697	1.27

2) 精密検診結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮体部がん発見率 (%) k = j / d	陽性反応適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	1	100.0	0	0	0	1	1.52	100.0
40～44歳	1	100.0	0	0	1	0	0.00	0.0
45～49歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
50～54歳	1	100.0	0	0	1	0	0.00	0.0
55～59歳	2	100.0	2	0	0	0	0.00	0.0
60～64歳	1	100.0	0	0	0	1	2.17	100.0
65～69歳	2	100.0	0	0	1	1	2.08	50.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	8	88.9	2	0	3	3	0.42	33.3

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検査受診者数	精密検査結果					子宮体部がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん	判定不能	
20～24歳	0	0	0	0	0	0	0.00
25～29歳	0	0	0	0	0	0	0.00
30～34歳	4	4	0	0	0	0	0.00
35～39歳	11	11	0	0	0	0	0.00
40～44歳	9	9	0	0	0	1	0.00
45～49歳	18	18	0	0	0	0	0.00
50～54歳	18	18	0	0	0	2	0.00
55～59歳	9	9	0	0	0	1	0.00
60～64歳	3	2	1	0	0	1	0.00
65～69歳	1	1	0	0	0	0	0.00
70～74歳	5	5	0	0	0	0	0.00
75～79歳	0	0	0	0	0	0	0.00
80歳以上	0	0	0	0	0	0	0.00
計	78	77	1	0	0	5	0.00

4) 平成26年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診	施設検診	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率 (%) K=J/H	異 常 認めず L	その 他の 疾病 M	子宮内 膜 増殖症 N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度 (%) R=O/H
鳥取市	228	0	156	156	68.4	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
米子市	312	0	299	299	95.8	4	4	4	1.34	4	100.0	1	0	1	2	3	0.67	50.0
倉吉市	106	0	95	95	89.6	2	2	2	2.11	2	100.0	0	0	2	0	2	0.00	0.0
境港市	48	0	48	48	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	2	1	1	2	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	6	0	2	2	33.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	35	0	35	35	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	8	0	8	8	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	15	0	15	15	100.0	3	3	3	20.00	2	66.7	1	0	0	1	1	6.67	33.3
琴浦町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	24	0	24	24	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	10	0	10	10	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	1	1	0	1	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	1	0	1	1	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	27	0	13	13	48.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合計	823	2	707	709	86.1	9	9	9	1.27	8	88.9	2	0	3	3	6	0.42	33.3
東部	236	1	159	160	67.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
中部	164	0	153	153	93.3	5	5	5	3.27	4	80.0	1	0	2	1	3	0.65	20.0
西部	423	1	395	396	93.6	4	4	4	1.01	4	100.0	1	0	1	2	3	0.51	50.0

(5) 平成26年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成25年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度
異形成	14	25	138	130
頸癌0期	2	5	18	9
頸癌ⅠA期	0	0	1	0
頸癌ⅠB期以上	1	1	3	6
合計	17	31	160	145

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成25年度	平成26年度
内膜増殖症	1	3
体癌ⅠA期	0	2
体癌ⅠB期以上	1	1
合計	2	6

表3 発見子宮がん症例（ⅠB期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	1	1
2年間隔	0	2	2
3年以上の間隔	1	2	3
初回受診	0	1	1

表4 治療機関

	上皮内癌	頸癌ⅠA期	頸癌ⅠB期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	3	0	3	6
鳥取県立中央病院	5	0	2	7
鳥取赤十字病院	2	0	0	2
鳥取市立病院	1	0	0	1
博愛病院	1	0	0	1
脇田産婦人科	1	0	0	1
ミオクリニック	1	0	0	1
他県医療機関	0	0	2	2
計	14	0	7	21

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成26年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）190,556人のうち、受診者数53,208人、受診率27.9%で前年度に比べ受診者数2,639人、受診率1.4ポイント増加した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数82,800人、受診者数27,322人、受診率33.0%で、全国平均（平成25年度）16.1%に比べ高い。

このうち要精検者は2,303人、要精検率4.33%で前年度より0.31ポイント減少した。精密検査受診者は2,021人、精検受診率87.8%であった。要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下をいまだに大きく上回っているが、精検受診率は引き続き高く、その結果、肺がん55人、がん疑い74人の計129人が発見された。

肺がん発見率は0.10%で、前年度より10人増加した。これは国の指標（許容値）0.03%より約3倍高率である。また、陽性反応適中度は2.4%となり、前年度より0.5ポイント増加し、これも国の指標（許容値）1.3%を大きく上回っている。鳥取県は肺がん罹患率が高く、高い要精検率の中で多くの肺がんが発見され、精度も高いと考えられる。施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診5.0%、車検診3.7%と施設検診の方が1.3ポイント高く、特に西部地区の施設検診が6.2%と高率であった。要精検率には東・中・西部で地域差があり、継続して精度管理を徹底する必要がある。

追跡調査の結果、確定肺がんは81人（原発性74人、転移性7人）で、過去最高となり、確定がん率は0.14%で、前年度よりも0.03ポイントも増加した。肺がん疑いの症例は今後も定期的にフォローする方針である。

X線受診者総数53,208人のうち経年受診者は36,907人、経年受診率69.4%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,155人（13.4%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,566人、X線検査受診者の4.8%であった。そのうち要精検者は4人、要精検率0.16%で、がんが2名発見された。

経年受診者のがん発見率は0.057%、非経年受診者のがん発見率は0.209%で、非経年受診者の方が3.67倍高かった。また、高危険群所属者7,155人のうちがんが10人発見され、がん発見率0.140%、非高危険群所属者46,053人のうちがんが45人発見され、がん発見率0.098%で、高危険群所属者の方が1.43倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	27,994 (52.6%)	1,029	3.68	2.77	3.21	4.71
施 設 検 診 (病院・診療所)	25,214 (47.4%)	1,274	5.05	4.59	5.32	6.19
計	53,208 (100%)	2,303	4.33	3.98	3.72	5.23

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	876	85.1	31	0.111	0.132	0.093	0.108
施 設 検 診	1,145	89.9	24	0.095	0.098	0.182	0.049
計	2,021	87.8	55	0.103	0.109	0.115	0.087

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	8,329	231	2.77	203	87.9	9	11	0.132
中 部	8,586	276	3.21	212	76.8	13	8	0.093
西 部	11,079	522	4.71	461	88.3	17	12	0.108
計	27,994	1,029	3.68	876	85.1	39	31	0.111

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	16,393	752	4.59	697	92.7	30	16	0.098
中 部	2,746	146	5.32	112	76.7	2	5	0.182
西 部	6,075	376	6.19	336	89.4	3	3	0.049
計	25,214	1,274	5.05	1,145	89.9	35	24	0.095

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (%)					
	男	女	計	男		女		計	
H24	19,597	30,779	50,376	12,945	(66.1%)	20,470	(66.5%)	33,415	(66.3%)
H25	19,836	30,733	50,569	13,065	(65.9%)	20,574	(66.9%)	33,639	(66.5%)
H26	21,008	32,200	53,208	14,462	(68.8%)	22,445	(69.7%)	36,907	(69.4%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H24	33,415	15	0.045	16,961	20	0.118	2.63
H25	33,639	19	0.056	16,930	26	0.154	2.72
H26	36,907	21	0.057	16,301	34	0.209	3.67

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

- ①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者
- ②6か月以内に血痰のあった者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（率）					
	男	女	計	男		女		計	
H24	19,597	30,779	50,376	6,823	(34.8%)	378	(1.2%)	7,201	(14.3%)
H25	19,836	30,733	50,569	6,787	(34.2%)	422	(1.4%)	7,209	(14.3%)
H26	21,008	32,200	53,208	6,751	(32.1%)	404	(1.3%)	7,155	(13.4%)

(2) がん発見率の推移

年度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険／非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H24	7,201	10	0.139	43,175	25	0.058	2.40
H25	7,209	14	0.194	43,360	31	0.071	2.72
H26	7,155	10	0.140	46,053	45	0.098	1.43

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	が ん	がん発見率
H24	7,201	2,818	1	0.04	1	1	0.035
H25	7,209	2,610	2	0.08	0	0	0.000
H26	7,155	2,566	4	0.16	3	2	0.078

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H24	35	34	1	0
H25	45	45	0	0
H26	55	53	2	0

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成26年までの27年間における発見肺がんは1,220人（発見率10万対77人）であった。発見方法は胸部X線1,119人（91.7%）、喀痰細胞診55人、両者44人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減しているが、平成26年度は2人の発見があった。平均年齢は72.0歳、男性722人、女性498人で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期は

I期が701人(57.5%)で過半数を占め、766人(62.8%)に手術が行われた。予後調査では全例(1,220人)の累積生存率は5生率49.0%、10生率33.2%であり、手術例では5生率68.5%、10生率49.3%であった。臨床病期I A期の5生率は76.6%、10生率は57.4%と良好な結果を示した。

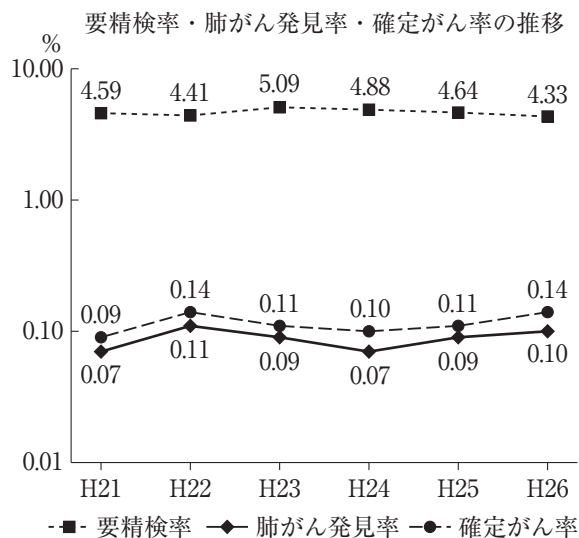
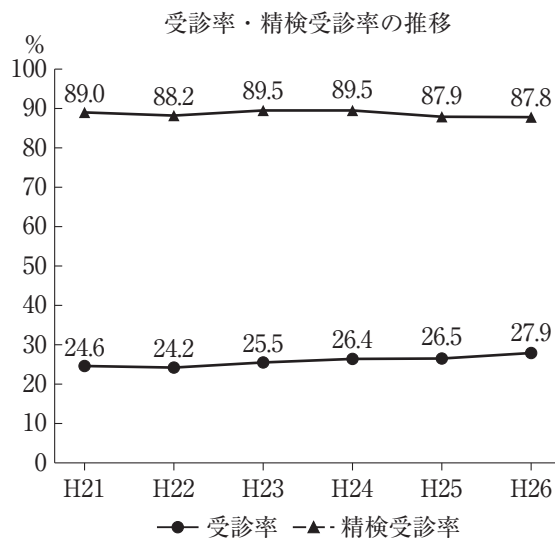
2) 平成26年度調査結果

原発性肺がん74人が発見され、発見率は人口10万対139人であった。72人(97.3%)が胸部X線で、2人(2.7%)が喀痰細胞診で発見された。原発性肺がんの平均年齢は74.4歳、女性は29例(39.2%)、臨床病期はI期49人(66.2%)、腺癌は54人(73.0%)と引き続き高率であった。手術症例は54人(73.0%)と多く、術後病期I期の肺がんが43人(79.6%)、腺癌が48人(88.9%)と多数を占めた。腫瘍径は平均26.7mmと前年より1.6mm小さく、20mm以下は31人(41.9%)で、前年度よりは9.1ポイント増加した。転移性肺腫瘍は7人で、原発巣は乳癌5人、甲状腺癌1人、大腸癌1人であった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
一次検診	対象者数(人) A	188,186	188,186	190,556	190,556	190,556	190,556
	受診者数(人) B	46,247	45,482	48,513	50,376	50,569	53,208
	受診率(%) C = B/A	24.6	24.2	25.5	26.4	26.5	27.9
一次検診結果	異常認めず(人) D	44,125	43,478	46,046	47,916	48,224	50,905
	要精検者数(人) E	2,122	2,004	2,467	2,460	2,345	2,303
	要精検率(%) F = E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	4.59	4.41	5.09	4.88	4.64	4.33
精密検査	精検受診者数(人) G	1,888	1,767	2,208	2,201	2,062	2,021
	精検受診率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	89.0	88.2	89.5	89.5	87.9	87.8
精密検査結果	肺がんの者(人) I	31 (87)	50 (67)	44 (70)	35 (58)	45 (68)	55 (74)
	肺がん発見率(%) J = I/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.07	0.11	0.09	0.07	0.09	0.10
	陽性反応適中度(%) K = I/E <small>指標：許容値1.3%以上</small>	1.5	2.5	1.8	1.4	1.9	2.4
確定調査結果	確定がん数(人) L	49	69	61	54	62	81
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	41	65	55	49	58	74
	確定がん率(%) N = M/B	0.09	0.14	0.11	0.10	0.11	0.14

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者数を計上。



(2) 平成26年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査										エックス線フィルム読影結果					
			一次検診 受診者数		受診率 (%)			経年受診者数 再掲※		経年受診 者割合 (%)		要精検者数		異常認めず		要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a		d		e = d/b		f		g = f/b					
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	741	1,286	34.3	31.8	32.7	237	450	32.0	35.0	24	22	717	1,264	3.24	1.71	2.27
45～49歳	2,326	3,853	537	1,104	23.1	28.7	26.6	263	551	49.0	49.9	21	14	516	1,090	3.91	1.27	2.13
50～54歳	3,058	4,974	659	1,381	21.6	27.8	25.4	305	728	46.3	52.7	14	23	645	1,358	2.12	1.67	1.81
55～59歳	4,908	8,189	1,017	2,192	20.7	26.8	24.5	547	1,269	53.8	57.9	44	76	973	2,116	4.33	3.47	3.74
60～64歳	9,854	13,797	2,771	4,565	28.1	33.1	31.0	1,599	2,931	57.7	64.2	119	162	2,652	4,403	4.29	3.55	3.83
65～69歳	11,061	14,574	4,660	6,409	42.1	44.0	43.2	3,229	4,736	69.3	73.9	239	228	4,421	6,181	5.13	3.56	4.22
70～74歳	11,588	16,049	4,260	5,941	36.8	37.0	36.9	3,265	4,556	76.6	76.7	235	241	4,025	5,700	5.52	4.06	4.67
75～79歳	11,797	17,672	3,219	4,588	27.3	26.0	26.5	2,538	3,641	78.8	79.4	183	203	3,036	4,385	5.68	4.42	4.94
80歳以上	15,558	35,092	3,144	4,734	20.2	13.5	15.6	2,479	3,583	78.8	75.7	200	252	2,944	4,482	6.36	5.32	5.74
計	72,308	118,248	21,008	32,200	29.1	27.2	27.9	14,462	22,445	68.8	69.7	1,079	1,221	19,929	30,979	5.14	3.79	4.32
合 計	190,556		53,208		27.9			36,907		69.4		2,300		50,908		4.32		

※経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中 高危険群所属者		喀痰細胞診 受診者数		喀痰細胞診結果					
					要精検者数		精 検 不 要		要精検率 (%)	
	h	i	j = i/h	男	女	男	女	男	女	
40～44歳	19	10	24	10	0	0	24	10	0.00	0.00
45～49歳	19	1	33	1	0	0	33	1	0.00	0.00
50～54歳	181	25	63	13	0	0	63	13	0.00	0.00
55～59歳	371	53	134	16	0	0	134	16	0.00	0.00
60～64歳	1,085	81	376	31	0	0	376	31	0.00	0.00
65～69歳	1,852	99	640	48	1	1	639	47	0.16	2.08
70～74歳	1,459	69	547	35	1	0	546	35	0.18	0.00
75～79歳	941	31	312	23	0	0	312	23	0.00	0.00
80歳以上	824	35	243	17	1	0	242	17	0.41	0.00
計	6,751	404	2,372	194	3	1	2,369	193	0.13	0.52
合 計	7,155		2,566		4		2,562		0.16	

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

- ①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者
- ②6か月以内に血痰のあった者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検査者数		精密検査受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m=l/k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		o=n/b			p=n/k		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	24	22	22	20	91.7	90.9	91.3	16	12	6	8	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	21	14	18	12	85.7	85.7	85.7	9	8	9	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	14	23	10	22	71.4	95.7	86.5	2	12	7	8	0	1	1	1	0.152	0.072	0.098	7.1	4.3	5.4
55～59歳	44	76	37	68	84.1	89.5	87.5	21	35	16	30	0	2	0	1	0.000	0.046	0.031	0.0	1.3	0.8
60～64歳	119	162	96	149	80.7	92.0	87.2	48	71	38	74	7	3	3	1	0.108	0.022	0.055	2.5	0.6	1.4
65～69歳	240	228	194	215	80.8	94.3	87.4	101	92	85	110	3	10	5	3	0.107	0.047	0.072	2.1	1.3	1.7
70～74歳	236	241	202	227	85.6	94.2	89.9	85	107	109	109	3	6	5	5	0.117	0.084	0.098	2.1	2.1	2.1
75～79歳	183	203	156	187	85.2	92.1	88.9	61	81	83	89	7	9	5	8	0.155	0.174	0.167	2.7	3.9	3.4
80歳以上	201	252	173	213	86.1	84.5	85.2	61	88	84	113	16	7	12	5	0.382	0.106	0.216	6.0	2.0	3.8
計	1,082	1,221	908	1,113	83.9	91.2	87.8	404	506	437	545	36	38	31	24	0.148	0.075	0.103	2.9	2.0	2.4
合 計	2,303		2,021		87.8			910		982		74		55		0.103			2.4		
X線のみ要精検	2,299		2,018		87.8			910		981		74		53		/			2.3		
喀痰のみ要精検	3		2		66.7			0		0		0		2					66.7		
X線+喀痰要精検	1		1		100.0			0		1		0		0					0.0		

3) 検診機関別

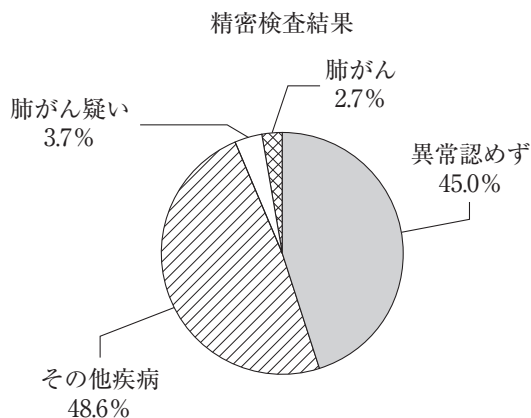
a. 一次検診結果

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診者中高危険群所属者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検査者数 b'		異常認めず		要精検査率 (%) c'=b'/a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	10,129	16,997	7,267	12,334	458	534	9,671	16,463	4.52	3.14	3.66	3,222	122
中国労働衛生協会	341	527	264	405	11	24	330	503	3.23	4.55	4.03	33	0
病 院	3,622	4,900	2,302	3,141	210	220	3,412	4,680	5.80	4.49	5.05	1,082	94
診 療 所	6,916	9,776	4,629	6,565	400	443	6,516	9,333	5.78	4.53	5.05	2,414	188
計	21,008	32,200	14,462	22,445	1,079	1,221	19,929	30,979	5.14	3.79	4.32	6,751	404
合 計	53,208		36,907		2,300		50,908		4.32			7,155	

一次検診機関	喀痰細胞診 受診者数 d'		喀痰細胞診結果						X線・喀 痰細胞診 も精 検 g'		一次検診総合結果				
			要精検者数 e'		精検不要		要精検率 (%) f' = e'/d'				要精検者数 h' = (b' + e') - g'		要精検率 (%) i' = h'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	941	90	2	0	939	90	0.21	0.00	0	0	460	534	4.54	3.14	3.66
中国労働衛生協会	22	0	0	0	22	0	0.00	0.00	0	0	11	24	3.23	4.55	4.03
病院	450	34	1	1	449	33	0.22	2.94	0	1	211	220	5.83	4.49	5.06
診療所	959	70	0	0	959	70	0.00	0.00	0	0	400	443	5.78	4.53	5.05
計	2,372	194	3	1	2,369	193	0.13	0.52	0	1	1,082	1,221	5.15	3.79	4.33
合計	2,566		4		2,562		0.16		1		2,303		4.33		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 j'		精密検査受診率 (%) k' = j'/h'			精密検査結果								肺がん発見率 (%) m' = l'/a'			陽性反応適中度 (%) n' = l'/h'		
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん l'							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	370	479	80.4	89.7	85.4	148	226	188	219	15	22	19	12	0.188	0.071	0.114	4.1	2.2	3.1
中国労働衛生協会	8	19	72.7	79.2	77.1	3	7	4	11	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病院	173	202	82.0	91.8	87.0	90	76	74	115	3	7	6	4	0.166	0.082	0.117	2.8	1.8	2.3
診療所	357	413	89.3	93.2	91.3	163	197	171	200	17	8	6	8	0.087	0.082	0.084	1.5	1.8	1.7
計	908	1,113	83.9	91.2	87.8	404	506	437	545	36	38	31	24	0.148	0.075	0.103	2.9	2.0	2.4
合計	2,021		87.8			910		982		74		55		0.103			2.4		



4) 平成26年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精検受診者数 J	精検受診率 (%) K=J/H	異認めず L	その他の 疾病 M	がん疑い が N	O	入 有所見者 P=M+N+O	がん発見 率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度 (%) R=O/H
鳥取市	57,433	3,622	15,062	18,684	32.5	108	681	789	4.22	737	93.4	345	341	34	17	392	0.091	2.2
米子市	42,442	4,046	4,753	8,799	20.7	177	297	474	5.39	434	91.6	200	214	11	9	234	0.102	1.9
倉吉市	17,700	1,522	1,533	3,055	17.3	42	75	117	3.83	99	84.6	42	48	3	6	57	0.196	5.1
境港市	11,307	1,827	261	2,088	18.5	89	12	101	4.84	91	90.1	34	54	1	2	57	0.096	2.0
岩美町	4,844	1,259	272	1,531	31.6	32	12	44	2.87	35	79.5	13	19	1	2	22	0.131	4.5
八頭町	6,534	2,656	293	2,949	45.1	63	21	84	2.85	68	81.0	30	31	4	3	38	0.102	3.6
若桜町	1,776	387	225	612	34.5	15	13	28	4.58	25	89.3	8	14	0	3	17	0.490	10.7
智頭町	3,263	405	541	946	29.0	13	25	38	4.02	35	92.1	19	14	0	2	16	0.211	5.3
湯梨浜町	5,964	1,774	640	2,414	40.5	40	31	71	2.94	60	84.5	39	17	3	1	21	0.041	1.4
三朝町	2,767	990	115	1,105	39.9	40	7	47	4.25	41	87.2	12	25	1	3	29	0.271	6.4
北栄町	5,729	1,828	337	2,165	37.8	62	17	79	3.65	64	81.0	30	31	2	1	34	0.046	1.3
琴浦町	7,221	2,472	121	2,593	35.9	92	16	108	4.17	60	55.6	28	24	6	2	32	0.077	1.9
南部町	4,221	610	1,061	1,671	39.6	50	67	117	7.00	95	81.2	41	51	1	2	54	0.120	1.7
伯耆町	4,533	1,520	0	1,520	33.5	55	0	55	3.62	47	85.5	22	24	1	0	25	0.000	0.0
日吉津村	995	192	0	192	19.3	5	0	5	2.60	4	80.0	1	3	0	0	3	0.000	0.0
大山町	7,503	1,240	0	1,240	16.5	72	0	72	5.81	64	88.9	22	39	2	1	42	0.081	1.4
日南町	2,966	547	0	547	18.4	19	0	19	3.47	18	94.7	9	6	2	1	9	0.183	5.3
日野町	1,783	342	0	342	19.2	24	0	24	7.02	21	87.5	7	13	1	0	14	0.000	0.0
江府町	1,575	755	0	755	47.9	31	0	31	4.11	23	74.2	8	14	1	0	15	0.000	0.0
合計	190,556	27,994	25,214	53,208	27.9	1,029	1,274	2,303	4.33	2,021	87.8	910	982	74	55	1,111	0.103	2.4
東部	73,850	8,329	16,393	24,722	33.5	231	752	983	3.98	900	91.6	415	419	39	27	485	0.109	2.7
中部	39,381	8,586	2,746	11,332	28.8	276	146	422	3.72	324	76.8	151	145	15	13	173	0.115	3.1
西部	77,325	11,079	6,075	17,154	22.2	522	376	898	5.23	797	88.8	344	418	20	15	453	0.087	1.7

(3) 平成26年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1220、転移性140） 1,360例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,372例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
原発性肺癌	53	40	41	42	30	48	65	50	57	62
転移性肺腫瘍	2	7	7	6	7	6	3	2	5	6
合 計	55	47	48	48	37	54	68	52	62	68

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	合計
原発性肺癌	48	52	41	65	55	49	58	74	1,220
転移性肺腫瘍	7	3	8	4	6	5	4	7	140
合 計	55	55	49	69	61	54	62	81	1,360

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H26年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 1,119例(91.7%)	Dのみ	0例	} 72例(97.3%)	(E1:61例、E2:11例)
	Eのみ	874例		Eのみ	72例		
細 胞 診	Dのみ	20例	} 55例(4.5%)	Dのみ	2例	} 2例(2.7%)	
	Eのみ	35例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 44例(3.6%)	D + D	0例	} 0例(0.0%)	
	D + E	9例		D + E	0例		
	E + D	6例		E + D	0例		
	E + E	19例		E + E	0例		
	不明	2例	} 2例(0.2%)	不明	0例	} 0例(0.0%)	
計 1,220例				計 74例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(88.0%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
計	1,580,403	26,700(1.69%)	23,043(86.3%)	1,220	77

4) 原発性肺癌 (1,220例)

(1) 年齢・性別

[H26年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	78例	6.4
60～69歳	368	30.2
70～79歳	562	46.0
80～	212	17.4
計	1,220	100.0

平均年齢=72.0
男：女=722例：498例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	3例	4.1
60～69歳	20	27.0
70～79歳	27	36.5
80～	24	32.4
計	74	100.0

平均年齢=74.4
男：女=45例：29例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H26年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	509(41.8)
I B	192
II A	47
II B	66
III A	148
III B	74
IV	149
不明	33
計	1,220

臨床病期	(%)
Occult	0例
I A	39(52.7)
I B	10
II A	6
II B	0
III A	2
III B	1
IV	11
不明	5
計	74

} 49
(66.2%)

b. 組織型

〔H26年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	273例
腺癌	746(61.0)
大細胞癌	17
小細胞癌	72
腺扁平上皮癌	12
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	100
計	1,222*

組織型	(%)
扁平上皮癌	5例
腺癌	54(73.0)
大細胞癌	1
小細胞癌	7
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	7
計	74

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

〔H26年度集計〕

(766例、手術率：62.8%)

原発性肺癌の手術症例

a. 臨床病期、術後病期

(54例、手術率：73.0%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	446(58.2)	I A	393(51.3)
I B	155	I B	171
II A	30	II A	36
II B	40	II B	48
III A	72	III A	76
III B	14	III B	23
IV	7	IV	17
計	766	計	766

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	38(70.4)	I A	35(64.8)
I B	10	I B	8
II A	5	II A	6
II B	0	II B	3
III A	1	III A	2
III B	0	III B	0
IV	0	IV	0
計	54	計	54

} 43
(79.6%)

b. 組織型分類

〔26年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	153例
腺癌	560(73.1)
大細胞癌	13
小細胞癌	9
腺扁平上皮癌	13
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	16
計	766

組織型	(%)
扁平上皮癌	3例
腺癌	48(88.9)
大細胞癌	0
小細胞癌	2
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	1
計	54

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4
11~20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm

腫瘍径 (mm)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)
0~10	3	2	2	1	4	3	3
11~20	21(40.4)	10	13	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)
21~30	6	13(31.7)	26(40)	16(29.1)	13	20(34.5)	21
31~40	14	8	15	6	8	8	7
41~50	5	6	6	4	6	5	6
51~	1	2	2	11	2	6	5
不明	2	0	1	1	2	0	4
計	52	41	65	55	49	58	74
平均	26.1mm	25.9mm	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7
	最高71mm	68mm	80mm	90mm	100mm	60mm	70mm

5) 転移性肺腫瘍 (140例)

大腸癌：31例 乳癌：18例 前立腺癌：13例 甲状腺癌：11例 腎臓癌：11例
 肝臓癌：9例 胃癌：6例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管管：4例 胆のう癌：3例 肺癌：2例 食道癌：2例 卵巣癌：2例
 膀胱癌：2例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 不明：7例

〔H26年度集計〕(7例)

乳癌：5例 甲状腺癌：1例 大腸癌：1例

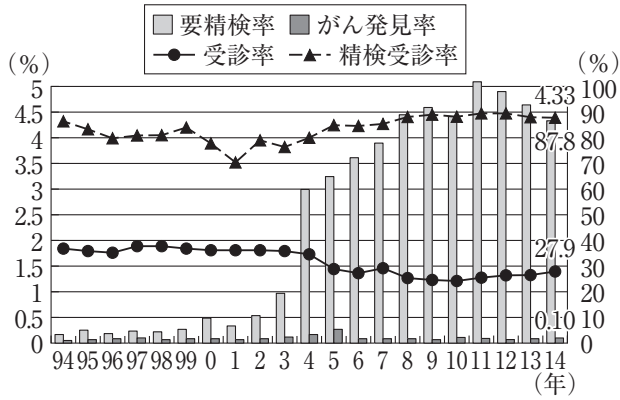
平成26年度肺がん検診で発見された肺がん症例の特徴

1. 受診者数は昨年より2,639名増加し、受診率は27.9%と昨年より1.4ポイント増加した。要精検率は4.33%（-0.31%）と減少、精検受診率は87.8%（-0.1%）と減少した。肺がんは55名（+10名）発見され、がん発見率は0.103%（+0.014%）、陽性反応適中度2.4%（+0.5%）と昨年を上回り、引き続き高値であった。
2. 予後調査では原発性肺がん74例、転移性肺腫瘍7例、合計81例の肺がん確定診断を得て、過去最高であった。最終報告で74名あった肺がん疑いは、その後の予後調査により肺がんが26名発見され、肺がん疑いのままが34名、現在なお調査中が4名という結果となった。これら併せて38名は今後2年間フォローを続ける予定である。
3. 発見された原発性肺がんの74例中72例（97.3%）が胸部X線のみで発見され、喀痰細胞診により発見された肺がんは2例（2.7%）のみであった。
4. 原発性肺がんの平均年齢は74.4歳、女性肺がんは29例（39.2%）、臨床病期はI期49例（66.2%）、腺癌は54例（73.0%）と引き続き高率であった。平成26年度は特に80歳以上の高齢者の肺がんの発見が24例（32.4%）増加した。
5. 手術症例の割合は54例（73.0%）と多く、術後病期I期の肺がんが43例（79.6%）、腺癌が48例（88.9%）と多数を占めた。
6. 腫瘍径は平均26.7mm（-1.4mm）と昨年より小型となった。11-20mmが28例（37.8%）と最多で、20mm以下は31例（41.9%）で、前年より9.1ポイント増加した。
7. 転移性肺腫瘍は7例で、原発巣は乳癌5例、甲状腺癌1例、大腸癌1例であった。

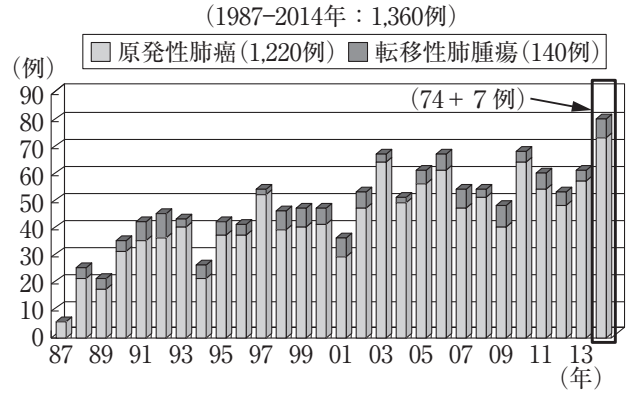
6) 平成26年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施 設 検 診	車 検 診
受診者数	25,214名	27,994名
要精検数	1,274名(5.0%) 東部：752名(4.6%) 中部：146名(5.3%) 西部：376名(6.2%)	1,029名(3.7%) 東部：231名(2.8%) 中部：276名(3.2%) 西部：522名(4.7%)
確定者数	36名(0.143%) (東部28、中部5、西部3)	38名(0.136%) (東部11、中部13、西部14)
発見方法	E1判定 33名 E2判定 2名 喀痰D判定 1名	E1判定 28名 E2判定 9名 喀痰D判定 1名
年 齢	75.8歳	73.7歳
性 差	男20名、女16名	男25名、女13名
臨床病期	I A 19名、I B 7名 II A 2名、II B 0名 III A 2名、III B 1名 IV 4名、不明 1例	I A 20名、I B 3名 II A 4名、II B 0名 III A 0名、III B 0名 IV 7名、不明 4名
組 織 型	扁平上皮2名、腺癌28名 大細胞癌1名、小細胞癌2名 不明3名	扁平上皮癌3名、腺癌26名 大細胞癌0名、小細胞癌5名、 不明4名
手 術	あり28名、なし7名、不明1例	あり26名、なし12名
腫瘍径	23.2mm	29.8mm

7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移

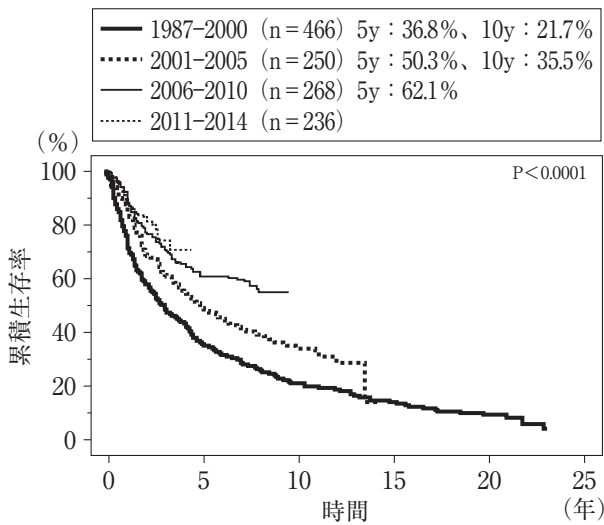


8) 検診で発見された肺癌の推移

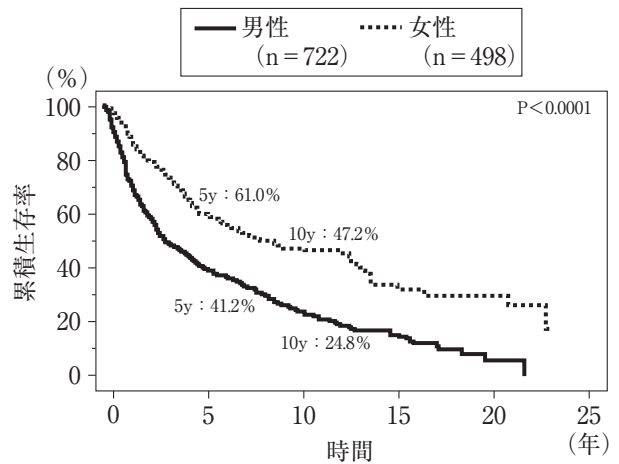


9) 検診発見肺癌の予後

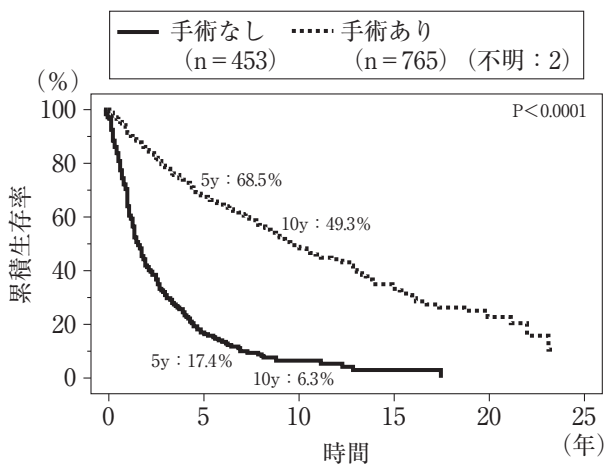
—年代別—



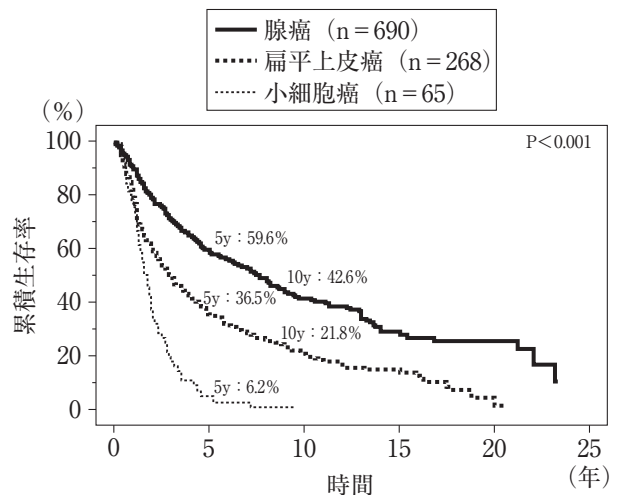
—性別—

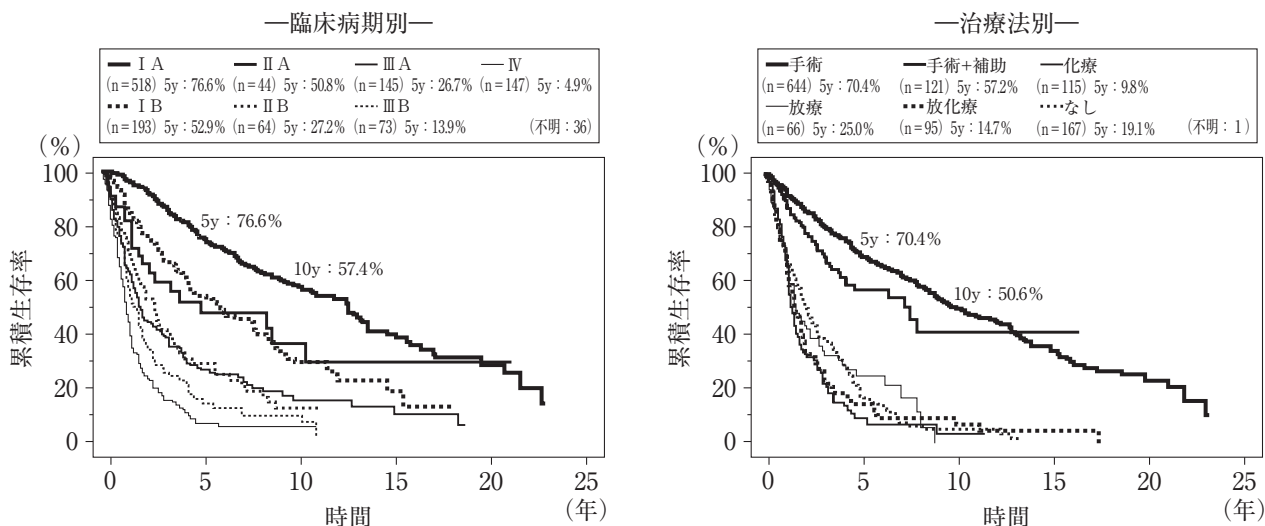


—手術の有無別—



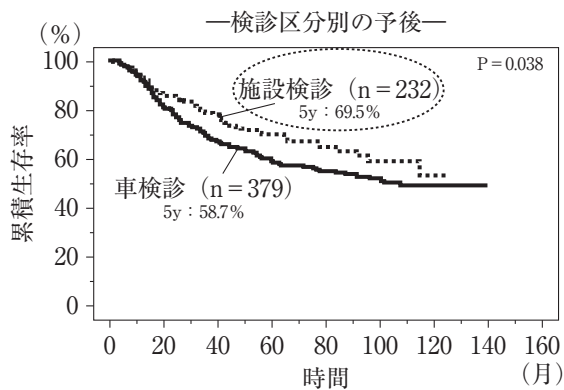
—組織型別—





10) 原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較 (平成16年度～平成26年度)

	施設検診	車検診	P値
症例数	232	379	
年齢	72.1 (42-87) 歳	73.0 (52-92) 歳	0.21
性差	男性：109；女性：123	男性：222；女性：157	0.0075
組織型	腺癌；169、扁平上皮癌；23、 小細胞癌；13、その他；26、不明1	腺癌；265、扁平上皮癌；54、 小細胞癌；21、その他；39	0.49
腫瘍径	27.2 (3-100) mm	29.1 (5-85) mm	0.13
臨床病期	IA；119、IB；40、IIA；8、 IIB；6、IIIA；19、IIIB；9、IV；29、 不明；1	IA；178、IB；56、IIA；17、 IIB；15、IIIA；36、IIIB；25、IV；45、 不明；4	0.43
手術有無	あり；164、なし；66、不明2	あり；258、なし；121	0.45
東・中・西部別	東；177、中；33、西；22	東；102、中；125、西；152	<0.0001

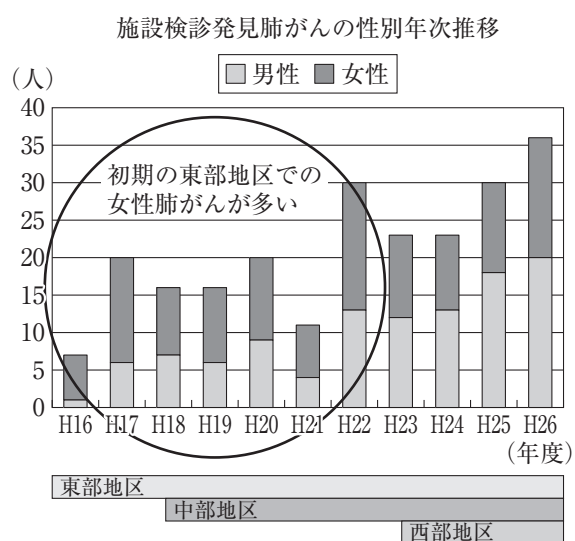


11) 原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較（平成16年度～平成26年度）

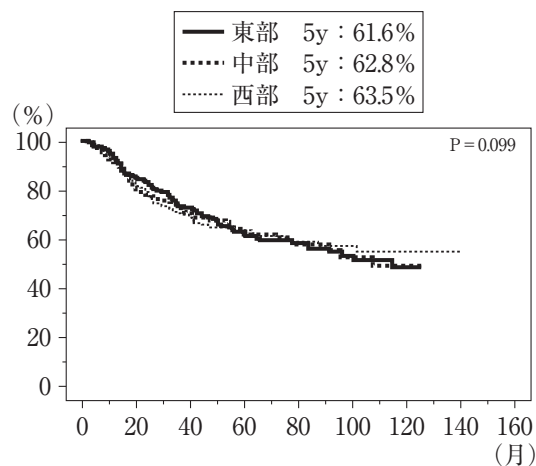
Q1：対象者に性差はあるか？

	施設検診		車検診	
	男性	女性	男性	女性
平成26年度	10,578	14,676	10,470	17,524
平成25年度	9,634	13,381	10,201	17,352
平成24年度	9,022	12,760	10,590	18,030
平成23年度	7,890	11,534	10,728	18,364
計	37,134	52,351	41,989	88,794
	(58.5%)		(67.9%)	

A：差はない、むしろ車検診に女性の割合が多い

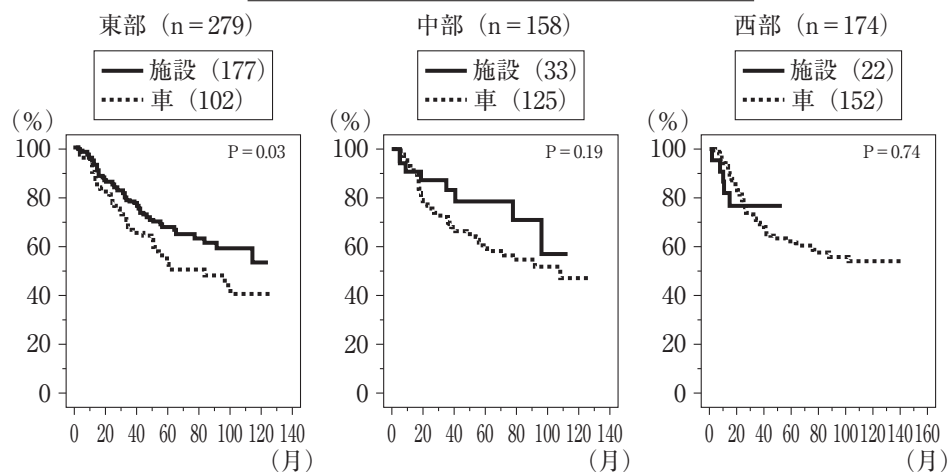


Q2：東・中・西部で差はあるか？

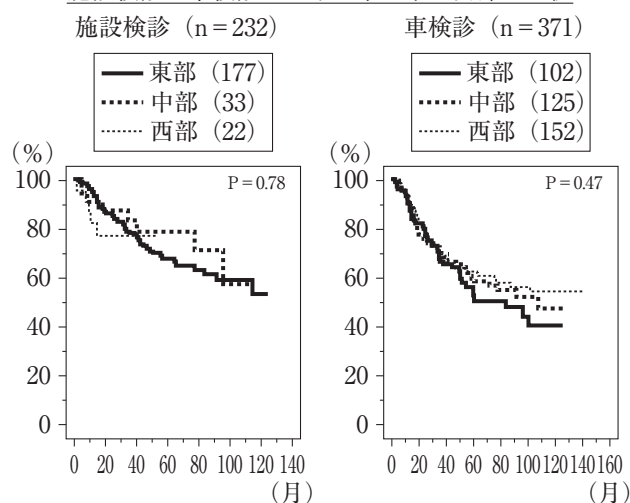


A：差はない

東・中・西部における施設検診と車検診の比較



施設検診と車検診における東・中・西部の比較



東・中・西部の肺がん確定者（施設vs車検診の比較）性差と手術の有無

	性差	施設検診	車検診	P	手術の有無	施設検診	車検診	P
東 部	男 性	74	63	0.002	あり	123	65	0.32
	女 性	103	39		なし	52	37	
中 部	男 性	21	76	0.92	あり	27	90	0.36
	女 性	12	49		なし	6	35	
西 部	男 性	14	82	0.53	あり	14	103	0.89
	女 性	8	70		なし	8	49	

不明2

* 東部の施設検診に女性が多い
 * 西部の車検診に女性が多い

* 東部の車検診に手術なしが多い
 * 中部の施設検診に手術が多い

まとめ

1. 施設検診で発見された肺がんは車検診で発見された肺がんよりも予後が良い
2. 施設検診で発見された肺がんには女性が多く、手術を受ける割合が高い
3. 施設検診で発見された肺がんは東部に多く、女性の割合が高い
4. 車検診で発見された肺がんは、東部で手術の割合が低く、西部では女性の割合が高い
5. 東部・中部・西部で発見された肺がんの予後には差がない

4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成26年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として市町村が把握している人数）は118,248人で、受診者数は18,959人、受診率16.0%で前年度より0.2ポイント増加した。2年合わせた平成26年度の最終受診率は30.5%であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数49,435人、受診者数14,812人、受診率30.0%で、全国平均（平成25年度）25.3%に比べ高い。

要精検者数1,393人、要精検率7.35%で前年度より0.45ポイント上昇した。精検受診者数1,283人、精検受診率は92.1%で、前年度より0.5ポイント上昇した。

精検の結果、乳がん92人、がん発見率（がん/受診者数）0.49%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）6.60%であり、患者数で18人、がん発見率は0.09ポイント増加した。国の目標値との比較では検診受診率は到達できていないものの、要精検率、精検受診率、検診発見がん率、陽性反応適中度では、いずれも達成できていた。圏域別では中部地区の検診受診率が東西部に比較してわずかに低く、さらなる受診勧奨が必要であると考えられる。

なお、視触診のみ受診者数は9人で、そのうち、要精検者数は1人だが、この者は精検を受診されていなかった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診（視触診、マンモグラフィ併用）

区 分	受診者数(%)	要精検者数	要精検率(%)
車 検 診 (医師雇上、保健事業団、中国労働衛生協会)	8,406 (44.3%)	532	6.33
施 設 検 診 (病院、診療所)	10,553 (55.7%)	861	8.16
計	18,959 (100%)	1,393	7.35

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
車 検 診	476	89.5	26	0.31
施 設 検 診	807	93.7	66	0.63
計	1,283	92.1	92	0.49

〈圏域別結果〉

(1) 視触診・マンモグラフィー併用

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,833	7,483	16.33	534	7.14	495	92.7	36	0.48
中 部	23,902	3,432	14.36	301	8.77	271	90.0	11	0.32
西 部	48,513	8,044	16.58	558	6.94	517	92.7	45	0.56
計	118,248	18,959	16.03	1,393	7.35	1,283	92.1	92	0.49

(2) 視触診のみ (参考)

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,833	0	0.00	0	0.00	0	0.0	0	0.00
中 部	23,902	9	0.04	1	11.11	0	0.0	0	0.00
西 部	48,513	0	0.00	0	0.00	0	0.0	0	0.00
計	118,248	9	0.01	1	11.11	0	0.0	0	0.00

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

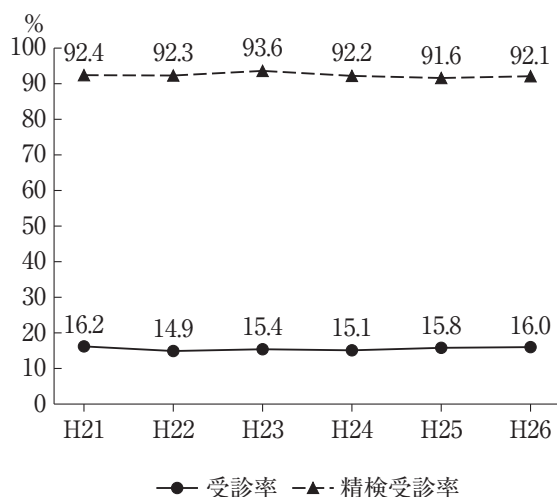
平成26年度に発見された乳がんまたは乳がん疑い97例について確定調査を行った結果、確定乳がん90例であった。このうち非浸潤癌は13例であった。平均年齢は62.3歳で、60代、70代の患者数が上昇した。早期癌の割合は71.1%であり、早期癌患者の比率が前年度より上昇した。StageⅢの患者は初回検診あるいは受診間隔のあいた患者であり、定期的受診をさらに勧めていく必要性がある。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

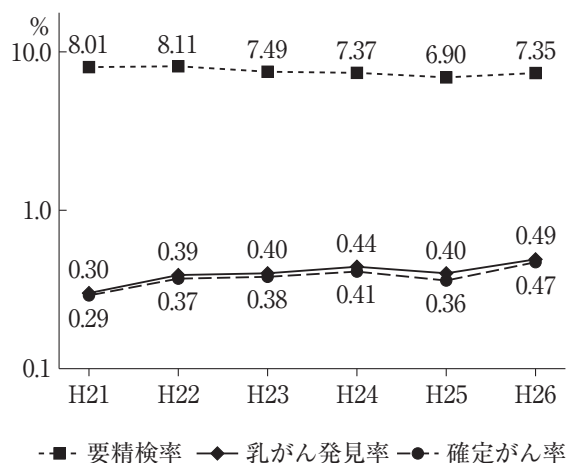
区 分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	118,676	118,676	118,248	118,248	118,248	118,248
	受 診 者 数(人) B	19,278	17,726	18,194	17,818	18,715	18,959
	受 診 率 (%) C = B/A	27.7	30.1	29.3	29.2	29.6	30.5
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	17,734	16,288	16,832	16,832	17,423	17,566
	要 精 検 者 数(人) E	1,544	1,438	1,362	1,314	1,292	1,393
	要 精 検 率 (%) F = E/B 指標 11.0%以下	8.01	8.11	7.49	7.37	6.90	7.35
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,427	1,327	1,275	1,211	1,184	1,283
	精 検 受 診 率 (%) H = G/E	92.4	92.3	93.6	92.2	91.6	92.1
精 密 検 査 結 果	乳 が ん の 者(人) I	57(1)	70(2)	72(3)	78(1)	74(2)	92(5)
	乳 が ん 発 見 率 (%) J = I/B 指標 0.23%以上	0.30	0.39	0.40	0.44	0.40	0.49
	陽 性 反 応 適 中 度 (%) K = I/E 指標 2.5%以上	3.69	4.87	5.29	5.94	5.73	6.60
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	56	65	69(70)	73	67	90
	確 定 が ん 率 (%) M = L/B	0.29	0.37	0.38	0.41	0.36	0.47

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- * 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。平成20年度報告より視・マンモ併用検診で発見された数。()内の数値は、視触診のみ検診で発見された数を含んだ数。

受診率・精検受診率の推移



要精検率・乳がん発見率・確定がん率の推移



(2) 平成26年度乳がん検診（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモともに要精検	
				要精検者数 d	異常認めず		要精検者数 f	要精検率 (%) g = f/b	要精検者数 h	要精検率 (%) i = h/b	要精検者数 j	要精検率 (%) k = j/b
40～44歳	4,048	2,461	60.8	264	2,197	10.73	66	2.68	169	6.87	29	1.18
45～49歳	3,853	1,849	48.0	206	1,643	11.14	40	2.16	141	7.63	25	1.35
50～54歳	4,974	2,202	44.3	177	2,025	8.04	31	1.41	132	5.99	14	0.64
55～59歳	8,189	2,163	26.4	173	1,990	8.00	25	1.16	130	6.01	18	0.83
60～64歳	13,797	3,257	23.6	186	3,071	5.71	30	0.92	141	4.33	15	0.46
65～69歳	14,574	2,880	19.8	158	2,722	5.49	34	1.18	109	3.78	15	0.52
70～74歳	16,049	2,384	14.9	142	2,242	5.96	37	1.55	93	3.90	12	0.50
75～79歳	18,231	1,150	6.3	53	1,097	4.61	17	1.48	32	2.78	4	0.35
80歳以上	34,533	613	1.8	34	579	5.55	8	1.31	20	3.26	6	0.98
計	118,248	18,959	16.0	1,393	17,566	7.35	288	1.52	967	5.10	138	0.73

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 l	精密検査 受診率(%) m=l/d	精密検査結果				乳がん 発見率(%) o=n/b	陽性反応 適中度(%) p=n/d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	241	91.3	117	121	0	3	0.12	1.14
45～49歳	191	92.7	84	95	0	12	0.65	5.83
50～54歳	160	90.4	69	81	2	8	0.36	4.52
55～59歳	161	93.1	83	63	1	14	0.65	8.09
60～64歳	171	91.9	88	64	1	18	0.55	9.68
65～69歳	147	93.0	83	53	0	11	0.38	6.96
70～74歳	133	93.7	79	39	1	14	0.59	9.86
75～79歳	49	92.5	30	14	0	5	0.43	9.43
80歳以上	30	88.2	15	8	0	7	1.14	20.59
計	1,283	92.1	648	538	5	92	0.49	6.60

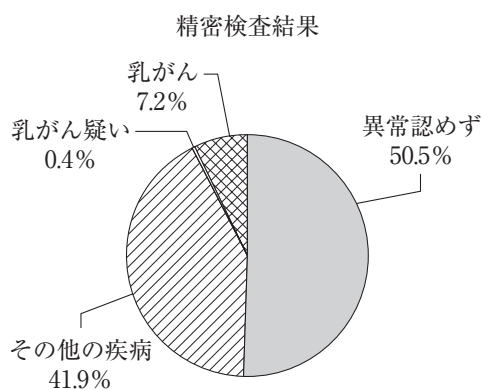
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'	一次検診結果			視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず	要精検率 (%) c'=b'/a'	要精検者数 d'	要精検率 (%) e'=d'/a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g'=f'/a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i'=h'/a'
保健事業団	8,366	527	7,839	6.30	79	0.94	418	5.00	30	0.36
病 院	8,430	689	7,741	8.17	183	2.17	419	4.97	87	1.03
診 療 所	2,123	172	1,951	8.10	25	1.18	126	5.93	21	0.99
そ の 他	40	5	35	12.50	1	2.50	4	10.00	0	0.00
計	18,959	1,393	17,566	7.35	288	1.52	967	5.10	138	0.73

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 j'	精密検査 受診率(%) k'=j'/b'	精密検査結果				乳がん 発見率(%) m'=l'/a'	陽性反応 適中度(%) n'=l'/b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	473	89.8	252	191	4	26	0.31	4.93
病 院	650	94.3	318	270	1	61	0.72	8.85
診 療 所	157	91.3	77	75	0	5	0.24	2.91
そ の 他	3	60.0	1	2	0	0	0.00	0.00
計	1,283	92.1	648	538	5	92	0.49	6.60



4) 平成26年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H	
鳥取市	35,982	2,298	3,256	5,554	15.4	173	253	426	7.67	397	93.2	211	160	4	22	186	0.40	5.2
米子市	27,227	837	3,715	4,552	16.7	39	280	319	7.01	308	96.6	127	151	0	30	181	0.66	9.4
倉吉市	10,891	513	541	1,054	9.7	46	63	109	10.34	95	87.2	54	38	0	3	41	0.28	2.8
境港市	6,968	342	800	1,142	16.4	25	85	110	9.63	100	90.9	46	47	0	7	54	0.61	6.4
岩美町	2,913	98	422	520	17.9	2	13	15	2.88	12	80.0	5	2	0	5	7	0.96	33.3
八頭町	3,918	734	150	884	22.6	48	14	62	7.01	57	91.9	27	23	0	7	30	0.79	11.3
若桜町	1,071	166	33	199	18.6	11	2	13	6.53	12	92.3	6	6	0	0	6	0.00	0.0
智頭町	1,949	137	189	326	16.7	7	11	18	5.52	17	94.4	9	6	0	2	8	0.61	11.1
湯梨浜町	3,566	537	150	687	19.3	31	23	54	7.86	48	88.9	26	20	0	2	22	0.29	3.7
三朝町	1,666	251	14	265	15.9	18	4	22	8.30	21	95.5	14	6	0	1	7	0.38	4.5
北栄町	3,404	521	59	580	17.0	30	9	39	6.72	37	94.9	26	10	0	1	11	0.17	2.6
琴浦町	4,375	674	172	846	19.3	46	31	77	9.10	70	90.9	35	31	0	4	35	0.47	5.2
南部町	2,567	318	376	694	27.0	20	23	43	6.20	28	65.1	15	11	0	2	13	0.29	4.7
伯耆町	2,798	272	172	444	15.9	8	11	19	4.28	16	84.2	9	5	0	2	7	0.45	10.5
日吉津村	633	102	86	188	29.7	4	9	13	6.91	13	100.0	9	3	1	0	4	0.00	0.0
大山町	4,483	256	203	459	10.2	12	16	28	6.10	27	96.4	15	11	0	1	12	0.22	3.6
日南町	1,773	202	21	223	12.6	8	5	13	5.83	12	92.3	7	2	0	3	5	1.35	23.1
日野町	1,096	148	0	148	13.5	4	0	4	2.70	4	100.0	2	2	0	0	2	0.00	0.0
江府町	968	0	194	194	20.0	0	9	9	4.64	9	100.0	5	4	0	0	4	0.00	0.0
合計	118,248	8,406	10,553	18,959	16.0	532	861	1,393	7.35	1,283	92.1	648	538	5	92	635	0.49	6.6
東部	45,833	3,433	4,050	7,483	16.3	241	293	534	7.14	495	92.7	258	197	4	36	237	0.48	6.7
中部	23,902	2,496	936	3,432	14.4	171	130	301	8.77	271	90.0	155	105	0	11	116	0.32	3.7
西部	48,513	2,477	5,567	8,044	16.6	120	438	558	6.94	517	92.7	235	236	1	45	282	0.56	8.1

【参考】

平成26年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一 次 検 診 者 数	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
40 ～ 44 歳	4	1	3	25.00
45 ～ 49 歳	2	0	2	0.00
50 ～ 54 歳	1	0	1	0.00
55 ～ 59 歳	0	0	0	0.00
60 ～ 64 歳	1	0	1	0.00
65 ～ 69 歳	0	0	0	0.00
70 ～ 74 歳	0	0	0	0.00
75 ～ 79 歳	1	0	1	0.00
80 歳 以 上	0	0	0	0.00
計	9	1	8	11.11

2) 検診機関別

a. 一次検診結果

検 診 機 関	一 次 検 診 者 数	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
保健事業団	0	0	0	0.00
病 院	3	1	2	33.33
診 療 所	6	0	6	0.00
そ の 他	0	0	0	0.00
計	9	1	8	11.11

※要精検者1名は精密検査未受診

(3) 平成26年度検診発見乳がん確定調査結果

1) 登録届け出数 97

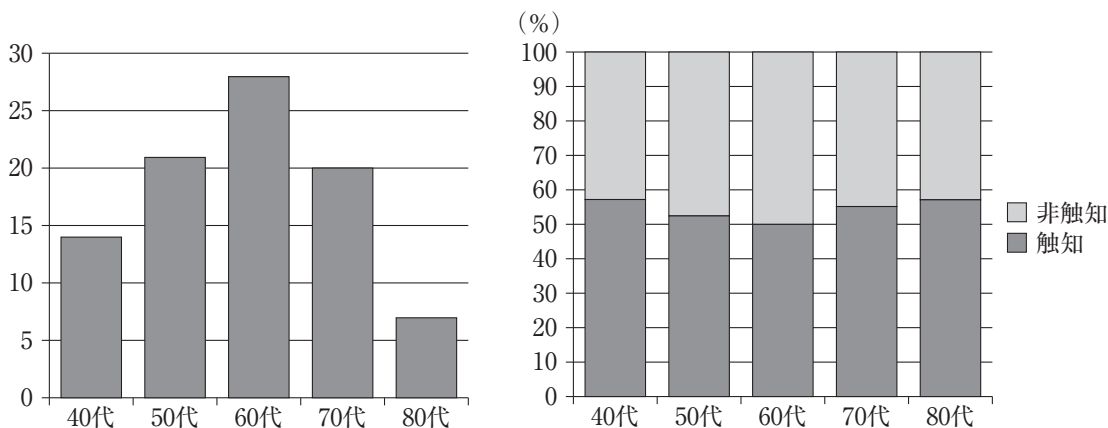
組織学的に確定された乳癌 90

鳥取市 23例 米子市 29例 倉吉市 3例 境港市 7例

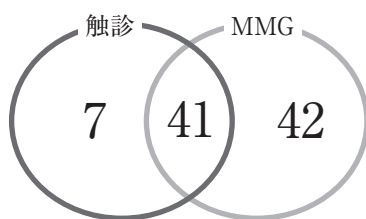
岩美町 5例 智頭町 2例 八頭町 7例 湯梨浜町 2例 琴浦町 4例

北栄町 1例 南部町 2例 伯耆町 2例 日南町 3例

2) 年齢構成 平均年齢：62.3歳

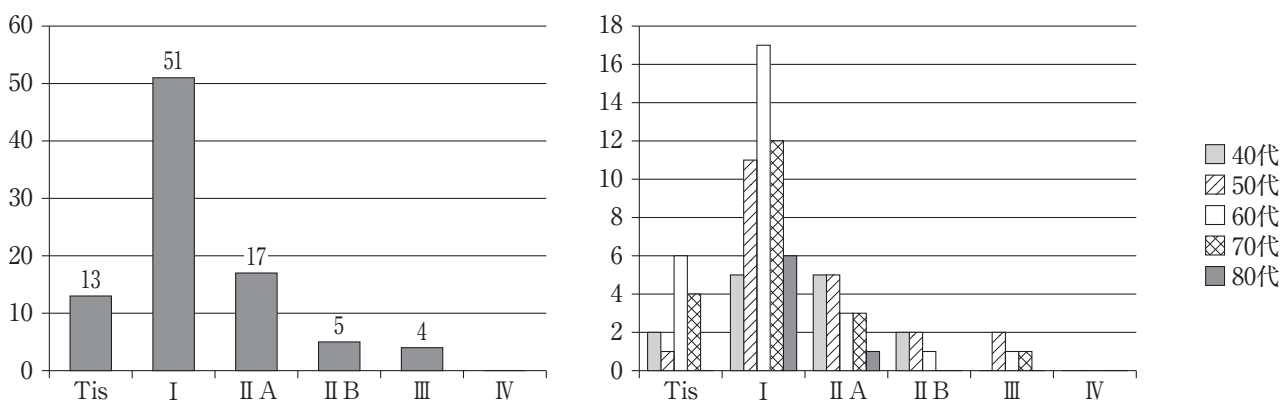


3) 触診とMMGの結果



検診発見乳癌90例中7例が視触診のみで発見されている。

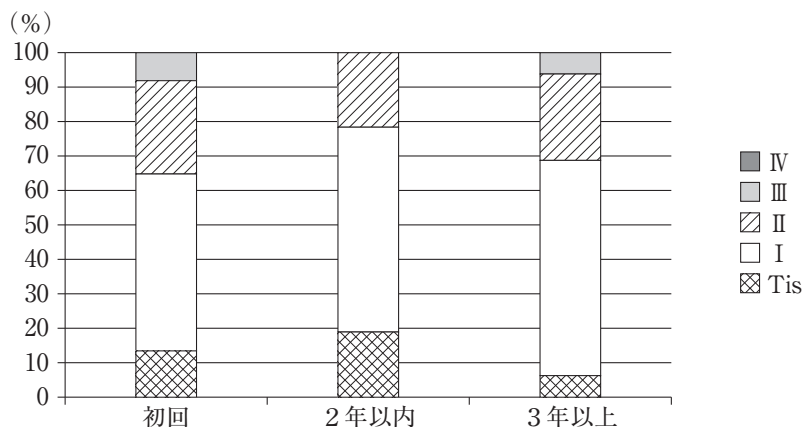
4) 病期分類



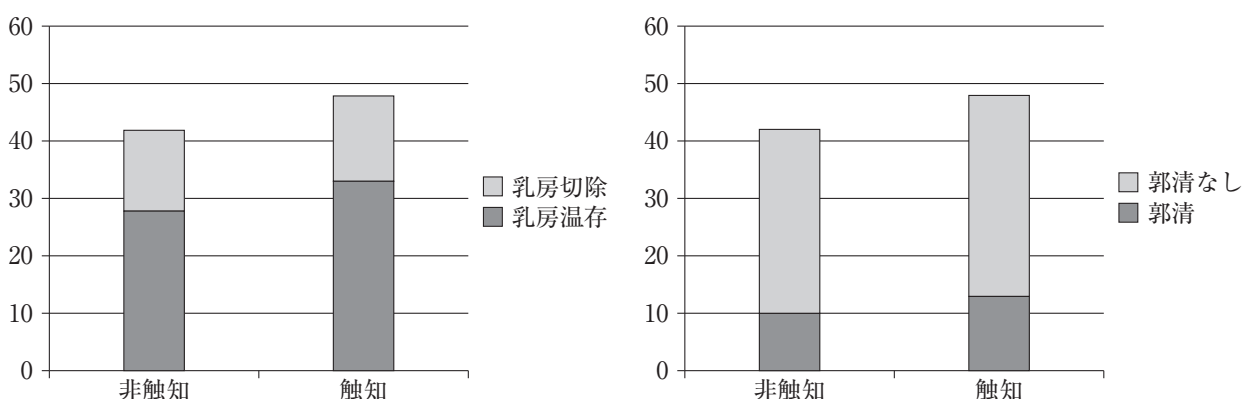
5) 組織型

非浸潤癌 13例 浸潤性乳管癌 69例 特殊型 8例

6) 検診歴と病期



7) 手術術式



リンパ節転移：あり16例 なし74例

8) 薬物治療

化学療法単独(T-mab)	11例
内分泌療法	55例
化学+内分泌	19例
薬物療法なし	5例
放射線治療	47例

まとめ

1. 平成26年度の確定乳癌は現時点で90例で前年度に比較して約25%の増加がみられた。70代、60代の患者の増加が顕著であった。
2. 非浸潤癌は13例、Stage Iが51例で、早期癌の比率は71.1%であった。前年度の62.5%と比較して早期癌比率の上昇を認めた。
3. 乳癌患者の中で触診で要精査となった症例は48例（53.3%）であり、触診のみで発見された乳癌は7例（7.8%）であった。触診のみで発見される乳癌の比率は前年度とほぼ同等であった。
4. 検診歴と早期乳癌の発見率に関しては、2年以内の経年受診の患者で最も早期癌の比率が高かった。
5. 術式、リンパ節郭清に関しては、非触知乳癌と触知乳癌で有意な差を認めなかった。
6. 検診発見癌で内分泌療法を受けた割合は74例（82.2%）で高い値であった。化学療法は30例（33.3%）で行われており、昨年（37.5%）とほぼ同様であった。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

平成26年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は190,556人で、このうち受診者数は57,502人、受診率は30.2%で、前年度に比べ受診者数1,946人、受診率は1.0ポイント増加した。平成20年度以降、無料クーポン補助事業が行われたことにより、受診者数、受診率とも上昇傾向にある。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数82,800人、受診者数31,658人、受診率38.2%で、全国平均（平成25年度）受診率19.2%に比較し高い。

このうち要精検者数は5,280人、要精検率9.2%で、平成25年度より0.6ポイント減少となったが、プロセス指標の目標値である7.0%を上回っている。要精検者のうち精密検査を受診したのは4,049人、精検受診率は76.7%（前年度比0.6ポイント減）で、プロセス指標の目標値90%は下回るが許容値の70%以上は維持されている。また、精検の結果、大腸がんであった者が156人で、がん発見率は0.27%（前年度比0.01ポイント増）、陽性反応適中度は3.0%（前年度比0.3ポイント増）であり、いずれもプロセス指標の許容値は上回っている。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
地 域 検 診 (保健事業団・ファルコ・中国労働衛生協会)	22,494 (39.1%)	1,690	7.5	7.5	7.1	8.1
施 設 検 診 (病院・診療所)	35,008 (60.9%)	3,590	10.3	9.3	13.2	10.6
計	57,502 (100%)	5,280	9.2	8.7	8.6	10.0

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
地 域 検 診	1,248	73.8	60	0.267	0.331	0.240	0.217
施 設 検 診	2,801	78.0	96	0.274	0.274	0.251	0.279
計	4,049	76.7	156	0.271	0.293	0.243	0.262

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区 分	受診者数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	8,167	613	7.5	450	73.4	0	27	0.331
中 部	8,335	592	7.1	427	72.1	0	20	0.240
西 部	5,992	485	8.1	371	76.5	3	13	0.217
計	22,494	1,690	7.5	1,248	73.8	3	60	0.267

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	16,086	1,504	9.3	1,188	79.0	2	44	0.274
中 部	2,794	370	13.2	272	73.5	0	7	0.251
西 部	16,128	1,716	10.6	1,341	78.1	5	45	0.279
計	35,008	3,590	10.3	2,801	78.0	7	96	0.274

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い166例について確定調査を行った結果、確定癌155例（地域検診57例、施設検診98例）、腺腫9例、個人情報提供不可のため調査が出来なかったものが1例、がんでなかったものが1例であった。そのうち早期がんは94例、早期癌率は60.6%であった。

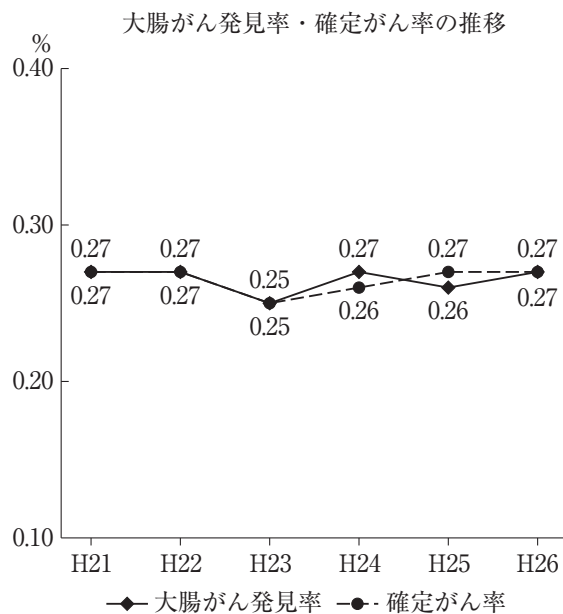
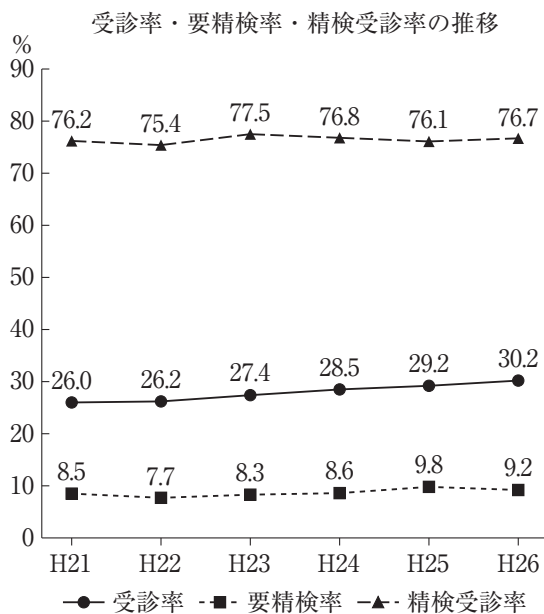
調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも60歳以上からがんが多く発見され、70歳代が一番多く、今年は特に80歳以上の割合が増加した。40歳代からがんが3例発見され、内訳はS状結腸Isp SM癌、進行癌2例であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が66.5%、肉眼分類では「2」34.8%であった。早期癌94例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が45.8%であった。例年通りの結果であった。
- (3) 大きさは、内視鏡治療が増えたことにより、20mm以下の小さい癌が6割であった。
- (4) Dukes分類は「A」が72.9%、組織型分類は「Well」が52.9%、「Mod」が38.7%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が30例（19.4%）、内視鏡下手術48例（31.0%）、内視鏡治療は73例（47.1%）であった。例年通りの結果であった。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは14例（東部9例、中部2例、西部3例）であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	188,186	188,186	190,556	190,556	190,556	190,556
	受 診 者 数(人) B	48,949	49,374	52,192	54,362	55,556	57,502
	受 診 率(%) C = B/A	26.0	26.2	27.4	28.5	29.2	30.2
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	44,780	45,598	47,885	49,693	50,100	52,222
	要 精 検 者 数(人) E	4,169	3,776	4,307	4,669	5,456	5,280
	要 精 検 率(%) F = E/B <small>指標：許容値7.0%以下</small>	8.52	7.65	8.25	8.59	9.82	9.18
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,178	2,848	3,340	3,588	4,151	4,049
	精 検 受 診 率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	76.2	75.4	77.5	76.8	76.1	76.7
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	134(8)	133(5)	131(9)	149(4)	146(9)	156(10)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B <small>指標：許容値0.13%以上</small>	0.27	0.27	0.25	0.27	0.26	0.27
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E <small>指標：許容値1.9%以上</small>	3.2	3.5	3.0	3.2	2.7	3.0
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	134	132	131	142	148	155
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.27	0.27	0.25	0.26	0.27	0.27

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成26年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a		一次検診 受診者数 b		受診率 (%) c = b / a			一次検診結果				要精検率 (%) e = d / b		
								要精検者数 d		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	957	1,876	44.3	46.3	45.6	58	121	899	1,755	6.1	6.4	6.3
45～49歳	2,326	3,853	749	1,604	32.2	41.6	38.1	43	110	706	1,494	5.7	6.9	6.5
50～54歳	3,058	4,974	877	1,990	28.7	40.0	35.7	58	122	819	1,868	6.6	6.1	6.3
55～59歳	4,908	8,189	1,240	2,895	25.3	35.4	31.6	94	193	1,146	2,702	7.6	6.7	6.9
60～64歳	9,854	13,797	3,044	5,110	30.9	37.0	34.5	302	355	2,742	4,755	9.9	6.9	8.1
65～69歳	11,061	14,574	4,659	6,603	42.1	45.3	43.9	467	493	4,192	6,110	10.0	7.5	8.5
70～74歳	11,588	16,049	4,318	6,098	37.3	38.0	37.7	521	505	3,797	5,593	12.1	8.3	9.9
75～79歳	11,797	17,672	3,267	4,685	27.7	26.5	27.0	419	472	2,848	4,213	12.8	10.1	11.2
80歳以上	15,558	35,092	3,122	4,408	20.1	12.6	14.9	446	501	2,676	3,907	14.3	11.4	12.6
計	72,308	118,248	22,233	35,269	30.7	29.8	30.2	2,408	2,872	19,825	32,397	10.8	8.1	9.2
合 計	190,556		57,502		30.2			5,280		52,222		9.2		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん h							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	41	85	70.7	70.2	70.4	19	53	21	31	0	0	1	1	0.104	0.053	0.071	1.7	0.8	1.1
45～49歳	31	80	72.1	72.7	72.5	15	42	16	36	0	0	0	2	0.000	0.125	0.085	0.0	1.8	1.3
50～54歳	35	85	60.3	69.7	66.7	11	40	23	42	0	0	1	3	0.114	0.151	0.140	1.7	2.5	2.2
55～59歳	72	148	76.6	76.7	76.7	19	76	48	71	0	0	5	1	0.403	0.035	0.145	5.3	0.5	2.1
60～64歳	226	284	74.8	80.0	77.6	49	122	167	146	2	0	8	16	0.263	0.313	0.294	2.6	4.5	3.7
65～69歳	354	399	75.8	80.9	78.4	81	167	257	225	1	1	15	6	0.322	0.091	0.186	3.2	1.2	2.2
70～74歳	417	414	80.0	82.0	81.0	108	164	288	232	0	1	21	17	0.486	0.279	0.365	4.0	3.4	3.7
75～79歳	340	376	81.1	79.7	80.4	73	150	254	209	0	3	13	14	0.398	0.299	0.340	3.1	3.0	3.0
80歳以上	330	332	74.0	66.3	69.9	85	127	229	187	1	1	15	17	0.480	0.386	0.425	3.4	3.4	3.4
計	1,846	2,203	76.7	76.7	76.7	460	941	1,303	1,179	4	6	79	77	0.355	0.218	0.271	3.3	2.7	3.0
合 計	4,049		76.7			1,401		2,482		10		156		0.271			3.0		

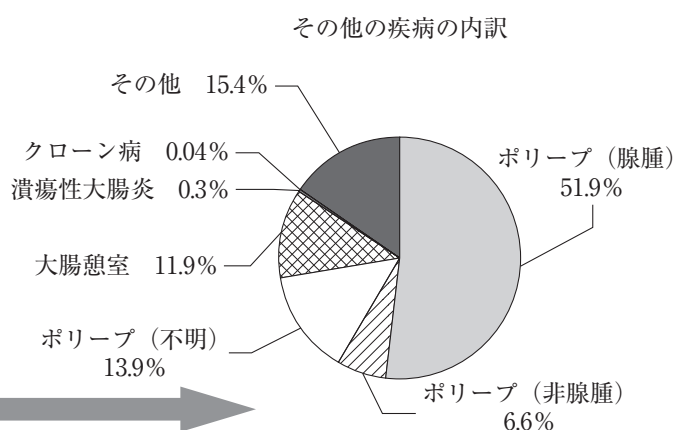
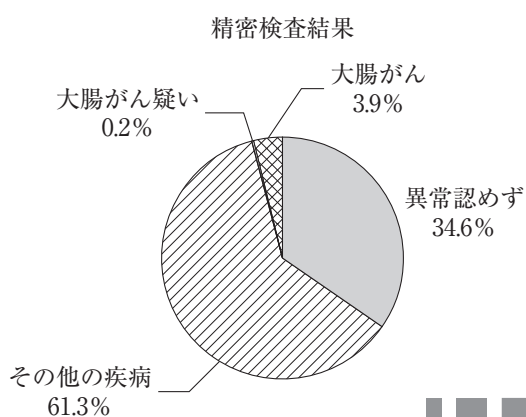
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%)		
			要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	8,359	13,281	727	924	7,632	12,357	8.7	7.0	7.6
ファルコ	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
中国労働衛生協会	349	505	18	21	331	484	5.2	4.2	4.6
地域検診小計	8,708	13,786	745	945	7,963	12,841	8.6	6.9	7.5
病院	4,155	6,106	560	600	3,595	5,506	13.5	9.8	11.3
診療所	9,370	15,377	1,103	1,327	8,267	14,050	11.8	8.6	9.8
施設検診小計	13,525	21,483	1,663	1,927	11,862	19,556	12.3	9.0	10.3
計	22,233	35,269	2,408	2,872	19,825	32,397	10.8	8.1	9.2
合計	57,502		5,280		52,222		9.2		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	527	689	72.5	74.6	73.7	134	285	367	367	1	2	25	35	0.299	0.264	0.277	3.4	3.8	3.6
中国労働衛生協会	16	16	88.9	76.2	82.1	5	11	11	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
地域検診小計	543	705	72.9	74.6	73.8	139	296	378	372	1	2	25	35	0.287	0.254	0.267	3.4	3.7	3.6
病院	436	454	77.9	75.7	76.7	105	200	318	249	1	1	12	4	0.289	0.066	0.156	2.1	0.7	1.4
診療所	867	1,044	78.6	78.7	78.6	216	445	607	558	2	3	42	38	0.448	0.247	0.323	3.8	2.9	3.3
施設検診小計	1,303	1,498	78.4	77.7	78.0	321	645	925	807	3	4	54	42	0.399	0.196	0.274	3.2	2.2	2.7
計	1,846	2,203	76.7	76.7	76.7	460	941	1,303	1,179	4	6	79	77	0.355	0.218	0.271	3.3	2.7	3.0
合計	4,049		76.7			1,401		2,482		10		156		0.271			3.0		



4) 平成26年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員											
	対象者数	地域検診	施設検診	計	受診率 (%)	地域検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	常その他の	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H		
鳥取市	57,433	3,806	14,050	17,856	31.1	294	1,364	1,658	9.3	1,258	75.9	439	764	0	55	819	0.308	3.3		
米子市	42,442	0	12,263	12,263	28.9	0	1,262	1,262	10.3	988	78.3	347	604	3	34	641	0.277	2.7		
倉吉市	17,700	1,535	1,667	3,202	18.1	98	236	334	10.4	248	74.3	82	157	0	9	166	0.281	2.7		
境港市	11,307	959	2,354	3,313	29.3	103	245	348	10.5	297	85.3	85	198	2	12	212	0.362	3.4		
岩美町	4,844	1,245	446	1,691	34.9	105	6	111	6.6	106	95.5	40	61	0	5	66	0.296	4.5		
八頭町	6,534	2,544	325	2,869	43.9	167	36	203	7.1	151	74.4	65	79	0	7	86	0.244	3.4		
若桜町	1,776	369	320	689	38.8	26	22	48	7.0	46	95.8	8	35	0	3	38	0.435	6.3		
智頭町	3,263	203	945	1,148	35.2	21	76	97	8.4	77	79.4	23	51	2	1	54	0.087	1.0		
湯梨浜町	5,964	1,493	620	2,113	35.4	105	79	184	8.7	150	81.5	60	86	0	4	90	0.189	2.2		
三朝町	2,767	660	149	809	29.2	43	13	56	6.9	43	76.8	12	30	0	1	31	0.124	1.8		
北栄町	5,729	2,382	237	2,619	45.7	180	30	210	8.0	132	62.9	42	81	0	9	90	0.344	4.3		
琴浦町	7,221	2,265	121	2,386	33.0	166	12	178	7.5	126	70.8	33	89	0	4	93	0.168	2.2		
南部町	4,221	562	1,010	1,572	37.2	39	172	211	13.4	137	64.9	52	82	0	3	85	0.191	1.4		
伯耆町	4,533	1,401	0	1,401	30.9	102	0	102	7.3	71	69.6	28	39	1	3	43	0.214	2.9		
日吉津村	995	282	186	468	47.0	25	12	37	7.9	28	75.7	11	16	0	1	17	0.214	2.7		
大山町	7,503	1,078	241	1,319	17.6	82	21	103	7.8	75	72.8	32	39	0	4	43	0.303	3.9		
日南町	2,966	592	74	666	22.5	65	4	69	10.4	66	95.7	23	42	1	0	43	0.000	0.0		
日野町	1,733	431	0	431	24.2	37	0	37	8.6	22	59.5	5	15	1	1	17	0.232	2.7		
江府町	1,575	687	0	687	43.6	32	0	32	4.7	28	87.5	14	14	0	0	14	0.000	0.0		
合計	190,556	22,494	35,008	57,502	30.2	1,690	3,590	5,280	9.2	4,049	76.7	1,401	2,482	10	156	2,648	0.271	3.0		
東部	73,850	8,167	16,086	24,253	32.8	613	1,504	2,117	8.7	1,638	77.4	575	990	2	71	1,063	0.293	3.4		
中部	39,381	8,335	2,794	11,129	28.3	592	370	962	8.6	699	72.7	229	443	0	27	470	0.243	2.8		
西部	77,325	5,992	16,128	22,120	28.6	485	1,716	2,201	10.0	1,712	77.8	597	1,049	8	58	1,115	0.262	2.6		

(3) 平成26年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	27	20	16	63	46	7	50	103	73	27	66	166
確定癌	25	18	14	57	45	7	46	98	70	25	60	155
腺腫	2	2	2	6	0	0	3	3	2	2	5	9
その他	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	1	2

※その他：個人情報提供不可1件、非癌1件

腺腫のケースも含め、組織診断が判明する前に、報告票を提出してしまっている。

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	0	2	3	8	4	1	6	24
	女	1	0	2	0	7	3	6	8	6	33
	計	1	0	2	2	10	11	10	9	12	57
施設	男	0	0	1	3	7	9	13	11	11	55
	女	0	2	1	1	8	3	10	6	12	43
	計	0	2	2	4	15	12	23	17	23	98
計	男	0	0	1	5	10	17	17	12	17	79
	女	1	2	3	1	15	6	16	14	18	76
総計		1	2	4	6	25	23	33	26	35	155

※40代 3名内訳（S状結腸Isp SM癌、S状結腸2型SS（A）、直腸2型MP）

80歳以上の割合が増加

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	4	5	4	13	10	1	20	31	44(28.4)
S	13	5	7	25	18	4	12	34	59(38.1)
D	0	1	0	1	2	0	1	3	4(2.6)
T	1	1	2	4	3	0	2	5	9(5.8)
A	5	5	1	11	10	1	8	19	30(19.4)
C	2	1	0	3	2	1	2	5	8(5.2)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	1	1	1(0.6)
計	25	18	14	57	45	7	46	98	155

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0~10	7	4	4	15	10	4	8	22	37(23.9)
11~20	10	8	8	26	15	3	12	30	56(36.1)
21~50	6	6	2	14	14	0	15	29	43(27.7)
51~	2	0	0	2	6	0	6	12	14(9.0)
不明	0	0	0	0	0	0	5	5	5(3.2)
計	25	18	14	57	45	7	46	98	155

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	40	54	94(60.6)
1	2	4	6(3.9)
2	15	39	54(34.8)
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	1	1(0.6)
計	57	98	155

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	8	9	17(18.1)
I sp	10	16	26(27.7)
I s	5	12	17(18.1)
II a	10	12	22(23.4)
II a + II c	4	4	8(8.5)
II b	0	0	0
II c	1	1	2(2.1)
III	0	0	0
その他	2	0	2(2.1)
不明	0	0	0
計	40	54	94

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	13	9	3	20	5	19	69(44.5)
sm	6	3	6	5	2	3	25(16.1)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	19	12	9	25	7	22	94(60.6)
mp	0	2	2	6	0	6	16(10.3)
ss	5	4	3	11	0	10	33(21.3)
se	1	0	0	3	0	3	7(4.5)
si	0	0	0	0	0	1	1(0.6)
不明	0	0	0	0	0	4	4(2.6)
計	25	18	14	45	7	46	155

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	18	15	10	34	7	29	113(72.9)
B	3	0	0	4	0	3	10(6.5)
C	4	2	4	4	0	7	21(13.5)
D	0	0	0	2	0	3	5(3.2)
不明	0	1	0	1	0	4	6(3.9)
計	25	18	14	45	7	46	155

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	15	11	4	24	5	23	82(52.9)
Mod	8	6	9	19	1	17	60(38.7)
Por	0	0	0	0	0	1	1(0.6)
Muc	1	0	0	0	0	1	2(1.3)
その他	0	0	1	0	0	1	2(1.3)
不明	1	1	0	2	1	3	8(5.2)
計	25	18	14	45	7	46	155

※その他：pap, carcinoid

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	2	4	5	7	1	11	30(19.4)
内視鏡下手術	9	5	5	17	0	12	48(31.0)
内視鏡治療	14	9	4	21	6	19	73(47.1)
その他不明	0	0	0	0	0	4	4(2.6)
計	25	18	14	45	7	46	155

表11 平成26年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No.	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果		
												検診方式	便潜血	精密結果
地域 検診	東部	1	76	女性	盲腸	30mm	SS(A)	2	Mod	++	Ⅲ b	地域	- +	未受診
		2	86	男性	横行結腸	53mm	SS(A)	2	Mod	+ -	Ⅱ	地域	- -	
		3	67	男性	S状結腸	34mm	SS(A)	2	Mod	++	Ⅱ	地域	- +	未受診
		4	63	男性	S状結腸	30mm	SS(A)	2	Well	++	Ⅱ	地域	- -	
		5	83	女性	直腸	31mm	SS(A)	2	Mod	++	Ⅲ a	地域	- -	
	中部	6	89	女性	直腸	20mm	MP	2	Mod	++	Ⅰ	地域	- -	
		7	68	男性	S状結腸	13mm	SS(A)	1	Well	++	Ⅲ a	地域	- -	
施設 検診	東部	8	63	男性	上行結腸	50mm	MP		Well	++	Ⅰ	施設	++	早期陥凹型癌 H26.10月 外科手術
		9	77	男性	直腸	18mm	MP	2	Mod	++	Ⅲ a	施設	- -	
		10	87	女性	S状結腸	18mm	SS(A)	2	Mod	++	Ⅱ	施設	- +	未受診
		11	74	女性	上行結腸	48mm	SE	2	Mod	++	Ⅲ a	施設	- -	
	西部	12	82	女性	直腸	50mm	SI	1		++		施設	- -	
		13	72	男性	直腸	35mm	SS(A)	1	Mod	++	Ⅱ	施設	- -	
		14	80	女性	上行結腸	26mm	MP	2	Well	++	Ⅰ	地域	- -	

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成26年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成26年度は19市町村で実施し、対象者数202,322人のうち、受診者数は8,321人で、受診率は4.1%で、平成25年度と同率であった。平成23年度より国が40歳以上5歳刻みの方を対象にした無料クーポン券事業を導入したこと等により受診者数は年々増加傾向である。

検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は124人、HCV抗体のみ陽性者は26人で、HBs抗原陽性率1.5%で、HCV抗体陽性率0.3%であった。

要精検者150人のうち精検受診者は97人であり、精検受診率は64.7%で、平成25年度に比べ7.4ポイントの減であった。精検受診者97人のうち、肝臓がん2、がん発見率は0.02%であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対する定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は15市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導 対 象 者 (人)	定期検査 受診者数 (人)	定期検査結果 (人・%)			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,720	875	139 (15.9)	8 (0.9)	5 (0.6)	3 (0.3)
C型肝炎ウイルス陽性者	844	407	200 (49.1)	18 (4.4)	7 (1.7)	6 (1.5)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成26年度の20年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数141,267人、推計受診率73.5%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,257人（陽性率2.31%）、HCV抗体陽性者は3,670人（陽性率2.60%）であった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

(1) 平成26年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がん確定は2名だった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が3名であった。

(2) 平成7～25年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、27例が確定癌であり、そのうち23例は死亡、生存中の4例のうち、2例は再発、2例は再発されていない。また、平成10～25年度定期検査確定がんが139例で、そのうち95例（他病死を含む）が死亡である。

がんと診断されてから10年以上生存されている方は、非常に稀であり、肝炎ウイルス検査で陽性の方を早期に発見し、定期検査をきちんと受診していただくことが重要である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

1) 一次検診

年 度	受 診 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
H24	4,777	83	1.7	23	0.5
H25	8,126	148	1.8	35	0.4
H26	8,321	124	1.5	26	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
H24	105	59	56.2	0	0.00
H25	183	132	72.1	1	0.01
H26	150	97	64.7	2	0.02

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 年齢階級別受診状況

区 分	平成26年度			平成7～26年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	1,277	0.8	0.2	12,468	2.29	0.70
45～49歳	678	1.0	0.3	10,282	3.26	1.36
50～54歳	676	1.0	0.0	12,022	3.31	1.64
55～59歳	898	1.4	0.2	15,124	2.77	2.17
60～64歳	1,514	2.2	0.5	25,066	2.31	2.70
65～69歳	1,594	2.1	0.2	26,607	2.22	3.09
70～74歳	1,081	1.4	0.5	22,567	1.77	3.44
75～79歳	276	0.4	1.1	9,756	1.51	3.87
80歳以上	327	1.2	0.6	7,375	1.38	3.58
計	8,321	1.5	0.3	141,267	2.31	2.60

(2) 平成26年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一次検診受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) e = (b+d)/a			HCV抗体陽性率 (%) f = (c+d)/a		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b+d)/a	f = (c+d)/a	e = (b+d)/a	f = (c+d)/a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	471	806	464	801	5	5	2	0	0	0	1.1	0.6	0.8	0.4	0.0	0.2
45～49歳	230	448	227	442	2	5	1	1	0	0	0.9	1.1	1.0	0.4	0.2	0.3
50～54歳	242	434	238	431	4	3	0	0	0	0	1.7	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0
55～59歳	318	580	309	574	7	6	2	0	0	0	2.2	1.0	1.4	0.6	0.0	0.2
60～64歳	680	834	660	814	15	18	5	2	0	0	2.2	2.2	2.2	0.7	0.2	0.5
65～69歳	794	800	776	781	15	19	3	0	0	0	1.9	2.4	2.1	0.4	0.0	0.2
70～74歳	533	548	525	536	7	8	1	4	0	0	1.3	1.5	1.4	0.2	0.7	0.5
75～79歳	129	147	128	144	1	0	0	3	0	0	0.8	0.0	0.4	0.0	2.0	1.1
80歳以上	108	219	105	216	2	2	1	1	0	0	1.9	0.9	1.2	0.9	0.5	0.6
計	3,505	4,816	3,432	4,739	58	66	15	11	0	0	1.7	1.4	1.5	0.4	0.2	0.3
合 計	8,321		8,171		124		26		0		1.5			0.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者		精密検査対象者診断結果												肝臓がん発見率 h = g / a					
		無症候性キャリア		脂肪肝			慢性肝炎			アルコール性肝障害			肝臓がん疑い			肝臓がん		その他の疾病		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40~44歳	B型陽性	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	5	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45~49歳	B型陽性	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
50~54歳	B型陽性	3	2	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	3	2	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
55~59歳	B型陽性	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
60~64歳	B型陽性	10	15	6	8	3	0	2	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	3	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	13	16	6	8	3	0	2	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
65~69歳	B型陽性	6	13	5	9	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	7	13	5	9	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
70~74歳	B型陽性	3	6	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	4	10	3	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
75~79歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
80歳以上	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	B型陽性	31	48	21	33	4	0	5	11	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	9	9	0	2	1	0	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	40	57	21	35	5	0	11	14	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	B型陽性	79	54	4	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	C型陽性	18	2	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	97	56	5	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 検診機関別

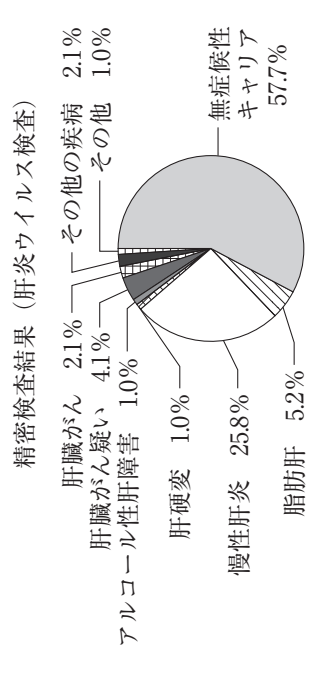
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'		e' = (b' + d')/a'			f' = (c' + d')/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
直 営	71	81	71	81	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	892	1,428	874	1,404	15	22	3	2	0	0	1.7	1.5	1.6	0.3	0.1	0.2
中国労働衛生協会	67	81	65	81	2	0	0	0	0	0	3.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0
病 院	573	747	562	739	9	6	2	2	0	0	1.6	0.8	1.1	0.3	0.3	0.3
診 療 所	1,902	2,479	1,860	2,434	32	38	10	7	0	0	1.7	1.5	1.6	0.5	0.3	0.4
計	3,505	4,816	3,432	4,739	58	66	15	11	0	0	1.7	1.4	1.5	0.4	0.2	0.3
合 計	8,321		8,171		124		26		0		1.5			0.3		

b. 精密検査結果

一次 検査機関	区分	精密検査者		精密検査結果												肝臓がん 発見率 (%) h' = g' / a'			
		精受診者		健康指導対象者						診断名						その他		男	女
		男	女	脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
無症候性キャリア		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		男	女		
直営	B型陽性	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健事業団	全体	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	4	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
中国労働衛生協会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	5	14	4	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	5	5	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
診療所	B型陽性	3	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	27	35	11	23	4	0	10	8	0	1	2	0	1	2	0	1	0	0.000
	B型陽性	21	30	11	22	4	0	5	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.134
	C型陽性	6	5	0	1	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	40	57	21	35	5	0	11	14	0	1	3	0	1	3	0	2	1	0.000
	B型陽性	79	54	16	25	4	0	16	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0.042
合計	C型陽性	18	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	97	56	25	1	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.024

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 「がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上



4) 平成26年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
実施市町村数=19

市町村名	受診者数				陽性者数				精密検査結果					人員				
	対象者数 A	集団検診 B	医療機関 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	HBs抗原 のみ陽性 F	HCV抗体 のみ陽性 G	HBs抗原 HCV抗体 ともに陽性 H	HBs抗原 陽性率 (%) I=(F+H)/D	HCV抗体 陽性率 (%) J=(G+H)/D	精 受診者数 K	精 受診率 (%) L=k/(F+G+H)	無症候性 キャリア M		その他 の疾病 N	が人 疑い O	が P	有所見者 Q=N+O+P
鳥取市	48,836	741	2,022	2,763	5.7	40	6	0	1.4	0.2	32	69.6	15	15	1	1	17	0.036
米子市	70,547	0	2,432	2,432	3.4	37	9	0	1.5	0.4	35	76.1	23	11	1	0	12	0.000
倉吉市	18,675	193	339	532	2.8	7	5	0	1.3	0.9	7	58.3	3	4	0	0	4	0.000
境港市	6,977	107	303	410	5.9	10	4	0	2.4	1.0	9	64.3	5	2	1	1	4	0.244
岩美町	4,854	98	0	98	2.0	2	0	0	2.0	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000
八頭町	10,641	418	101	519	4.9	7	0	0	1.3	0.0	5	71.4	5	0	0	0	0	0.000
若桜町	1,088	37	52	89	8.2	4	0	0	4.5	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	3,470	41	24	65	1.9	1	0	0	1.5	0.0	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000
湯梨浜町	5,486	143	57	200	3.6	3	0	0	1.5	0.0	3	100.0	1	2	0	0	2	0.000
三朝町	2,767	88	44	132	4.8	1	0	0	0.8	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	6,988	109	46	155	2.2	1	1	0	0.6	0.6	2	100.0	1	0	1	0	1	0.000
琴浦町	2,152	126	121	247	11.5	2	1	0	0.8	0.4	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
南部町	4,060	66	85	151	3.7	4	0	0	2.6	0.0	2	50.0	2	0	0	0	0	0.000
伯耆町	4,533	200	0	200	4.4	4	0	0	2.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	40	6	0	6	15.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	5,473	146	0	146	2.7	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日南町	2,377	24	75	99	4.2	1	0	0	1.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	1,783	7	0	7	0.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
江府町	1,575	70	0	70	4.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
合計	202,322	2,620	5,701	8,321	4.1	124	26	0	1.5	0.3	97	64.7	56	35	4	2	41	0.024
東部	68,889	1,335	2,199	3,534	5.1	54	6	0	1.5	0.2	39	65.0	21	16	1	1	18	0.028
中部	36,068	659	607	1,266	3.5	14	7	0	1.1	0.6	12	57.1	5	6	1	0	7	0.000
西部	97,365	626	2,895	3,521	3.6	56	13	0	1.6	0.4	46	66.7	30	13	2	1	16	0.028

(3) 平成7～26年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成26年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	定期検査結果																					
	健康指導対象者						健康指導対象者診断名															
	健康指導対象者 (平成26年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成27年10月31日現在の実人員)		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		その他			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	13	9	6	2	3	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	11	29	3	7	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	30	59	7	19	4	18	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	54	95	20	45	14	35	2	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
60～64歳	87	144	34	81	28	63	1	4	5	10	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0
65～69歳	141	214	57	115	37	95	1	2	15	14	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1	1
70～74歳	137	181	90	111	66	88	2	4	17	16	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1
75～79歳	84	155	41	95	29	73	1	6	6	13	3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1
80歳以上	86	191	48	94	37	69	2	2	5	18	0	1	0	0	0	1	0	1	3	2	1	0
計	643	1,077	306	569	221	449	9	18	57	82	5	3	1	0	0	3	3	2	4	9	6	3
合計 (比率%)	1,720		875 (100)		670 (76.6)		27 (3.1)	139 (15.9)		8 (0.9)		1 (0.1)	3 (0.3)	5 (0.6)	13 (1.5)	9 (1.0)						

2) 平成26年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	定期検査結果																					
	健康指導対象者						健康指導対象者診断名															
	健康指導対象者 (平成26年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成27年10月31日現在の実人員)		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		その他			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	8	7	1	3	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	16	15	4	8	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
60～64歳	23	30	6	12	1	4	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	1
65～69歳	32	50	18	27	3	7	0	7	12	0	2	0	1	1	0	0	0	6	4	1	1	1
70～74歳	43	90	19	54	5	20	0	1	12	15	0	4	0	0	0	0	0	1	9	1	5	5
75～79歳	52	129	31	73	8	19	0	1	17	43	3	1	0	0	1	2	1	0	3	1	2	2
80歳以上	92	251	44	107	14	40	0	0	24	58	2	6	0	0	0	1	3	1	1	0	0	1
計	272	572	123	284	34	94	0	2	64	136	5	13	0	0	2	4	4	3	10	22	4	10
合計 (比率%)	844		407 (100)		128 (31.4)		2 (0.5)	200 (49.1)		18 (4.4)		0 (0.0)	6 (1.5)	7 (1.7)	32 (7.9)	14 (3.4)						

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～26年度肝臓がん検診結果

年齢	一次検診 受診者数 a		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 b		陽性率 (%) c = b / a			陽性者数 d		陽性率 (%) e = d / a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	4,042	8,426	115	170	2.85	2.02	2.29	39	48	0.96	0.57	0.70
45～49歳	3,199	7,083	124	211	3.88	2.98	3.26	40	100	1.25	1.41	1.36
50～54歳	3,473	8,549	139	259	4.00	3.03	3.31	41	156	1.18	1.82	1.64
55～59歳	4,446	10,678	127	292	2.86	2.73	2.77	79	249	1.78	2.33	2.17
60～64歳	9,326	15,740	265	315	2.84	2.00	2.31	207	470	2.22	2.99	2.70
65～69歳	10,869	15,738	277	315	2.55	2.00	2.22	303	519	2.79	3.30	3.09
70～74歳	9,221	13,346	172	227	1.87	1.70	1.77	310	467	3.36	3.50	3.44
75～79歳	3,768	5,988	65	82	1.73	1.37	1.51	150	228	3.98	3.81	3.87
80歳以上	2,710	4,665	33	69	1.22	1.48	1.38	113	151	4.17	3.24	3.58
計	51,054	90,213	1,317	1,940	2.58	2.15	2.31	1,282	2,388	2.51	2.65	2.60
合計	141,267		3,257		2.31			3,670		2.60		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成26年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	61	女	癌なし	TAE	15. 3. 26	2 個	S45	72×72	腫瘍	無	B	3
2	74	女	肝癌								C	3106
3	77	女	癌なし								C	2.5
4	61	男	癌なし	治療なし		> 4 個	S24578	68×60	腫瘍	有	C	19.3
5	73	女	癌なし								C	
6	86	女	肝癌								C	14219

2) 平成26年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA
1	67	男	肝癌	切除	14. 5. 27	単発	S5	20×20	腫瘍	無	B	3.0	14
2	66	女	肝癌	T/R	14. 9. 10	単発	S3	25×25	腫瘍	有	B	32.0	
3	73	男	肝癌治療後	T/R	14. 4. 16	2 個	S45	10×17		無	B	3.0	26
4	77	女	肝癌	TAE	12. 10. 17	2 個	S6	7×14	腫瘍	有	C	119.1	
5	78	女	肝内胆管癌	切除	15. 12. 17	単発	S5	15×15	腫瘍		C	2.1	9799
6	89	女	肝癌	調査中							B	1.7	16
7	89	女	調査中								C		
8	67	男	癌なし								C		
9	78	男	肝癌	TAE	11. 6. 12	> 4 個	S345678	50×50	腫瘍	有	C	839.0	3144
10	66	女	肝血管腫								C	2.2	13
11	75	男	肝血管腫								C	0.8	16
12	80	女	癌なし								B	15.0	17932
13	60	女	癌なし								B	4.4	13
14	61	女	癌なし								B	2.1	13
15	79	女	癌なし								C	1.3	32176
16	90	男	癌なし								C	1.8	14588
17	72	男	肝癌	25年度報告済							B		
18	80	男	肝癌	19年度報告済							C		
19	79	女	肝癌	24年度報告済							C		
20	79	女	肝癌	23年度報告済							C		
21	86	女	肝癌	16年度報告済							C		

2) 平成10年度～平成25年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	再発、6年11か月後死亡
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	1年3か月後他病死
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	4年後再発
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、3年5か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	再発、9年8か月後死亡
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	再発、6年8か月後死亡
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	2か月後死亡
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	再発、6年4か月後死亡
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	再発、7年3か月後死亡
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後死亡
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	再発、8年2か月後死亡
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	5か月後死亡
48	73	男	切除	00. 3.	不明	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	有	B	4年3か月後再発
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	再発、3年3か月後死亡
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	無	C	再発、3年10か月後死亡
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	4年1か月後他病死
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	再発、7年7か月後死亡
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発
61	68	男	肝癌否定		(単)	S6	13×13)		無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	再発、6年10か月後他病死
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	再発、7年3か月後死亡
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	再発、12年11か月後死亡
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	再発、6年1か月後死亡
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	2年10か月後再発
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	再発、1年後死亡

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
74	80	男女	RFA	02. 9. .	単 発	S8		腫瘍	有	C	再発、9年6か月後死亡
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単 発	S8	16×16			B	7年1か月後再発
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	再発、8年後死亡
77	73	男	切除	05. 3. 14	単 発	S45	42×28	腫瘍	無	B	再発、3年後死亡
78	74	男	切除	06. 12. 21	単 発	S458	35×30	腫瘍	無	C	再発、8年10か月後死亡
79	60	女	RFA	07. 7. .	単 発	S7	17×12	腫瘍	無	C	3年4か月後再発
80	87	女	未治療		単 発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2年7か月後他病死
81	80	女	TAE	03. 3. .	単 発	S2/3	20×20			C	再発、8年7か月後死亡
82	77	女	TAE	08. 10. 7	単 発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2年後死亡
83	70	男	RFA		単 発	S5	12×12	腫瘍	有	B	無再発生存中
84	77	女	TAE	09. 3. 24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1年3か月後肝不全死
85	84	女	T/P	09. 9. 7	単 発	S7	30×30	腫瘍	有	C	2年1か月後肝不全死
86	72	女	TAE	09. 12. 18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	再発、3年2か月後死亡
87	79	女	TAE	10. 11. 18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	4年1か月後再発
88	89	女	TAE	09. 10. 6	>4個		20×20	腫瘍		C	3年9か月後死亡
89	76	女	T/R	08. 5. 12	単 発	S3	25×25	腫瘍	有	C	5年2か月後再発
90	76	女	T/R	09. 7. 22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1年7か月後死亡
91	79	男	T/R	10. 3. 25	単 発	S7	23×23		有	C	2年11ヶ月後他病死
92	85	女	切除	10. 3. .	単 発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
93	66	男	TAE	09. 7. .	>4個	S1		浸潤	有	B	1年10か月後死亡
94	73	女	切除	09. 10. 20	単 発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中
95	68	女	切除	09. 8. 21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中
96	75	男	TAE	08. 1. .	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	再発、5年3か月後死亡
97	78	男	精査中							C	
98	75	男	TAE	07. 2. 11	単 発	S6			無	B	7か月後再発
99	66	男	TAE	11. 1. 20	2個	S5/6	12×12	腫瘍	無	C	無再発生存中
100	80	女	RFA	10. 11. 09	単 発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	3年8か月後再発
101	64	女	TAE	10. 11. .	単 発	S6	5×5	腫瘍	無	C	再発、5年1か月後死亡
102	75	女	切除	08. 7. 30					無	C	無再発生存中
103	75	男	TAE	10. 12. 08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	無	C	再発、2年5か月後死亡
104	69	女	RFA	10. 4. .	単 発	S6	18×18		無	C	3年10か月後再発
105	79	男	TAI	09. 10. 26	2個	S7/8	18×15	腫瘍		C	2年8か月後死亡
106	71	女	切除	07. 8. 17	2個	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	再発、4年5か月後死亡
107	85	女	RFA	10. 7. .	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	再発、5年4か月後他病死
108	84	女	RFA	09. 10. 30	単 発	S8	15×15	腫瘍	有	C	無再発生存中
109	65	男	T/R	10. 3. .	単 発	S5	24×24		有	B	再発、4年11か月後死亡
110	57	女	切除	11. 1. 18	単 発	S6	40×25	腫瘍	無	B	無再発生存中
111	78	女	肝癌否定		単 発	S5	5×5		有	C	5か月後腫瘍消失
112	87	男	RFA	11. 4. 7	単 発	S5	15×16	腫瘍	無	C	無再発生存中
113	67	男	肝がん否定							C	
114	77	女	RFA	11. 7. .	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	1年2か月後再発
115	92	女	TAE	11. 10. 4	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡
116	78	女	T/R	10. 3. 24	単 発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	9か月後再発
117	76	男	切除	11. 7. 26	単 発	S7	80×75	腫瘍	無	C	無再発生存中
118	75	男	RFA	11. 7. .	単 発	S6	14×14	腫瘍	有	B	3年2か月後再発
119	84	男	転移性肝癌	(肺大細胞癌)						B	5か月後死亡
120	75	男	RFA	13. 10. 2	単 発	S7	15×14	腫瘍	有	B	1年11か月後再発
121	75	男	切除	11. 6. .					有	B	4年0か月後他病死
122	70	女	PEI	12. 5. 9	単 発	S4	27×20	腫瘍	有	C	再発、8か月後死亡
123	83	男	TAE	11. 8. 30	単 発	S6	35×30	腫瘍	無	C	2年7か月後再発
124	75	女	RFA	08. 10. .	単 発	S5	20×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
125	80	女	TAE	12. 11. 20	単 発	S1	40×40	腫瘍	無	C	2年0か月後再発
126	86	男	T/R	13. 11. .	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	無再発生存中
127	78	女	RFA	12. 3. 1	単 発	S4	8×9		有	C	1年10か月後再発
128	82	女	RFA	12. 3. 14	単 発	S7	13×9	腫瘍	有	C	再発、2年10か月後死亡
129	87	女	TAE	12. 7. 6	2個	S3	20×15	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡
130	85	女	RFA	12. 2. 13	単 発	S5	10×17	腫瘍	無	C	再発、3年8か月後死亡
131	76	男	TAE	12. 6. 20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	3年1か月後死亡
132	81	女	TAE	10. 11. 10	単 発	S3	15×15	腫瘍	有	C	再発、2年6か月後死亡
133	68	男	切除	13. 5. 20	単 発	S5	35×38	腫瘍	無	B	
134	60	女	TAE	13. 8. 26	単 発	S3	18×15	腫瘍	有	B	無再発生存中
135	70	女	RFA	14. 4. .	単 発	S1	14×14	腫瘍	無	B	無再発生存中
136	83	女	T/R	13. 10. .	単 発	S7	26×26	腫瘍	無	C	無再発生存中
137	88	男	TAE	13. 10. 31	>4個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	1年後再発
138	79	女	切除	13. 3. .	単 発	S8	45×45	浸潤	無	C	1年3か月後死亡
139	73	男	T/R	13. 7. 2	>4個	両葉	24×24		無	C	1年8か月後死亡
140	80	女	T/P	13. 5. 1	単 発	S5	30×30	腫瘍	無	C	9か月後再発
141	94	男		12. 8. 6						C	
142	83	女	TAE	07. .	>4個	S157		浸潤	有	C	

3) 平成7年度～平成25年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C	再発、2年1か月後死亡
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C	再発、15年1か月後死亡
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1,5	25×25	腫瘍	有	C	再発、3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1,4	30×30	腫瘍	有	C	再発、3年11か月死亡
20	67	女	切除	06.08.09	単発	S8	25×25	腫瘍	有	B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100	腫瘍	有	C	37日後死亡
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	2年6か月後死亡
24	61	男	動注/放射	11.10.	>4個	骨転移あり		腫瘍	有	B	10か月後死亡
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘍	有	C	1年5か月後再発
26	77	男	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘍	有	B	無再発生存中
27	72	男	TAE	13.11	>4個	S4	44×39	腫瘍	有	B	1年5か月後死亡

7. 全国がん検診実績との比較

平成25年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

	区 分	平成25年度実績 (鳥取県)	平成25年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	24,506,995	○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く (以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	25,687	2,364,411	
	受診率 (%)	31.0	9.6	
	受診率順位	—	—	
	要精検者数 (人)	691	321,118	
	要精検率 (%)	7.70	13.58	
	精検受診者数(人)	548	259,303	
	精検受診率 (%)	79.3	80.8	
	がんの者 (人)	76	6,066	
	がん発見率 (%)	0.30	0.26	
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	66,672	22,083,258	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率 () を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,933,049) + (4,021,402) - (1,010,614)}{(22,083,258)} = 31.1$ 鳥取 $\frac{(24,383) + (24,695) - (13,355)}{(68,920)} = 51.8$
	受診者数 (人)	24,716	3,933,049	
	受診率 (%)	37.1 (51.8)	(31.1)	
	受診率順位	(3) 位	—	
	要精検者数 (人)	366	87,392	
	要精検率 (%)	1.48	2.22	
	精検受診者数(人)	299	61,682	
	精検受診率 (%)	81.7	70.6	
	がんの者 (人)	25	2,968	
	がん発見率 (%)	0.10	0.08	
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	24,667,727	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	25,232	3,961,043	
	受診率 (%)	30.5	16.1	
	受診率順位	4位	—	
	要精検者数 (人)	955	182,061	
	要精検率 (%)	3.78	4.60	
	精検受診者数(人)	849	143,906	
	精検受診率 (%)	88.9	79.0	
	がんの者 (人)	15	4,408	
	がん発見率 (%)	0.06	0.11	

区 分		平成25年度実績 (鳥取県)	平成25年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	49,435	14,679,109	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,072,935) + (2,030,258) - (353,167)}{(14,679,109)} = 25.3$ 鳥取 $\frac{(14,617) + (13,981) - (1,498)}{(50,862)} = 53.3$
	受診者数 (人)	14,666	2,072,935	
	受診率 (%)	29.7(53.3)	(25.3)	
	受診率順位	(2)位	—	
	要精検者数 (人)	1,108	195,060	
	要精検率 (%)	7.55	9.41	
	精検受診者数(人)	1,012	165,765	
	精検受診率 (%)	91.3	85.0	
	がんの者 (人)	59	8,039	
	がん発見率 (%)	0.40	0.39	
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	24,950,553	
	受診者数 (人)	30,099	4,780,888	
	受診率 (%)	36.4	19.2	
	受診率順位	3位	—	
	要精検者数 (人)	2,522	650,229	
	要精検率 (%)	8.38	13.60	
	精検受診者数(人)	1,893	428,863	
	精検受診率 (%)	75.1	66.0	
	がんの者 (人)	65	20,282	
	がん発見率 (%)	0.22	0.42	

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

2 受診率順位は厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値と比較した順位

3 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定

精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」

4 要精検者数等については、平成20年度分から翌年度集計となったため、空欄としている

5 平成25年度から全国数値は、69才以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69才以下の実績で比較している。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

平成26年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	25.8%		32.6%		
要精検率[X線のみ]	許容値	11.0%以下	8.6%	○	7.7%	○	
精検受診率[X線のみ]	許容値	70%以上	83.4%	○	80.7%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.36%	○	0.22%	○	[X線]0.136% [内視鏡]0.286%
陽性反応の集中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	2.1%	○	1.8%	○	

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	27.9%		33.0%		
要精検率	許容値	3.0%以下	4.3%		3.6%		
精検受診率	許容値	70%以上	87.8%	○	87.4%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.10%	○	0.05%	○	
陽性反応の集中度	許容値	1.3%以上	2.4%	○	1.5%	○	

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	30.2%		38.2%		
要精検率	許容値	7.0%以下	9.2%		7.6%		
精検受診率	許容値	70%以上	76.7%	○	76.2%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.27%	○	0.19%	○	
陽性反応の集中度	許容値	1.9%以上	3.0%	○	2.4%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	23.1%		39.3%		
要精検率	許容値	1.4%以下	1.15%	○	1.36%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	81.1%	○	81.7%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.07%	○	0.09%	○	
陽性反応の集中度	許容値	4.0%以上	6.4%	○	6.5%	○	

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	16.0%		30.0%		
要精検率	許容値	11.0%以下	7.35%	○	7.86%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	92.1%	◎	92.0%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.49%	○	0.45%	○	
陽性反応の集中度	許容値	2.5%以上	6.60%	○	5.67%	○	

※乳がんと子宮がんの受診率の下端（ ）は、国指標は隔年検診であるので比較のため算定

Ⅲ. 平成27年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成27年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業名	開催日時	場所	出席者	内容
胃がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成28年2月6日(土) 午後4時～午後6時	倉吉市 倉吉交流プラザ	139名	演題：「胃がん診療における最近の話題」 講師：鳥取県立中央病院副院長 池口正英先生 症例検討 東部—1例：鳥取生協病院 宮崎慎一先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 木下英人先生 西部—1例：山陰労災病院 向山智之先生
子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成28年2月14日(日) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	51名	演題：「HPV検査と子宮頸がん検診」 講師：北海道大学大学院医学部生殖内分秘・腫瘍学分野 教授 櫻木範明先生 症例提示5例
肺がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成28年2月27日(土) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	89名	演題：「肺がん検診における胸部X線読影の注意点について—症例から学ぶ—」 講師：公益財団法人岡山県健康づくり財団附属病院院長 西井研治先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 澄川 崇先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 大野貴志先生 西部—1例：鳥大附属病院胸部外科 窪内康晃先生
乳がん	乳がん検診従事者講習会及び第22回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	平成27年8月22日(土) 午後3時30分～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	71名	演題：「乳がん検診—視触診と自己検診指導—」 講師：公益財団法人 鳥取県保健事業団参与 湯村正仁先生 症例検討 東部—2例：鳥取赤十字病院 山口由美先生 中部—1例：野島病院 林 英一先生 西部—1例：鳥大医学部 廣岡保明先生
大腸がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成27年9月6日(日) 午後2時30分～午後4時30分	倉吉市 鳥取県中部医師会館	74名	演題：「大腸腫瘍の内視鏡診断と治療」 講師：鳥取県立中央病院内科内視鏡室長 柳谷淳志先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 岡本 勝先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 林 暁洋先生 西部—1例：鳥大附属病院第二内科 八島一夫先生
肝臓がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成28年2月20日(土) 午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	99名	演題：「肝臓診療—最近の話題—」 講師：鳥取大学医学部附属病院第二内科診療科群助教 野智光先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 満田朱理先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 永原天和先生 西部—1例：山陰労災病院 西向榮治先生

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成28年2月6日（土） 午後4時～午後6時

場 所 倉吉交流プラザ

東・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取生協病院 宮 崎 慎 一

70歳代、男性

既往歴：10歳代 虫垂炎手術、50歳 胆嚢炎にて胆摘

検診歴：平成24年の胃がん検診（車検診）では異常なし。平成25年胃がん検診（内視鏡）にて胃体下部大彎に陥凹性病変を指摘される。

経 過：近医での生検でGroup5、adenocarcinoma（por、sig）であり、精査加療目的に当院紹介。病変は胃体下部大彎の褪色调の陥凹性病変であり、深達度はMと考えられた。しかし2×3cm大の未分化型癌であり、手術適応と考え消化器外科に紹介。平成26年1月、腹腔鏡下幽門側胃切除を施行。病理結果はM、Gre、Type 0-IIc、22×31mm、sig、pT1a、ly0、v0、pN0、pPM0、pDM0、Stage IAであった。再発なく2年が経過している。

考 察：平成24年のフィルムを見直すと、病変は胃体下部大彎のごく淡いバリウム斑として指摘可能であった。しかし病変を指摘できるのは1枚のみであり、検診での拾い上げは困難であったかもしれない。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 木 下 英 人

60歳代、女性

既往歴：骨粗鬆症、腰椎圧迫骨折、虫垂炎

検診歴：平成26年6月の胃がん検診では、異常は指摘されなかった。

平成27年8月、胃がん検診で異常を指摘。

経 過：上記精査目的に当院受診。特に自覚症状はなし。上部消化管内視鏡検査にて、胃体中部後壁にIIc病変を認めた。生検、病理組織学的検査で、Group5、signet-ring cell carcinomaの所見であった。

造影CTでは遠隔転移やリンパ節転移の所見は認めず、手術適応と考え、消化器外科に紹介した。平成27年11月、腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した。

切除標本の病理結果は、Adenocarcinoma、sig、M、ly0、v0、PM-、DM-、pStage1Aであった。術後経過は良好である。

考 察：平成25年、26年の検診画像では、はっきりと病変部は指摘できなかった。継続した検診により、早期の段階で治療につながった一例であった。読影の際には、注意深い観察を心がける必要があると考えられた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 向山 智之

78歳、男性

主 訴：胃癌検診で異常を指摘

既往歴：特記なし

現病歴：平成23年車検診で異常なし

平成24年車検診で「食道粘膜異常」を指摘され、近医で上部消化管内視鏡検査行われるが異常なし。

平成25年車検診で異常なし。

平成26年車検診で「前庭部欠損様」を指摘される。

経 過：上部消化管内視鏡検査で約30mm大の1型腫瘍を認め、粘液型腺癌と診断。幽門側胃切除を行った。

病 理：T4a、SE、28×27mm、Muc、por、ly1、v1、N1、P0、H0、M0
StageIIIA

検 討：平成25年の胃レントゲンを遡及的に検討したが、病変の指摘は困難であった。病理結果から非常に悪性度の高い腫瘍であり、急速に腫瘍が増大した可能性が考えられた。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成28年2月14日（日） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科 大石徹郎講師の進行により、施設検診5例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科 野中道子助教より下記の5症例が提示された。26年度から施設検診においても液状化検体が全面的に導入された。

症例1は24年度検診で扁平上皮系の異常（ASC-US～LSIL）を指摘されて経過観察となった後に腺系病変を生じたもの、症例2は26年度検診ではじめて腺異型（AGC）を指摘されたもので、いずれも最終組織診断は上皮内腺癌に軽度～高度異形成を伴っていた。症例3は24年度検診で異常を認めなかったが、26年度に浸潤子宮頸癌の診断に至った。症例4は同様に23年度検診では異常を認めず、26年度検診で浸潤子宮頸癌が発見された。症例5は子宮内膜癌と卵巣癌との重複癌であり、内膜細胞診が契機となって診断に至った。

腺系の異常は扁平上皮系の異常に比して細胞診やコルポ診による診断が難しく、注意が必要である。前回受診（異常なし）から2年後、3年後の浸潤頸癌発見例については、細胞診断上の見逃しは標本の見直しによっても指摘できず、毎年受診の重要性が示唆されるものであった。また、検体採取器具や検体処理法の特性を再確認する必要性について、参加者の間で認識が共有された。

平成27年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果		精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
								組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例1	28歳	米子市	H24. 9. 13	母と子の長田産科婦人科クリニック(住民)	直接塗抹	ASC-US					
			H24. 10. 9	母と子の長田産科婦人科クリニック(診療)	直接塗抹	ASC-US					
			H25. 1. 26		直接塗抹	ASC-US					
			H25. 4. 27		直接塗抹	ASC-US					
H25. 8. 3	直接塗抹	ASC-US									
H25. 11. 16	直接塗抹	ASC-US									
			H26. 4. 5		直接塗抹	LSIL					
			H26. 7. 5		直接塗抹	LSIL					
			H26. 10. 2	母と子の長田産科婦人科クリニック(住民)	液状	HSIL(中等度異形成) HPV(+)18型、その他	鳥取大学医学部附属病院	Adenocarcinoma in situ		pTisNxMx	鳥取大学医学部附属病院
症例2	36歳	米子市	H26. 12. 8	母と子の長田産科婦人科クリニック	液状	AGC HPV(+)18型	鳥取大学医学部附属病院	Adenocarcinoma in situ		TisNxMx	鳥取大学医学部附属病院
症例3	38歳	米子市	H24. 12. 8	脇田ウイメンズヘルスケアセンター	直接塗抹	NILM	鳥取大学医学部附属病院	Squamous cell carcinoma	I B1期	pT1b1N0M0	鳥取大学医学部附属病院
			H26. 12. 5		液状	ASC-H HPV(+)16型					
症例4	40歳	米子市	H23. 10. 27	中曾産婦人科医院	直接塗抹	NILM					
			H26. 10. 27	母と子の長田産科婦人科クリニック	液状	SCC HPV(+)16型	鳥取大学医学部附属病院	non - keratinizing Squamous cell carcinoma	I B2期	T1b2NxM0	鳥取大学医学部附属病院
症例5	39歳	米子市	H23. 10. 11	脇田ウイメンズヘルスケアセンター	直接塗抹	頸部：NILM 体部：なし 頸部：NILM 体部：なし 頸部：NILM 体部：なし 頸部：AGC HPV(-) 体部：陽性	鳥取大学医学部附属病院	重複痛 Endometrioid adenocarcinoma (G3) 卵巣癌(明細胞腺癌)	I A期 III C期	pT1aN0M0 pT2cN1M0	鳥取大学医学部附属病院
			H24. 10. 20		直接塗抹						
			H25. 11. 2		液状						
			H26. 9. 8		液状						

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成28年2月27日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 澄川 崇

症 例：61歳、男性

主 訴：特になし（胸部異常陰影）

既往歴：胃潰瘍

生活歴：喫煙 20本/日×40年

常用薬：なし

現病歴：毎年肺がん検診を受けていたが異常を指摘されたことはなかった。X年の検診で左上肺野の結節影を指摘され当院を受診。

臨床経過：CTで左上葉に19mm大のspiculaを伴う結節影を認め、CTガイド下肺生検で扁平上皮癌と診断した。cT1bN1M0、stageIIAとして左上葉切除術を施行されたが、術後診断としてはpT2aN2M0、stageIIIAであった。そのため術後補助化学療法を行い、現在は経過観察中である。

考 察：後から検診の胸部単純X線を見直すとX-2年とX-1年とを比較すると左上肺野にわずかに濃度上昇が認められ、結果的にみればE判定にしても良かった症例であると考えられる。比較読影の重要性が再認識された1例と考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 大野 貴志

「喀痰細胞診で発見された両側肺門部早期肺癌の一例」

症 例：60歳代、男性。

主 訴：検診異常。（喀痰細胞診 D判定）

現病歴：平成24年、検診にて、胸部レントゲン、喀痰細胞診を施行されたが、異常を指摘されなかった。

平成26年8月、検診にて、胸部レントゲンで喀痰細胞診でD判定を指摘され、当院受診された。胸部レントゲンは異常を指摘されなかった。

既往歴：慢性肺気腫、気管支喘息

家族歴：特記すべきことなし

生活歴：喫煙 40本×50年

血液検査：特記すべき所見なかった。腫瘍マーカーも、CEA 3.7 ng/mL、SCC 1.1 ng/mL、CYFRA 0.8 ng/mL、ProGRP 30.7 ng/mL、NSE 12.4 ng/mLと正常であった。

呼吸機能検査：VC 3.60L、%VC 102.7%、FEV1.0 2.55 L、FEV1.0% 70.8%

臨床経過：初診時のレントゲンで、肺癌を疑う異常影は指摘できなかった。胸部CTでも、肺癌を疑う異常影は指摘できなかった。3回の気管支鏡検査にて、右B7、左B3、左B6に隆起性病変を認め、細胞診にて、すべてclassV（扁平上皮癌）と診断された。全身検索を行い、c-T1aN0M0と診断した。右S7区域切除術を行い、呼吸機能改善後、左上大区切除術とS6区域切除術を同時に行う方針とした。（全て断端の術中迅速病理診断併用）

まず、右S7ウェッジ切除術を行ったが、断端に癌陽性であったため、断端の癌陰性を確認後、右S7スリーブ切除術を行った。術後1ヶ月で呼吸機能は、VC 2.75L、%VC 78.6%、FEV1.0 1.95 L、FEV1.0% 70.9%まで低下していたが、術後2ヶ月でVC 2.92L、%VC 83.3%、FEV1.0 2.20 L、FEV1.0% 75.3%まで改善した。左上大区切除術と左S6ウェッジ切除術を行った。術後経過は良好。最終病理診断では、すべての病変が、Squamous cell carcinoma in situであった。当院外来にて経過観察中で、日常生活、農業に特に問題はない。

本症例についての考察：

本症例は、胸部レントゲンを振り返ってみても、異常を指摘することは困難であった。また、胸部CTでも異常を指摘することは困難であり、画像で異常を指摘することは不可能であった。喀痰細胞診が陽性であり、気管支鏡を行い、診断に至った。喀痰細胞診による肺癌発見率は必ずしも高くないが、肺門部早期肺癌の発見に不可欠な検査であることを再認識した。

結 語：喀痰細胞診で発見された両側肺門部早期肺癌の一例を呈示した。

喀痰細胞診は、肺門部早期肺癌の発見に不可欠な検査であるが、検討を重ね、精度を高めていくことが重要である。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 窪 内 康 晃

症 例：70歳代、女性

主 訴：なし（胸部異常陰影）

既往歴：Kartagener's syndrome（内臓逆位）

現病歴：毎年、市の車検診を受診していたが、これまで（H22年以降）C判定のみが続いていた。

H26年10月、検診の胸部X線検査でE1判定を指摘され、当院を受診した。

生活歴：喫煙歴なし、飲酒歴なし

臨床経過：胸部X線検査では右上肺野に2×1cm大の淡い腫瘍陰影を認めた。胸部CTで右上葉S1に25×23×22mmの辺縁不整な腫瘍陰影を認めた。気管支鏡下肺生検でAdenocarcinomaと診断、PET-CTで腫瘍部位のみに早期相8.39、後期相11.21の高度集積を認めた。術前3DCTでは右肺血管は左肺血管の鏡面像の所見を示していた。右上葉肺癌cT1bN0M0 IAの診断で胸腔鏡下右上葉切除+ND2a-1を施行した。病理診断はInvasive adenocarcinoma、acinar-predominant (90%)、lepidic (10%) p11、G2、Lyl、V1、PLC (-)、pm0、R0、pN2 #5 (1/5) pT2aN2M0 IIIAであり、術後補助化学療法を行い、現在術後1年経過するが、無再発生存中である。

考 察：Kartagener's syndromeと肺癌の合併は少なく、本邦では20例ほどの学会報告がされている。内臓逆位を伴う場合、胸腔内の解剖学的位置関係が通常と異なるため手術難易度が高くなる。そのため、術前の3DCTが有用であると考えられる。また、内臓逆位の場合、胸部レントゲンの診断率が低下すると言われており、それに対しては画像を左右反転するなどの工夫が有用と考えられた。本症例では4年前の胸部レントゲンでも腫瘍が確認できるが、C判定となっており、内臓逆位に注意が奪われた可能性がある。その後もC判定が続き一度も精査がされなかったことは反省すべき点であった。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成27年8月22日(土) 午後3時30分～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 山口 由美

「平成25年度検診発見乳癌東部地区症例」

症例1：64歳、女性。

経年受診者で2年前に受診歴あり。左乳房の硬さを自覚していた。視触診で左乳房の硬結を指摘されるが、MMGは異常を指摘されなかった。MMGは比較読影で変化なしと判断されたが、後に検討すると左M領域の乳腺濃度は対側と比較して高かった(FAD)。USでは左C領域に21×11×10mmの不整な低エコー性腫瘤を認め、生検で乳癌と診断された。CTではリンパ節転移や他臓器転移は認めず、乳房温存術(Bp+SN)を施行した。乳癌は乳管内成分が主体で浸潤径は0.3cmであった。本例は精査時にC-C領域の撮影を加えることで、FADの存在はより明瞭となっており、検診時は1方向撮影であるが、2方向撮影を行うことで病変が同定できた可能性がある。

症例2：66歳、女性。

2000年頃より左乳房腫瘤に対してフォローが行われており、6回の細胞診が施行されていた。腫瘤の大きさ、性状に変化がないため2年前に検診を受診。その際、要精査となったが、過去の画像と比較して変化がないため、異常なしとされていた。今回の検診は視触診は異常なし、MMGで左M領域の不整形腫瘤のためカテゴリ3とされていた。USでは左C=Dに9.9×8.8×8.8mmの不整形低エコー性腫瘤を指摘され、細胞診で乳癌と診断された。CTではリンパ節転移や他臓器転移は認めず、乳房温存術(Bp+SN)を施行した。浸潤径は0.9×0.8cmであった。比較読影で変化を認めない腫瘤影は嚢胞や良性腫瘤の事が多く、毎回要精査になることで患者の負担につながる場合もある。変化のない腫瘤影をどのように扱っていくべきか検討する必要がある。

〔中部症例〕

提出者：野島病院 林 英一

「検診マンモグラフィーで指摘されなかった乳がん症例」

症 例：62歳、女性。

平成27年6月の乳がん検診で、右C領域の1cm大の腫瘤を指摘されたが、マンモグラフィーは異常なしであった。7月当院受診。再度マンモグラフィーを撮影したが、やはり異常所見は認められなかった。

エコーでは1cmの腫瘤あり、細胞診はClass Vであった。

乳がんの診断にて温存手術を施行。

病理結果：硬癌 n0 組織学的grade 1 Tripple negative

マンモグラフィーに映りにくい乳がんとして、①1cm以下の浸潤癌、②若い人の浸潤癌 ③石灰化や構築の乱れを伴わない非浸潤癌等があげられ、一定の頻度で存在する。正常乳腺組織との濃度差が乏しい乳がんは、雪中の兎の如く発見しにくい。

今後、乳がん検診はマンモグラフィー単独検診に移行していくが、こういった、マンモグラフィーに映らない乳がんをどうするか、重要な問題であると考ええる。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部保健学科病態検査学講座 廣岡保明

「視触診・マンモグラフィーで異常なく、超音波検査で発見された乳癌の一例」

症 例：60歳代、女性。

平成25年度の検診マンモグラフィー（以下、MMG）および視触診で異常なかったが、一次検診施設で同時に施行された超音波検査（以下、エコー）で左乳房CD領域に5mm、D/W>0.7、辺縁不整な低エコー腫瘤を認め、要精査と判定され、精密検査施設（当院）を受診された。当院外来では、視触診、MMGともに異常なかったが、エコーで左乳房CD領域に5mm、腫瘤内部に微細石灰化、前方境界線断裂（+）の低エコー腫瘤が見られ、カテゴリ-4と判定された。同部よりの穿刺吸引細胞診で陽性（悪性細胞+）と判定され、組織型は乳頭腺管癌>硬癌が疑われた。手術は左乳房温存療法（T1、No、Mo、StageI、Pap-tub.ca、ER+、PR+、Her2（1+）、MIB-1：16%）が施行された。術後は内分泌療法施行中。

今回のように、MMGで写らない（わかりにくい）乳癌は、(1) 微少な乳癌、(2) 高濃度乳房、(3) MMGの見落とし、(4) MMGの撮影範囲外、などが考えられる。

今後、MMGを読影するときの注意点として重要と思われる。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成27年9月6日(日) 午後2時30分～午後4時30分

場 所 鳥取県中部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 岡 本 勝

症 例：61歳、女性

主 訴：なし

家族歴：父、膵癌

喫煙 なし、飲酒 なし

既往歴：特記事項なし

常用薬：なし

現病歴：平成27年7月、検診便潜血陽性 ラテックス法。1回目1 μ g/ml、2回目267 μ g/ml

内視鏡所見：上行結腸に30mm大の顆粒集簇の丈の低い隆起性病変あり。LST-G顆粒均一型、粘膜下層深部浸潤はないと判断し、ESDを施行した。

病 理 結 果：Adenocarcinoma in adenoma、tub1、M、ly0、v0、pHM0、pVM0、Stage0、Cur (EA)

検 討：LST-G顆粒均一型は分割EMRの適応であるが、治療医前の内視鏡所見から癌の存在を正確に判断することは難しく、正しい病理組織診断のためにESDを施行した。癌の組織量は10%程度であり、分割切除では診断を誤る可能性がある。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 林 暁 洋

症 例：71歳、女性

主 訴：便潜血陽性

既往歴：膝関節炎

現病歴：毎年、大腸がん検診（便潜血検査）を受けているが、陰性だった。平成27年の大腸がん検診で要精査（+460、-）となり、2月16日当科受診となった。

身体所見：特記すべき所見なし

検査所見：3月13日に下部消化管内視鏡検査（CS）を行った。上行結腸に3mm大のIsポリープと憩室を認めた。横行結腸に5mm超のIIa病変を認め、その口側に約15mmのIIa病変を認めた。そのIIa病変はやや陥凹様のLST-NGで、NBI観察で不整な微小血管は認めたが、血管の太さ/分布が比較的均一（広島分類 Cltype）で、SM深部浸潤癌は否定的と考え、内視鏡的粘膜切除術（EMR）を試みた。生理食塩水による局注で浮揚し、non-lifting signは陰性だったが、スネアリングがうまくいかず、その日は治療を中止した。3月27日に再びCSを行った。EMRを試み、スネアリングがうまくいき、一括切除を行った。クリップで縫縮し、終了した。

病理診断：Adenocarcinoma、well differentiated tubular type、M、ly0、v0、pHM0、pVM0

検 討：毎年便潜血検査を受けており、初めて要精査となり、M癌を指摘して治療切除に至った。

NBI観察、non-lifting sign、脱気・送気による腫瘍の硬さの評価などで手術が必要なSM浸潤癌を否定している。横行結腸に残存病変があり、6ヶ月後にCS再検予定である。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院第二内科 八 島 一 夫

症 例：47歳、女性

主 訴：便潜血、血便

現病歴：元来貧血があり、近医にて鉄剤が投与されていた。

20XX年5月頃より排便後に鮮血が混じるようになり、肛門痛を自覚。

市販の痔薬にて対応していた。

20XX年9月初旬検診便潜血にて陽性を指摘される。

20XX年9月中旬に血便もあり、便潜血も陽性のため当科受診。

便狭小化あり。明らかな体重減少なし。

既往歴：5歳扁桃腺手術、貧血にて鉄剤内服。

家族歴：父 脳梗塞、母 子宮筋腫、長男 急性リンパ性白血病

生活歴：飲酒機会飲酒、喫煙 なし（受動喫煙なし）

現 症：軽度貧血、直腸診にて腫瘍触知

検査・治療経過：Rbから肛門管に約3～4cm大の2型直腸癌を認めた。術前化学放射線療法施行に腹腔鏡補助下直腸切除術、右側側方郭清を行った。

病理所見：Rb>P、Type3、Adenocarcinoma、tub2、MP、scirrhous、INFb、ly0、v0、N1、StageIIIa

検 討：リスクファクターの無い若年者においても、血便がある場合は必ず大腸癌を鑑別する必要がある。また、血便など大腸癌症状がある場合は大腸がん検診ではなく通常診療（大腸内視鏡検査など）を行うことが重要である。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成28年2月20日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満田 朱里

「慢性B型肝炎核酸アナログ投与中に、職場検診にてAFP高値が指摘されていたにもかかわらず発見が遅れてしまった肝細胞癌の1例」

鳥取赤十字病院 内科 満田朱理、岡田智之、松木由佳子、武田洋平、三村賢一、田中久雄

症 例：51歳 男性

主 訴：なし(肝腫瘍精査)

既往歴：特記すべきことなし

生活歴：飲酒1合未満/day 毎日、喫煙20本/day×31年

現病歴：開業医にて慢性B型肝炎(肝硬変ステージ)でフォロー中、腎機能悪化あり、200X年9月当科紹介となる。腎不全に関しては原因不明、血清ALP著明高値もあり骨軟化症が疑われ、鳥取大学整形外科紹介となる。精査によりアデフォビル(ヘプセラ)によるFanconi症候群と判明した。その後鳥取大学第二内科にて肝臓はフォローされていた。200X+3年6月当院人間ドック(職場検診)受診される。AFP63ng/ml(1年前14ng/ml)と増加あるもUSでは肝腫瘍は指摘されず、前医フォロー中とのことで、精査の通知がいかなくかった。ドック後、前医の定期USはドックから4カ月後の10月に施行され、肝腫瘍を指摘された(ドック前の定期USは2月であった)。

検査所見(Fanconi症候群発症時)：

WBC 3600/ μ l、Hb 11.7g/dl、Plt 10.7万/ μ l、T. bil 1.0mg/dl、D. bil 0.3mg/dl、AST 65 IU/l、ALT 49 IU/l、LDH 168IU/l、ALP 328 IU/l、ALP 1314 IU/l (ALP1 5% ALP2 +3 89% ALP5 6%)、 γ -GTP 117 IU/l、TP 7.2g/dl、Alb 4.2g/dl、ChE 191IU/l、T. Chol 112mg/dl、BUN 20mg/dl、Cr 1.5mg/dl、Na142 mEq/l、K4.0 mEq/l、Cl 114 mEq/l、Ca 9.2mg/dl、IP 1.9mg/dl、UA 2.1mg/dl、FBS 91mg/dl、PT 97%、HBeAg (+)、HBeAb (-)、HBV DNA検出せず、Intact-PTH 32pg/ml、Calcitonin 21.0pg/ml、1,25-(OH)2ビタミンD 17.4pg/ml、HA 154ng/ml、P-III-P 1.3U/ml、Urinary findings 尿糖4+ 尿蛋白1.5g/day

画像検査(Fanconi症候群発症時)：

骨シンチ；両側肋骨、右腸骨、両側仙腸関節部、左恥骨・坐骨、右大腿骨頭、右大腿骨大転子、両側大腿骨遠位、両側脛骨遠位、右腫骨に多発する異常集積。

画像検査(肝腫瘍発見時)：

腹部US；肝左葉に40cm弱の低エコーSOLおよび門脈左枝腫瘍塞栓、S7に15mm大の高エコーSOLを認めた。

ダイナミックMRI；肝S3に42*31mm大の腫瘍影。肝細胞相で低信号、早期相で濃染し、平衡相・後期相でwash outされ肝細胞癌(HCC)と診断。門脈浸潤あり(門脈臍部~P2合流部)。肝S7に12mm大の腫瘍影あり、早期相で辺縁に淡い濃染がみられ、こちらもHCCと診断。

血管造影検査；CTHA、CTAPにてダイナミックMRIと同様の結果が得られた。

経過：術前の腫瘍マーカーはAFP251ng/ml、PIVKA IIは437mAU/mlであった（肝腫瘍が指摘されるまでPIVKA IIの測定はなかった。）。術前診断はHCC（S2-3、S7、P2合流部浸潤）stage IV Aであり、肝左葉切除術＋S7部分切除術が施行された。組織型は中分化型HCCであった。

術後経過：200X＋3年10月25日肝切除術

200X＋4年2月 MRIにて多発再発あり

200X＋4年3月～12月 計8回4剤併用による肝動注化学療法（TAI）施行。

（繰り返しの治療で肝動脈狭小化）

200X＋5年7月 切離面近傍の再発をCTガイド下ラジオ波焼灼療法

200X＋5年9月 右声門癌にて喉頭部分切除

200X＋5年12月 右前区域からTAI＋尾状葉枝より肝動脈塞栓術

200X＋6年1月 TAI施行、肺転移およびL5～S4の骨転移を認める。

200X＋6年2月～3月 門脈腫瘍栓に対して放射線療法（2Gy×25＝50Gy）

200X＋6年4月 ネクサバル開始し、当科紹介

200X＋6年6月 永眠される

考察：慢性B・C型肝炎にて定期フォロー中、肝機能が落ち着いているのにも関わらず、AFPが漸増傾向の時にはUSのみならずダイナミックCTあるいはMRIを施行してみる必要がある。また、HCC発見においてAFPのみならずPIVKA IIも測定することは重要である。核酸アナログ製剤におけるAdefovirまたはTenofovir DF投与例では薬剤性Fanconi症候群の発症を念頭に常に腎機能や血清P濃度の推移に留意しなければならない。

結語：慢性B型肝炎核酸アナログ投与中に、職場検診にてAFP高値が指摘されていたにも関わらず発見が遅れてしまった肝細胞癌の1例を報告した。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 永原天和

「肝炎検査陽性者に対する院内での取り組みについて」

平成26年6月に電子カルテ上に肝炎検査結果および受診勧奨を表示するシステムを導入した。

調査1：2014年6月～2015年5月までの12ヶ月間を対象に、肝炎検査陽性者に対する受診勧奨、フォローアップ状況を調査した。

調査2：調査1で電子カルテ上の通知のみでは十分な受診勧奨につながっていないことが判明したため、診療補助員あるいは紙媒体による医師への直接的な通知を行い、2015年6月～2015年11月までの6ヶ月間を対象に、受診勧奨率やフォローアップ状況の変化を調査した。

結果

結果1：2014年6月～2015年5月の肝炎ウイルス検査数は、HBs抗原2,922件、HCV抗体2,866件であった。HBs抗原陽性は84件（2.9%）、HCV抗体陽性は86件（3.0%）であった。陽性者168例のうち76例（45%）は、当院消化器内科あるいはかかりつけ医で既に経過観察されていたが、92例（55%）は経過観察されていなかった。肝炎検査陽性者には電子カルテ上に肝炎検査結果および受診勧奨アイコンが表示されたが、適切に受診勧奨がなされたのは92例中49例（53%）で、43例（47%）は受診勧奨が行われておらずフォローアップ状況が不明なままだった。

結果2：2015年6月より診療補助員あるいは紙媒体による医師への直接的な通知介入を開始した。

2015年6月～2015年11月までの6ヶ月間の肝炎ウイルス検査数は、HBs抗原1,303件、HCV抗体1,279件であった。HBs抗原陽性は31件（2.4%）、HCV抗体陽性は33件（2.6%）であった。陽性者64例のうち30例（47%）は、当院消化器内科あるいはかかりつけ医で既に経過観察されていたが、34例（53%）は経過観察されていなかった。この34例について、電子カルテ上の表示に加えて診療補助員および紙媒体にて担当医への通知を徹底したところ、受診勧奨がなされたのは29例（85%）で受診勧奨率は大幅に改善していた。29例の内訳は、B型肝炎非活動性キャリアー6例、慢性B型肝炎3例、うち1例は核酸アナログ投与開始。慢性C型肝炎5例、うち2例はIFNフリー抗ウイルス療法導入。HCV-RNA陰性3例。またC型肝炎の1例でHCCが発見されRFAを実施した。そのほかの12例はかかりつけ医など他院への紹介となった。

結 語：肝炎ウイルス検査陽性であることを電子カルテ上に表示するのみでは約半数が受診勧奨されておらず対策としては不十分であった。診療補助員および紙媒体での通知を加えると適切に受診勧奨されるようになり有効な対策法であると考えられた。消化器内科受診の結果、抗ウイルス療法やHCCの治療に結びついた症例が少なからず存在することから、肝炎検査の結果を必ず受検者に通知し、適切に受診勧奨を行うことが極めて重要である。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

「糖尿病患者では、肝障害、HBc抗体に注意し肝臓がんの早期発見につなげよう」

山陰労災病院 消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、前田直人、孝田博輝、今本 龍、角田宏明、向山智之、謝花典子

日本糖尿病学会と日本癌学会により糖尿病と癌に関する提言では、糖尿病患者では大腸癌、肝臓癌、膵臓癌の発症リスク増加と関連が指摘され、がん検診の受診が推奨されている。2012年の鳥取県肝癌サーベイランス調査で初発肝癌の成因は、全161例中、HBVは29例（18%）、HCVは60例（37.3%）に対しNBNCは72例（44.7%）と増加している。同様に当院の過去3年間（2013～2015）の初発肝癌のうちNBNCが割合は、50%（34例）、44%（34例）、53%（36例）と約半数を占めるようになった。2015年度の当院初発肝癌全36例中、NBNCは19例（53%）、糖尿病は28例（78%）、HBV既感染は24例（67%）に見られ、9例（25%）が糖尿病でフォローされていたことが判明した。糖尿病患者でも、肝障害のある例、HBc抗体陽性者（既感染）は1年に1度以上の腹部超音波検査や腫瘍マーカーを行った方が良いと考えられる。1例を呈示する。

症 例：70代女性

主 訴：AFP高値

既往歴：17年前から近医で糖尿病、肥満、高血圧の加療中

現病歴：人間ドックも毎年受診し、胆汁うっ滞型肝障害を指摘されていた。

HBs抗原、HCV抗体は共に陰性。AFPの上昇を指摘されたが、USでは腫瘍描出不能だった。近医に再度受診し、AFP4810、PIVKAI19042、USで肝右葉のびまん型肝癌を疑われ紹介。

採 血：WBC9500/ μ l、Hb11.7g/dl、Plt23万/ μ l、AST29IU/l、ALT10IU/l、rGTP94IU/l、TBil 0.5mg/dl、Alb4.5g/dl、ZTT6.7、TTT1.2、Glu 99mg/dl、HbA1c 6.2%、PT89%、腫瘍マーカーAFP5200ng/ml、PIVKA-II9486mAU/ml、HBVs抗原陰性、s抗体陰性、c抗体陽性10.8（HBV既感染+）、HCV抗体陰性

腹部超音波検査：肝右葉 S8に8cm大のモザイク状腫瘤を指摘。中等度の脂肪肝。

腹部造影CT：肝S8に径8 cm大のHCC（被膜外伸展、娘結節、P8門脈浸潤）を認めた。腹部血管造影、門脈CT：HCC（VP1, stage 4A）と診断し、Segmental TACE（epiADR 50mg, lipiodol 6ml, Gelpert/mm）が行われた。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	14	26	345	4	11	93	7	13	168	25	50	606
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	3	9	40	12	85	141	8	21	78	23	115	259
乳 がん	1	9	28	2	22	56	1	4	33	4	35	117
大腸がん	7	12	254	5	7	105	5	16	109	17	35	468
肝臓がん	4	9	220	4	6	83	6	13	146	14	28	449
合 計	29回			27回			27回			83回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	H28. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中
肺がん一次検診医療機関	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中
乳がん一次検診医	H27. 4. 1～H29. 3. 31	平成28年度で廃止
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H27. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中	H27. 4. 1～H30. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H27. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中	H27. 4. 1～H30. 3. 31
肺がん検診精密検査	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	H26. 4. 1～H29. 3. 31
乳がん検診精密検査	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	H26. 4. 1～H29. 3. 31
大腸がん検診精密検査	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	H26. 4. 1～H29. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H28. 4. 1～H31. 3. 31	H30年度中	H28. 4. 1～H31. 3. 31

※「鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録実施要綱」は、平成28度をもって廃止。

国の「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」が改正され、平成28年度の検診から、マンモグラフィ単独検診が適用され、視触診は推奨されないこととなり、これを受けて、平成28年2月4日の「乳がん部会・乳がん対策専門委員会」において、今後の鳥取県の乳がん検診の方向性について協議した結果、視触診の精度管理は難しい、一次検診医の確保が困難であり、視触診を廃止する場合には、一次検診医、住民への事前周知が必要である等の意見を踏まえて、平成29年度から国の指針に沿って、検診項目については、問診及び乳房エックス線検査とする、ということが決定致しました。

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できることが望ましい。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンターマルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。(携帯型超音波装置は除く。)

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝臓治療研究会	全県 1回/年	3点

(鳥根県開催も対象)

(注) 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

あ と が き

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会では、各部会で検討を重ね、集団検診ばかりではなく施設検診の精度管理を行ってまいりました。「がん検診実施のための指針」が改正され、胃がん、乳がん検診について実施方法の見直しをすすめております。他県の動向も踏まえ、より良い検診となるよう努めてまいります。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第22報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

発刊に際し、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理事 岡 田 克 夫